資料－３
第18回平取ダム地域
文化保全対策検討会
平成29年3月22日

アイヌ文化環境保全対策事業

【沙流川流域地域文化調査業務】

2016(平成28)年度

各作業分野における取組・成果の概況

＜2017(平成29)年3月22日：平取ダム地域文化保全対策検討会 ＞

北海道平取町

アイヌ施策推進課アイヌ文化保全対策室

■ アイヌ文化環境保全対策事業の体制概念図　　2016（平成28）年度

◆アイヌの人たちを
はじめとする地域住民の
主体的参画

◆ウコウク（=リンク）
人と人、人と情報、情報と情報の
有機的なつながりを重視

地域住民
北海道民
日本国民
世界の人たち

国土交通省北海道開発局
室蘭開発建設部
沙流川ダム建設事業所
苫小牧河川事務所／二風谷ダム管理所

◆専門家との協働
専門家としての育成・修練

平取ダム地域文化保全対策検討会

平　取　町

平取アイヌ協会
北海道アイヌ協会／
平取アイヌ文化保存会／アイヌ語教室／
二風谷民芸組合等の関連団体

協議・調整・連携・協働

アイヌ施策推進課
アイヌ施策推進係／イオル整備推進係／
アイヌ文化保全対策係

調査事務局

調査協力者・機関
（町教育委員会、博物館・歴史館等）

作業管理スタッフ
文化環境保全調査担当学芸員

アイヌ文化保全対策室
各作業分野担当チーム（8チーム）
企画総括グループ／情報管理グループ／環境整備グループ

◆学習・公開の重視
双方向での創造的な協働

◆シミュレーション=
多角的・実証的データを
ふまえた予測と対策案提示

※ 対策室作業モットー ＝【 深める、高める、広める、そしてカタチにする 】

- ●深める　◇アイヌ文化への理解を深める。　◇地域とのつながりを深める。
- ●高める　◇調査員としての資質を高める。　◇調査・研究の専門性を高める。
- ●広める　◇視野とネットワークを広める。　◇成果を地域、社会に広める。
- ●カタチにする ◇蓄えた知見と技術を地域のためにカタチにする。◇地域・民族の願いと思いにそってカタチにする。

アイヌ文化環境保全対策事業

2016(平成28)年度
アイヌ文化保全対策室の作業体制・計画

＜ 沙流川流域地域文化調査業務 ＞ 1～8分野

作業分野		作業分野名　▼業務A＝分野1～5、8　▼業務B＝分野7、8
1		精神文化保全対策に関する調査
2	1	生物の生存環境現地調査 植物の保全対策に関する調査
	2	魚類の保全対策に関する調査
	3	動物の保全対策に関する調査
3		生活文化現地調査
4		文化景観の保全対策に関する調査
5		アイヌ文化の普及方策に関する調査
6		栽培実験の継続に関する調査
7		沙流川河道掘削における事前調査 （1）地域文化保全に関する調査 （2）河道掘削予定箇所現地調査
8		アイヌ文化保全対策の実施に向けた調整・整理

■ 作業分野別担当チームの編成

1	精神文化保全対策に関する調査	主担当	◎菊地みづき*1	◇長野　環 山本　雄
		副担当	○木村真奈美*1	
			黒川賢司　加藤拓夫	
2-1	生物の生存環境現地調査	主担当	◎黒川賢司	◇貝澤耕一 山本　雄
	植物の保全対策に関する調査	副担当	○加藤拓夫　藤川涼子　久保拓史	
2-2	魚類の保全対策に関する調査	(2)主担当	◎加藤拓夫	
		副担当	○黒川賢司　及川直美　久保拓史	
2-3	動物の保全対策に関する調査	(3)主担当	◎貝澤朱美	
		副担当	○川奈野弘美　藤川涼子　※萱野公裕（2分野全般）	
3	生活文化現地調査	主担当	◎川奈野弘美	◇木村真奈美 山本　雄
		副担当	○及川直美	
			藤川涼子　久保拓史	
4	文化景観の保全対策に関する調査	主担当	◎木村真奈美	◇長野　環 山本　雄
		副担当	○及川直美	
			藤川涼子	
5	アイヌ文化の普及方策に関する調査	主担当	◎山本　雄	◇長野　環 木村真奈美
		副担当	○菊地みづき*2	
			加藤拓夫*2　川奈野弘美　藤川涼子	
6	栽培実験の継続に関する調査	主担当	◎及川直美	◇貝澤耕一 山本　雄
		副担当	○黒川賢司	
			川奈野弘美　久保拓史	
7	沙流川河道掘削における事前調査 -(1)地域文化保全に関する調査 -(2)河道掘削予定箇所現地調査	主担当	◎長野　環	◇木村真奈美 山本　雄
		副担当	川奈野弘美	
			○貝澤朱美	
			黒川賢司　久保拓史	
8	アイヌ文化保全対策の実施に向けた調整・整理	主担当	◎吉原秀喜	◆佐藤和三
		副担当	○長野　環　山本　雄　木村真奈美	◇貝澤耕一
			*3 久保拓史　※萱野公裕	

*1*2は、産休・育休に伴う担当代理 *3は、とりまとめの補助　※臨時職員(6～12月)　◆アイヌ施策推進課課長

■ 運営課題別グループの編成

グループ名	グループ編成 ／ 担当事項		
企画総括G	◇長野 環　☆黒川賢司 ／ 加藤拓夫 企画総括 ＋ 保全対策具現化促進 ＋ 渉外	◇貝澤耕一 ＜相談員＞ 現地作業指導・安全対策	◇吉原秀喜 ＜学芸員／室長＞ 全体総括・調整
情報管理G	◇木村真奈美　☆貝澤朱美 ／ 川奈野弘美 ／ 久保拓史 情報管理 ＋ 報告書・コンテンツ編集 ＋ データベース管理		◇山本　雄 ＜学芸員／主事＞
環境整備G	◇山本　雄　☆及川直美 ／ 藤川涼子 ／ ※萱野公裕（菊地みづき） 田中真澄 環境整備 ＋ 文献・資材管理 ＋ 庶務		

■ 対策室内職員配置

◇吉原秀喜	◇木村真奈美
◇山本　雄	久保拓史

◇長野　環	
貝澤朱美	黒川賢司
藤川涼子	川奈野弘美

及川直美	◇貝澤耕一
加藤拓夫	萱野公裕 （菊地みづき）

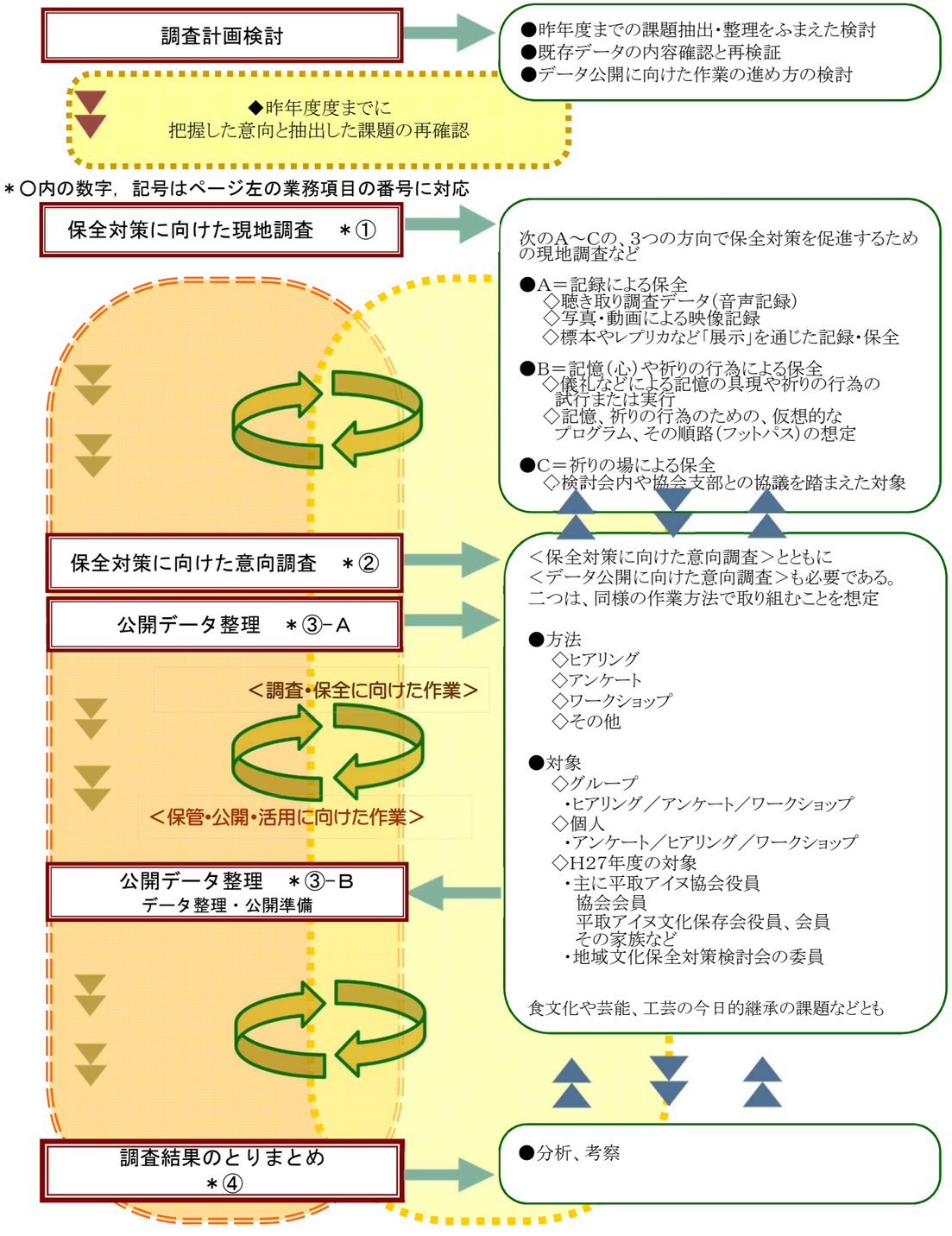
◆ アイヌ文化情報センター内　（〒055-0101平取町二風谷61番地）アイヌ文化保全対策室

■ 対策室作業モットー（室訓） ＝ 深める、高める、広める、そしてカタチにする

事業名	2016(平成28)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**1 - 精神文化保全対策に関する調査**
目的／課題 ※1 〈注〉※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆精神文化に係わる保全対象地における工事中モニタリングを実施するとともに調査結果を情報発信するためデータベースの構築を行う。カムイノミの作法の紹介を伴った形で、伝統的漁法や川洲畑の実証試験を行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【現地調査】 精神文化に係わる保全対象地における工事中モニタリングを実施する。また、カムイノミの作法の紹介を伴った形で、伝統的漁法や川洲畑の実証試験を行う。 ②【データベース構築】 調査結果について、情報発信するためのデータベースの構築を行う。 ③【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめ、課題の抽出を行い、次年度以降の調査計画（案）を作成する。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字，記号は上の欄に対応 ①⇒ A：対象の現況と抽出した課題を関連づけた説明文書／図版 B：保全対策の提案、設計概念・方針・工程等を明示した文書／図版 ②⇒ A：データの取り扱い方（保管・公開・活用）を検討するシステムとルールについての案 B：既往データの公開に向けた整理(電子化等)と上記システム・ルールに則した準備作業 ③⇒ ①・②の成果をまとめた報告書：次年度以降の調査計画(案)を含む
年間作業工程 （行程）概要	業務項目：4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 ◆調査計画検討 ①【現地調査】：現地調査の準備(効果的方法検討など)／町内と北海道内各地における儀礼等の事例調査を含む ②【データベース構築】：公開のシステムとルールを検討／既往データの公開に向けた整理(電子化等)／公開／非公開の仕分けなどの整理作業 ③【調査結果とりまとめ】：検討会などにおける報告／報告書作成 検討会または勉強会：○ ○ ○ ○ ○
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎菊地みづき＊1 ／ ○木村真奈美＊1 ／ 黒川賢司 ／ 加藤拓夫
補佐	◇長野 環 ／ 山本 雄 ［吉原秀喜］ ＊1は産休・育休に伴う担当代理
今年度 重点事項	★今日的環境のもとで、地域特性や社会情勢をふまえつつ、関係者の意向にそった精神文化保全のあり方をさぐり、方向性を見いだし、次世代に継承する基盤を築く。

■ 1 -精神文化保全対策に関する調査の計画基本フロー

【想定する成果の重点】
★今日的環境のもとで、地域の特性や社会情勢をふまえつつ、関係者の意向にそった精神文化保全のあり方をさぐり、方向性を見いだし、次世代に継承する基盤を築く。



1 - 精神文化保全対策に関する調査　～この分野の作業概況～

０１◆豊糠試験畑播種前のカムイノミの実施

０２◆湧水調査（カムイワッカ、ペロ）

０３◆儀礼に関する調査：ウトムヌカラ（結婚式）

０４◆事例調査：上貫気別シンヌラッパ

０５◆意向調査

０６◆特別採捕での儀礼（額平川）

０７◆儀礼に関する調査：チノミシリへのカムイノミ

０８◆紫雲古津試験畑収穫後のカムイノミの実施

０９◆眺望・祈りの場-2現地協議

１０◆保全対象地の整備（マタギ小屋跡地）

１１◆保全対象地の調査・記録

１２◆精神文化に関わる聴き取り調査

H28年度
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝今年度

A◆＝精神文化に係わる保全対象地における工事中モニタリングを実施するとともに調査結果を情報発信するためデータベースの構築を行う。カムイノミの作法の紹介を伴った形で、伝統的漁法や川洲畑の実証試験を行う。
B◆＝①【現地調査】 精神文化に係わる保全対象地における工事中モニタリングを実施する。また、カムイノミの作法の紹介を伴った形で、伝統的漁法や川洲畑の実証試験を行う。
②【データベース構築】 調査結果について、情報発信するためのデータベースの構築を行う。
③【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめ、課題の抽出を行い、次年度以降の調査計画(案)を作成する。
C◆＝★今日的環境のもとで、地域特性や社会情勢をふまえつつ、関係者の意向にそった精神文化保全のあり方をさぐり、方向性を見いだし、次世代に継承する基盤を築く。

1

精神文化保全対策に関する調査

■目次 【ⅰ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ⅱ】
◎作業状況―写真による業務説明 【ⅲ】

■調査の成果
Ａ．保全対策に向けた現地調査 【１】
ア）精神文化に係る平取ダム建設予定地及び周辺の保全対象地 【１】
①精神文化保全対策の基本的な考え方 【２】
イ）記録による保全 【３】
①精神文化に関わる保全対象地に関する情報一覧 【３】
②保全対象地における工事中のモニタリング 【５】
③今年度（H28 年度）行った儀礼に関する調査 【９】
＜ａ＞平取アイヌ協会青年部主催のウトムヌカラ（結婚する）に関する調査 【10】
＜ｂ＞平取アイヌ協会主催の上貫気別シンヌラッパ（先祖供養）に関する調査 【13】
ウ）先祖を思う記憶（心）と祈りの行為による保全 【15】
①豊糠試験畑播種前、収穫後のカムイノミ（神への祈り） 【15】
②紫雲古津試験畑播種前、収穫後のカムイノミ（神への祈り） 【17】
③魚類の保全対策に関する調査における儀礼 【20】
④宿主別チノミシリ（我ら祭る所）へのカムイノミ（神への祈り） 【21】
エ）場による保全 【25】
①眺望・祈りの場-４と眺望・祈りの場-２の保全対策案について 【26】
＜ａ＞これまで検討された保全対策案 【26】
＜ｂ＞今年度検討された保全対策案 【27】
②カムイワッカ（神の水）と呼ばれる湧き水の保全対策案について 【28】
＜ａ＞これまで検討された保全対策案 【28】
＜ｂ＞カムイワッカ（神の水）と呼ばれる湧き水、ペロ（コナラ）の枯れ木近付の湧き水の水量調査について 【30】
③すずらん群生地奥のマタギ小屋跡地の保全対策案について 【33】
Ｂ．データベースの構築 【34】
ア）保全対象地ごとのデータベースの構築 【34】
①データベースの内容と見方 【34】
②今年度行った作業と今後の作業内容 【35】
Ｃ．保全対策に向けた聴き取り調査 【36】
ア）精神文化に関わる聴き取り調査 【36】
イ）調査協力者・関係者を対象に行った意向の把握 【37】
ウ）豊糠試験畑・紫雲古津試験畑での儀礼体験に関する感想 【39】
Ｄ．今後の課題 【40】
ア）精神文化保全対策に関する調査における課題の整理表 【40】

■関連資料（電子データ版のみに所収）
○精神文化保全対象地別整理表 【関連資料－①】
○kamuynomi（カムイノミ所作パンフレット） 【関連資料－②】
○カムイノミ祝詞集Ｈ28 年度版 【関連資料－③】
○平取アイヌ協会主催：上貫気別におけるシンヌラッパ配布資料 【関連資料－④】
○平取アイヌ協会青年部主催：ウトムヌカラ関係資料 【関連資料－⑤】
○平取地域イオル再生事業：アシリチェプノミ配布資料 【関連資料－⑥】
○北海道アイヌ協会：北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルパ 【関連資料－⑦】
○チプサンケ実行委員会主催：チプサンケ配布資料 【関連資料－⑧】

②保全対象地における工事中のモニタリング

今年度も記録による保全として、精神文化に関わる保全対象地 15 か所の現状を確認するための現地調査を行いました。表中には調査時撮影した写真とともに目視での状況、特記事項等を保全対象地ごとに整理しました。今年度及びこれまでの保全対象地の記録の詳細については、精神文化保全対象地別整理表にてデータベースとして構築していますので【関連資料－①】を参照してください。

◎保全対象地の現地調査の概要

<table>
<tr><th>地図番号</th><th>調査箇所</th><th colspan="2">５月 30 日</th><th colspan="4">７月 27 日</th></tr>
<tr><td rowspan="4">★１</td><td rowspan="4">チノミシﾘ-１
（我ら祭る所）

パセオンカミ
（位の高い神への祈り）</td><td>保全対象地の現状</td><td>調査状況</td><td>保全対象地の現状</td><td>調査状況①</td><td>調査状況②</td><td>調査状況③</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td colspan="2">３月上旬～６月下旬まで猛禽類の繁殖期に伴い立ち入り禁止のため、宿主別橋から撮影。調査時には工事は行われていなかった。</td><td colspan="4">２－１植物の保全対策に関する調査の現地調査時に記録撮影。記録撮影時には、事前連絡が必要。当日は沙流川ダム建設事業所職員同行。チノミシﾘ（右岸）掘削の工程４段目の掘削が行われていた（調査状況①）。工事現場には掘削時の石が山裾に堆積しており（調査状況②）大きめの石が保管されていた（調査状況③）。</td></tr>
<tr><td colspan="2">10 月７日</td><td colspan="4">11 月 30 日</td></tr>
<tr><td>保全対象地の現状</td><td>調査状況</td><td>保全対象地の現状</td><td>調査状況①</td><td>調査状況②</td><td>調査状況③</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td colspan="2">宿主別チノミシﾘへのカムイノミ前日の現地確認時に記録。チノミシﾘの掘削が終了し、法面吹付けが３段目まで完了していた。</td><td colspan="4">当日は沙流川ダム建設事業所職員同行。チノミシﾘ（右岸）の法面の吹付けが終了していた（調査状況①）。今後は、堤体の高さに合わせてチノミシﾘを多少掘削する可能性もあるようだ（調査状況②）。５段目の下の岩盤が崩れそうな状態や調査の際に空けられた穴が数か所目立っていた（調査状況③）。</td></tr>
<tr><td colspan="7">記録写真で見るチノミシﾘ-１の改変の様子</td></tr>
<tr><td colspan="7">
2007 年 12 月撮影

2014 年 12 月撮影

2015 年 11 月撮影

2015 年 12 月撮影

2016 年１月撮影</td></tr>
<tr><td colspan="7">
2016 年２月撮影

2016 年７月撮影

2016 年 10 月撮影

2016 年 11 月撮影

2016 年 12 月撮影</td></tr>
</table>

③今年度（H28 年度）行った儀礼に関する調査

保全対策の一環として、聴き取り調査（音声記録）、スチルカメラ、ビデオ撮影による記録作業を実施し、現在行われているアイヌの儀式・儀礼が、どのような形で伝承されてきているのかを検証するために今年度行った調査について一覧として整理しました。次年度以降も引き続き調査等を行い、各地域での儀式のあり方を探りながら平取町で行う儀式の参考に出来るよう調査を深めていきたいと思います。記録のみで参加した儀礼については、当日配布された資料を今後の参考となるよう関連資料に所収しています。

●儀礼に関する調査一覧

《対策室が主体となって取り組んだ儀礼》

調査名	日付	祈詞	所作	祭具	供物	舞踊	行為	記憶	場所	報告書	特　色	開催地	写真	ビデオ
豊糠試験畑での播種前の儀礼	５月 20 日	●	●	●	●	—	●	●	●	●	川洲畑試験地で地域の協力者の指導のもと播種前に安全と豊作を祈願して行った儀礼	豊糠試験畑付近の沢沿い	●	●
紫雲古津試験畑での播種前の儀礼	５月 20 日	●	●	●	●	—	●	●	●	●	川洲畑試験畑試験地で地域の協力者の指導のもと播種前に安全と豊作を祈願して行った儀礼	紫雲古津試験畑敷地内	●	●
豊糠試験畑での収穫後の儀礼	10 月 14 日	●	●	●	●	—	●	●	●	●	川洲畑試験地で地域の協力者の指導のもと収穫後に収穫の感謝の気持ちを込めた儀礼	豊糠試験畑付近の沢沿い	●	●
紫雲古津試験畑での収穫後の儀礼	10 月 14 日	●	●	●	●	—	●	●	●	●	川洲畑試験地で地域の協力者の指導のもと収穫後に行った儀礼	紫雲古津試験畑敷地内	●	●
シペ（シロザケ）の特別採捕での儀礼（額平川）	９月 30 日	●	●	●	●	—	●	●	●	●	今年度初めてのシペ（シロザケ）の特別採捕の際、対策室で取り組んだ儀礼	沙流川支流貫気別川	●	●
シペの特別採捕での儀礼（アベツ川）	10 月４日	●	●	●	●	—	●	●	●	●	シペの特別採捕の際、対策室で取り組んだ儀礼	沙流川支流アベツ川	●	●

《地元で行われた儀礼に関して調査として協力・記録等で参加した儀礼》

調査名	日付	祈詞	所作	祭具	供物	舞踊	行為	記憶	場所	報告書	特　色	開催地	写真	ビデオ
ウトゥヌカラ（結婚する）	８月 20 日	●	●	●	●	—	●	●	—	●	チプサンケ（舟下ろし祭り）の前日に平取アイヌ協会青年部主催で行われているアイヌの伝統的な結婚式で青年部の方々と協働しながら儀式の準備から当日まで参加し、記録	平取町立二風谷アイヌ文化博物館ポロチセ	●	●
上貫気別におけるシンヌラッパ（先祖供養）	８月 28 日	●	●	●	●	—	●	●	—	●	平取アイヌ協会が主体となって今年度初めて行われた儀式を記録	平取町字旭の山林	●	●
宿主別チノミシリへのカムイノミ（神への祈り）	10 月 10 日	●	●	●	●	—	●	●	●	●	先祖が行っていたカムイノミを子孫が伝承していく為の儀礼を準備から当日まで参加し、記録	額平川と宿主別川の合流点付近	●	●

《地元や他地域で行われた儀礼に記録のみで参加した儀礼》　※関連資料に参加した際の配布資料等を所収

調査名	日付	祈詞	所作	祭具	供物	舞踊	行為	記憶	場所	報告書	特　色	開催地	写真	ビデオ
第 33 回 北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルパ	８月５日	—	●	●	●	●	●	—	●	—	北海道アイヌ協会関係者及び、大学関係者が参加し、毎年行っている儀式を記録	北大校内	●	●
第 47 回チプサンケ（舟おろしの儀式）：本祭	８月 21 日	—	●	●	●	●	●	—	●	—	チプサンケ実行委員会で行われている本祭での儀礼について記録	二風谷イオルポロチセ	●	●
平取地域イオル再生事業 「アシリチェプノミ体験交流事業」	10 月 15 日	—	●	●	●	—	●	—	●	—	平取地域イオル再生事業の毎年行っている儀式の記録	二風谷オサツ川	●	●

北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルパのようす

イオル再生事業「アシリチェプノミ体験交流事業」のようす

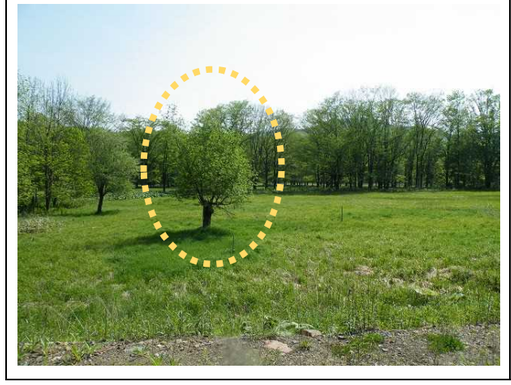
チプサンケ（舟おろしの儀式）：本祭のようす

《表中の●に関する凡例》

祈詞	祈りの言葉を記録する。
所作	儀礼に関わる所作を記録する。
祭具	儀礼に必要な祭具を記録する。
供物	儀礼の際の供物を記録する（振る舞い等も含む）。
舞踊	マラプト（祝宴）での舞踊を記録する。
行為	儀礼全体の流れを記録する。
記憶	かつて行われていた先祖の儀礼行為などを聴き取りや文献調査から情報収集する。
場所	儀礼行為が行われた場所を今後の保全対策に繋げていく。
報告書	報告書に内容についての記載事項がある儀礼。

③すずらん群生地奥のマタギ小屋の保全対策について

今年度（H28 年度）は、すずらん群生地奥のマタギ小屋跡地の目印となるスス（ヤナギ）が朽ちて倒れていたため、育苗畑２で育苗している苗木５本を跡地に移植しました。保全対象地となるすずらん群生地奥のマタギ小屋の位置については、Ｐ１を参照してください。

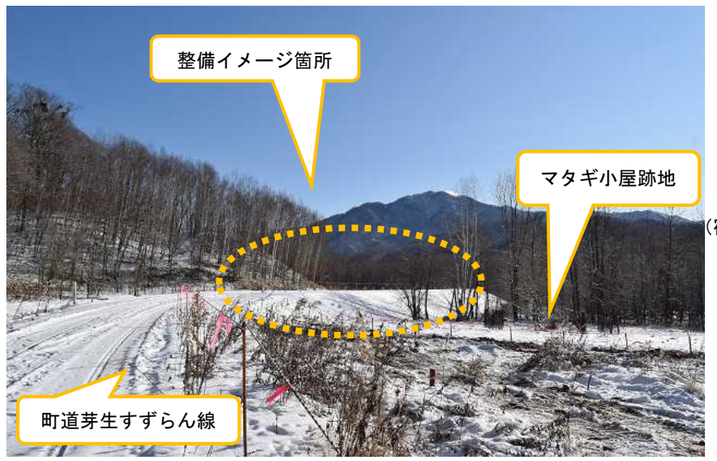
５月 23 日：現地状況	10 月 24 日：現地状況	11 月 10 日：移植後の状況	移植した苗木について
			かつてマタギ小屋があったといわれることから実の生る木本を対象に５本を選定し、倒れたススを囲むように移植しました。 ○モマニ（スモモ）＝２本　○トゥンニ（カシワ）＝１本 ○シケレペニ（キハダ）＝１本　○ヤムニ（クリの木）＝１本 ※移植スペースがあるため、次年度、シケレペニを１本移植予定 **移植のようす**

すずらん群生地奥のマタギ小屋跡地の保全対策については、イヨマンテ（熊送り）が行われていた可能性があるので、その記憶を伝える場としてのあり方を検討となっています。

すずらん群生地奥のマタギ小屋跡地に関する情報　【平取町 2006 年アイヌ文化環境保全対策調査『総括報告書』第Ⅱ部「調査報告編」】

・荷負本村の男性Ｅｂさんは、宿主別にもマタギ小屋を持ち、イウォㇿ（生活資源確保の場）にしていた。マタギ小屋は三角小屋で現在のすずらん群生地の奥にあった。【Ｐ179】
・1954、55（昭和29、30）年頃、この男性のものかは定かではないが、この付近にマタギ小屋があり、イナウチパ（家の外側にある祭壇）があり、キムンカムイ（ヒグマ）の頭等が祀られていたのを目撃したという話もあることから、ここでもイヨマンテが行われていた可能性もある【Ｐ179、194】

マタギ小屋跡地周辺の現地状況



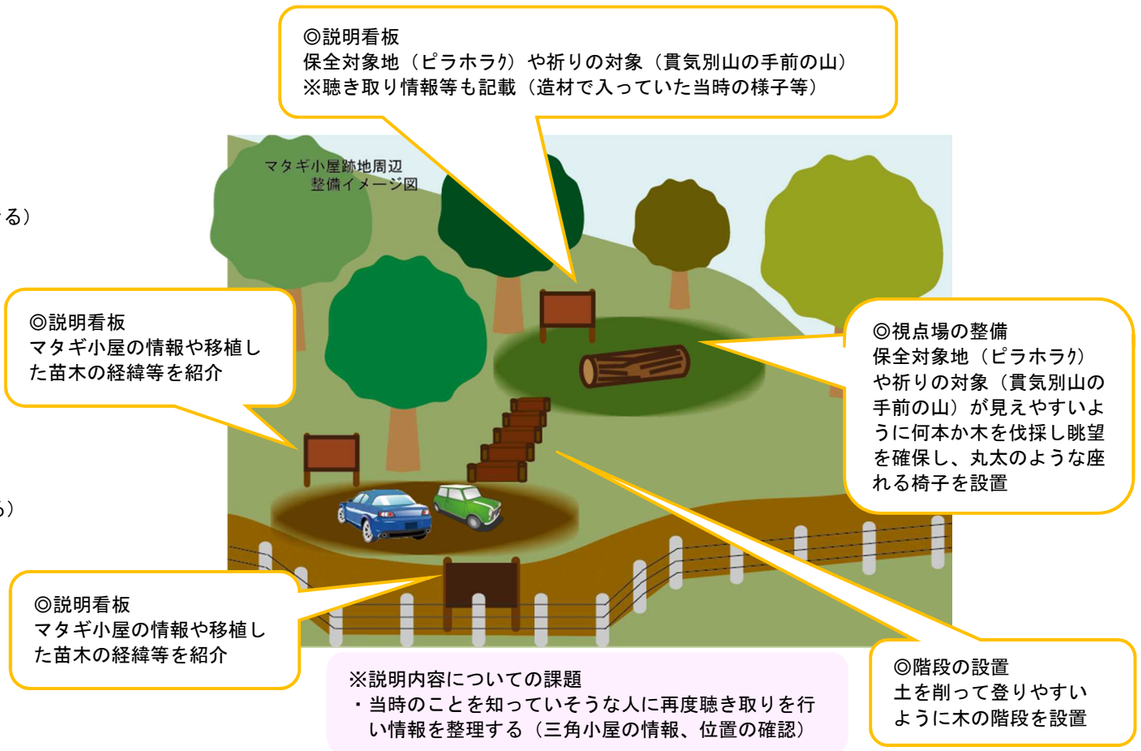
整備イメージ箇所の駐車スペースの様子

山側からの景観
（宿主別川と貫気別山の手前の山が眺望できる）

整備イメージ箇所の山側の様子

山側からの景観
（ピラホラㇷ゚（保全対象地★８）が眺望できる）

対策室から提案のマタギ小屋跡地周辺整備イメージ図（案）



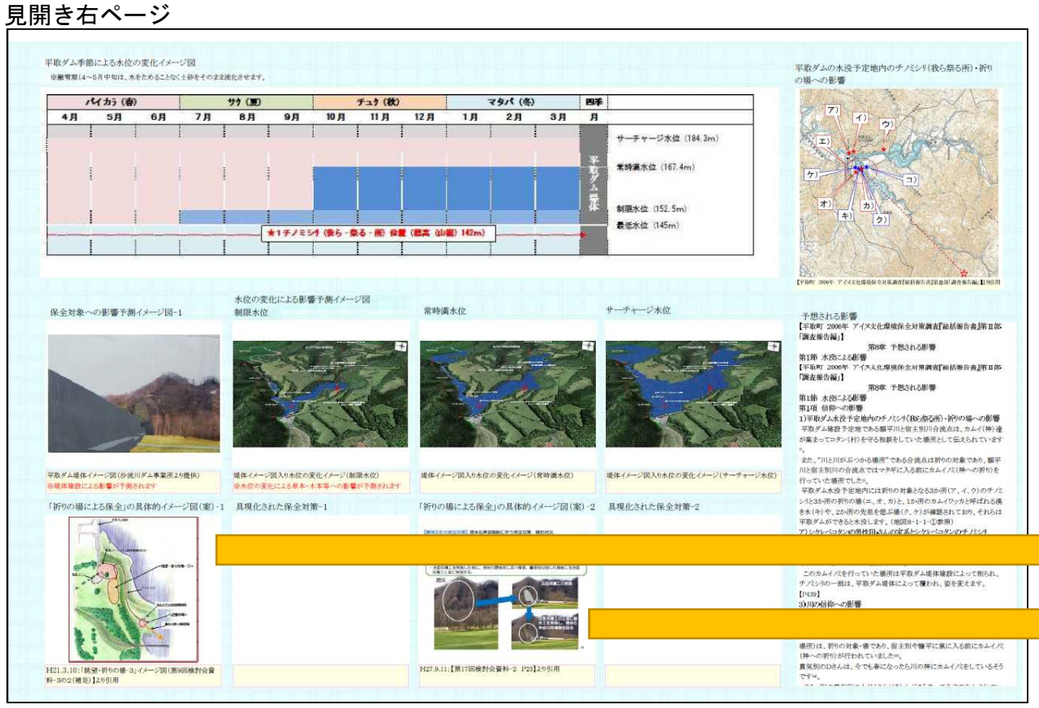
※説明内容についての課題
・当時のことを知っていそうな人に再度聴き取りを行い情報を整理する（三角小屋の情報、位置の確認）

②今年度行ったデータベースの構築と今後の作業

今年度（H28 年度）データベースに更新した内容や今後の作業について整理しました。

◎見開き左ページ

見開き右ページ

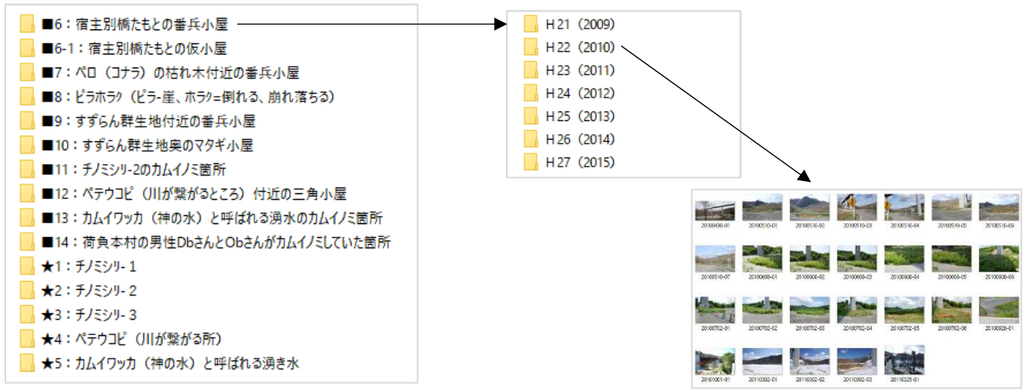


データベースの構築については、これまで同様、年度ごとに追加情報を整理してデータを構築しています。今年度、更新した内容はデータベース上では赤文字で入力しています。ここでは更新した項目は桃色枠に示しました。

●**保全対象地写真**：右側の写真を今年度の状況写真に変更（毎年更新）

※これまで記録撮影してきた写真を保全対象地ごと年度別に整理しました。

（今後はデータベースにボタンを付けてリンクさせることを検討）



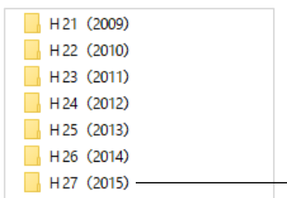
●**保全対策に関わる関連事項**：保全対策現地ワーキング等現地調査を実施した箇所について内容を追加しました。

●**平取ダム地域文化調査業務対応**：保全対象地に関して調査した内容について追加しました。

●**G. 調査業務関連資料**：報告書で記載されている各保全対象地に関する調査等ページ番号で記載していたが今後は報告書のＰＤＦデータを抜粋してフォルダで整理する。（今後はデータベースにボタンをつけてリンクさせることを検討）

整理例）チノミシリ-１の場合

年度ごとのフォルダを作成



H27（2015）報告書Ｐ13 のチノミシリ掘削にあたって思いを語り合い祈りを捧げる集いに関してまとめた資料が入っている等

●**祈りの場による保全の具体イメージ図（案）-１、２**：

これまで具現化された保全対策や今年度検討された保全対策案について情報を追加しました。

（年度末までの最新の情報）

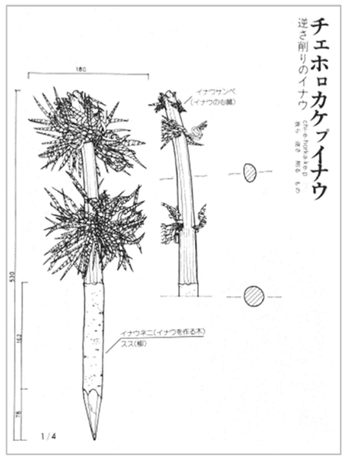
C．保全対策に向けた聴き取り調査

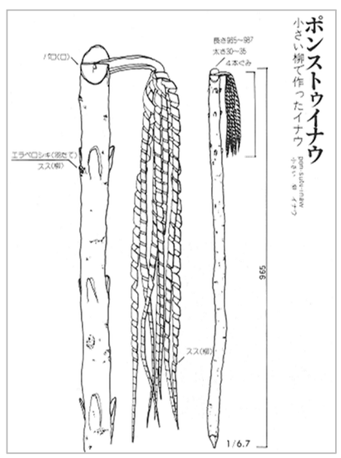
今年度（H28 年度）も調査協力者、関係者、地域の方々を対象に今後の保全対策の取り組みの参考となるよう聴き取りや意向調査（意見・感想の収集）を実施し、音声記録より内容を整理しました。

ア）精神文化に関わる聴き取り調査

今年度（H28 年度）は、精神文化に関わる聴き取り調査として、２月 15 日に貝澤貢男さんにお話しを伺いました。当日の聴き取り調査のようすと記録したデータをもとに内容を整理しました。

貝澤貢男さんへの主な聴き取り内容　〈ＩＣ20170215-001 貝澤貢男さん聞き取り調査〉





●チェホロカケプ（（さかさ削り）の御幣）について

・イナウは、作り置きとかは、あまりしない。神聖なものなので基本、使う時に作る。普通はヤナギで作る。
・大きな熊祭などがある時にイナウを削るには、一週間乾かさなくれはならないので乾かすのを計算してちゃんと採る。
・チェホロカケプは、どうしても急いでパラセ（補：キケパラセイナウ（削りかけを散らしてあるイナウ））とか、チノエ（補：キケチノェイナウ（削りかけを撚ったイナウ））とか出来ない時は、神様にお願いをして、これだけでちょっとカムイノミ（神への祈り）して、熊獲れたとかそういう時に後でちゃんとしたの作るので、今日はこれで勘弁してくださいと言って、チェホロカケプ１本でお願いすることもある。
・チェホロカケプの用途が一番幅広い。チェホロカケプを作るのが割と簡単なようで一番難しい。これが出来るようになれば他のイナウも作れるようになる。
・イクパスイ（捧酒箸）のように刻印のような物は、ここら辺では入れない。他所では入れるところもあるらしいが昔も入れているのは見たことは無い。
・作り置きはしないが、急いで作る時は伐ってすぐに焚火の火に炙りながら温めて一週間陰干しをしなくても作ることは出来る。
・滅多に急いで作ることはないが、山とかで急に熊が獲れたとか、そういう時はカムイノミをしない訳にいかないので、急いで作って、カムイノミをする。

●シロマイナウ（より房つきのイナウ）について

・熊祭の時に使うシロマイナウだけは、ミズキを使ったりする。無い時はヤナギで真似はするが熊祭の時に使うシロマイナウは、ミズキで作ったりする。

●畑でのカムイノミ（神への祈りについて

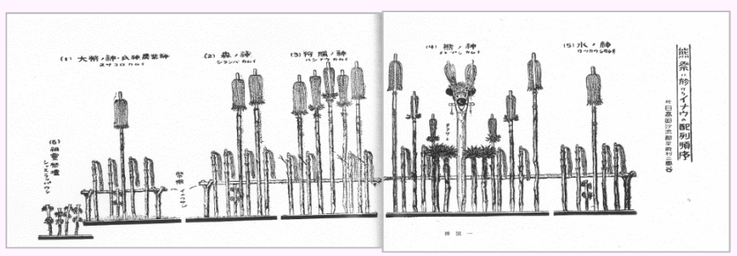
・家の親父が初めて田んぼを作った時に田んぼの縁の方にシネヌサ（シネ=ひとつの、１、ヌサ=祭壇）を４本立てて、カムイノミをしていた。
・ポンストゥイナウ（小さいヤナギで作ったイナウ）を４本一組にしているのをシネヌサという。
・カムイノミは、水田を作って代掻きをして、植える直前にやっていたのを見た。
・カムイノミは、沼の跡で沼があって川があって流れている水の近くでやっていた。普通であれば東へ向いてする。川の場合は川に向かってする。
・イナウは、家で作って用意して持って行っていた。
・畑で収穫した時もカムイノミはしていたと思うが、見てはいない。おそらく感謝の気持ちでやっていたと思う。終わった後も確かやると思うが、その場でしない。アイヌは家でやっても届く。
・イナウは畑をやっている間置いておいた。終わったら川に流すとかはしない。朽ち果てるまで置いておく。
・今、カムイノミしたら持ち帰る人もいるが本当は駄目。

●猟に関するカムイノミについて

・猟に行く前だとかは、絶対カムイノミはしない。火の神様は、いろいろな神様に通じてくれるがロが早くて、これから猟に行くからカムイノミしてから出かけると川に行っても一本の魚も獲れない。経験したことがある。
・カムイノミは、獲物が獲れたらする。
・カムイチェプ（サケ、あきあじ）って小さくて本当にギンギラした小さいが魚いる。それが獲れたら喜んで帰って来てすぐ火の前に置いてカムイノミをした。今、全部カムイチェプって言うがあれは嘘。名前は分からない。９月になったら獲れた。

貝澤貢男さんより対策室に提供いただいた祭壇のミニチュア

貝澤貢男さんが基本にした資料



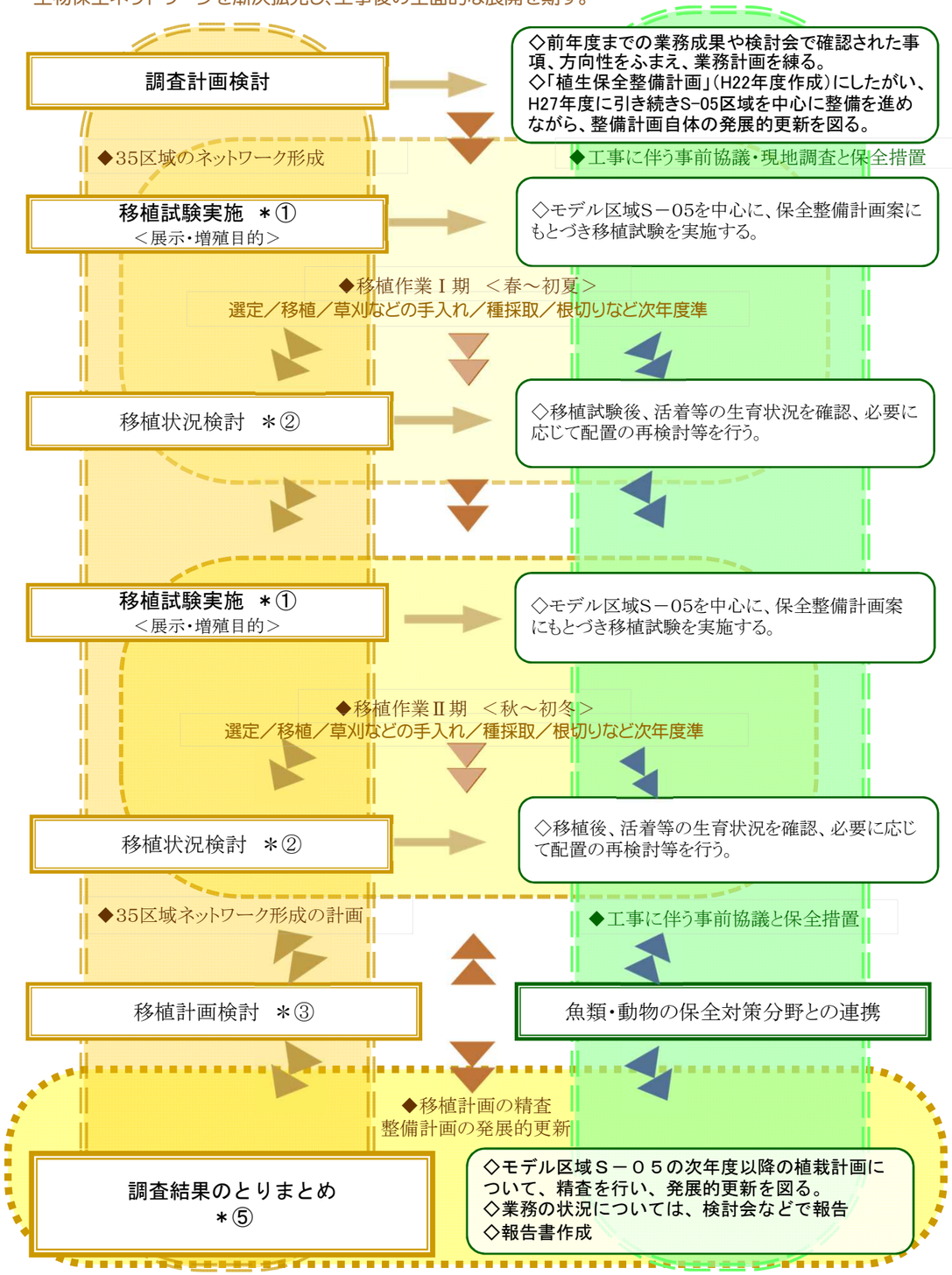
【金田一京介・杉山寿栄男 1993 年『アイヌ芸術』Ｐ288-289（有）北海道企画出版センター】

事業名	2016(平成28)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**2 - 生活文化現地調査 1 植物の保全対策に関する調査**
目的／課題 ※1 〈注〉※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆工事箇所における有用植物の移植等を実施しモニタリングを行う。活着等の成育状況に応じて既存の植生保全整備計画の見直しを行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【移植試験実施】 工事箇所における有用植物の移植等を実施しモニタリングを行う。また、活着等の成育状況を確認するとともに、必要に応じて配置の再検討を行い、整備計画案の見直しを行う。 ②【移植試験基盤整備】 植生保全区域35区域について、整備計画案に基づき基盤整備を実施する。 ③【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめる。
想定する成果 (状況/物品)	＊〇内の数字，記号は上の欄に対応 ①⇒ H22年度に作成、H23年度に着手、その後の状況をふまえて更新した計画をもとに、中心となるS－05をはじめ植物保全35区域で移植等の整備作業 ②⇒ A：業務分野5との連携でモニタリングを実施し生育状況を管理、整備計画を更新 B：各区域の保全計画と35区域のネットワークのあり方についての企画提案書 (フットパス整備や「民族植物園」としての活用方策を含む) ③⇒ ①・②の成果をまとめた報告書：整備計画の発展的更新を含む
年間作業工程 (行程)概要	業務項目：4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 ◆調査計画検討 ①【移植試験実施】：工事に伴う事前協議・現地調査と保全措置／選定／移植／草刈などの手入れ／種採取／根切りなど次年度準備 ②【移植試験基盤整備】：経過観察／配置の再検討→ 秋期以降の移植 配置再検討・計画更新：配置の再検討→ 次年度以降の移植→ 計画の更新 移植計画検討 ③【調査結果とりまとめ】 検討会または勉強会：検討会などにおける報告／報告書作成
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・〇副担当	◎黒川賢司　〇加藤拓夫 ／ 藤川涼子 ／ 久保拓史
補佐	◇貝澤耕一 ／ 山本　雄　［吉原秀喜］
今年度 重点事項	★整備計画を発展的に更新しながら「民族植物園」の内実を準備、S-05区域をはじめとする生物保全ネットワークを漸次拡充し、工事後の全面的な展開を期す。

■2-1 植物の保全対策に関する調査の計画基本フロー

＊〇内の数字，記号はページ左の業務項目の番号に対応

【想定する成果の重点】
★整備計画を発展的に更新しながらS-05区域の整備を重点的に進め、「民族植物園」の内実を準備しつつ生物保全ネットワークを漸次拡充し、工事後の全面的な展開を期す。



2-1 生物の生存環境現地調査：植物の保全対策に関する調査 ～この分野の作業概況～

０１◆S-05に山菜移植

０２◆草刈作業

０３◆ツアー受け入れ

０４◆モニタリング

０５◆ネームプレート整備

０６◆ペカンペ栽培試験

０７◆工事箇所における木本の選定作業

０８◆有用木の選定

０９◆材料整理・保管

１０◆保全区への移植

１１◆祈りの場フットパス現地協議

１２◆移植準備打ち合わせ

H28年度
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝今年度重点事項

A◆＝工事箇所における有用植物の移植等を実施しモニタリングを行う。活着等の成育状況に応じて既存の植生保全整備計画の見直しを行う。

B◆＝①【移植試験実施】 工事箇所における有用植物の移植等を実施しモニタリングを行う。また、活着等の成育状況を確認するとともに、必要に応じて配置の再検討を行い、整備計画案の見直しを行う。
②【移植試験基盤整備】 植生保全区域35区域について、整備計画案に基づき基盤整備を実施する。
③【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめる。

C◆＝★整備計画を発展的に更新しながら「民族植物園」の内実を準備、S-05区域をはじめとする生物保全ネットワークを漸次拡充し、工事後の全面的な展開を期す。

２-生物の生存環境現地調査

１　植物の保全対策に関する調査

■目次　【ｉ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題　【ii】
◎作業状況―写真による業務説明　【iii】

■調査の成果
Ａ．移植試験実施　【１】
ア）移植試験までの作業の流れ　【１】
イ）現地調査による有用植物の選定　【２】
①H28 年度に行った現地調査　【２】
②N-01､13 保全区での調査　【３】
③N-05、11、17 保全区での調査　【４】
④S-06、12、15 保全区での調査　【５】
⑤H28 年度移植配置図　【６】
⑥移植作業概要　【７】
⑦木材の利用と保管　【８】
ウ）S-05 保全区以外の保全区への移植試験　【９】
①S-11 保全区（マタギ小屋跡）への移植　【10】
②N-03 保全区、S-04 保全区の整備　【10】

Ｂ.移植状況検討　【11】
ア）モニタリング調査　【11】
①各ゾーンに移植した木本のモニタリング　【11】
②ガードフェンスに移植した木本のモニタリング　【12､13】
③スポット植物園、草本エリアのモニタリング　【14】
④Ｓ-05 栽培試験地の移植当時から現在までの移り変わり　【15】
⑤鹿柵設置とガードフェンスの撤去　【16､17】

イ）展示に向けた試験地整備
①ツアーの受け入れ（ＮＨＫ文化センター新さっぽろ教室）　【18】

Ｃ.移植計画検討　【21】
ア）保全整備計画再検討　【21】
①植生保全区域 35 保全モデル区域図　【21】
②貯水池流域保全参考資料　【22】
③生物（植物）保全区域 35 の分類ワークシート　【23】
④Ｓ（宿主別川流域）保全区域の整備計画　【24】
⑤Ｎ（額平川流域）保全区域の整備計画　【25】
イ）Ｈ29 年度以降の作業計画　【26】
①年間作業工程表　【26】
②作業内容詳細一覧　【27】
③H29 年度作業予定概要　【28】
（a）「眺望・祈りの場」周辺の保全モデル区域　【28】
（b）額平川上流の保全モデル区域　【29】
（c）N-03 保全区（水生植物の栽培試験）と S-11 保全区（苗木の移植）　【30】

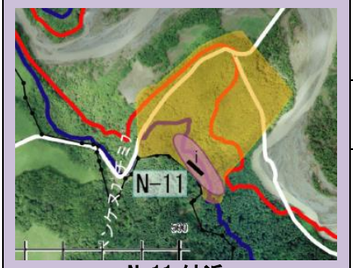
■別添資料：生物保全区域モデルイメージ　a～ｊ

■関連資料
〇貯水池内伝統工芸素材等植物分布図　【関連資料-①】
〇35 保全区域植生状況データベース　【関連資料-②】

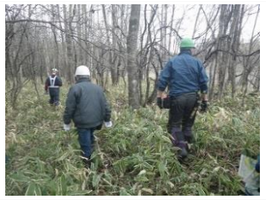
③N-10、11、18 保全区の調査

豊糠橋周辺の骨材採取種予定地で豊糠橋を挟んで下流側の N-11 保全区、上流側の N-17 保全区と 2 カ所を調査しました。N-11 保全区ではカリンパニ（サクラ類）1 本とプクサ（ギョウジャニンニク）、ペペロ（ユキザサ）、クナウ（フクジュソウ）が所々に群生しており、移植用に選定しました。N-17 保全区ではシケレペニ（キハダ）1 本を材料用に選定しました。N-11 保全区から草本類の移植に関連して隣の N-10 保全区**も調査を行い、ここではプクサの群生地を確認しています。**

※移植先は 7 ページを参照して下さい。



N-11 付近



調査前の工事の概要や調査範囲の説明を受け、確認後に調査に入りました。

カリンパニ 1 本を選定。

樹種と採取寸法を記載

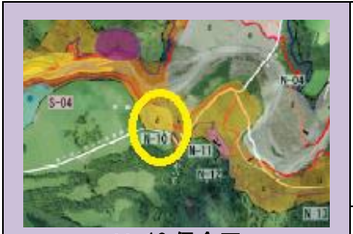
プクサ、ペペロ、クナウ等の山菜類が多く自生していました。その中から主にプクサを移植用に選定しました。

N-18 保全区

こちらも調査範囲の確認後に調査を行いました。

移植対象の木本類、草本類は特になく、シケレペニ 1 本を民具製作の材料として選定しました。

樹種、採取寸法をピンクテープに記入しています。



N-10 保全区

N-11 保全区の工事に関わる現地調査時に、隣接する N-10 保全区も山菜等の最盛期ということもあり植生調査も行いました。プクサの群落を確認しています。

⑥移植作業概要

草本の移植ではブロック移植に近い方法でなるべく現地からその群落毎に掘り出し、そのまま S-05 の移植箇所に植え付けを行いました。プクサ（ギョウジャニンニク）は林内のプクサゾーンをさらに広げるように植え付けをしました。ペペロ（ユキザサ）はスポット植物園２の中にあるペペロのエリアが雑草に押され減少してきていた所へ追加で植え付けました。また、S-05 のフットパスの林内入り口周辺には景観を意識してクナウ（フクジュソウ）を植え付けました。木本では亜別での「21 世紀アイヌ文化伝承の森プロジェクト」での植樹の際に、森林管理局の許可を得て亜別の林道沿いからカンチカマニ（サンショウ）の苗木を掘り出し、S-05 へ移植を行いました。カンチカマニはツアーで来場された方達には好評でした。そして、二風谷育苗畑からアッニ（オヒョウ）、トペニ（イタヤ類）、等の苗木の移植も行っています。次年度以降には二風谷育苗畑２からの大がかりな移植作業も予定しています。今後の植物園としての拡充に向けて計画的に作業を進めて行きたいと思います。

◆H28 年度に移植した草本・木本類

プクサの群落

プクサ

ペペロ

クナウ

カンチカマニ

アッニの苗木

トペニの苗木

亜別での「21 世紀アイヌ文化伝承の森プロジェクト」植樹の様子。

植樹後にアベツの林道沿いからカンチカマニを掘り出し、S-05 に移植しました。

移植後無事に活着し、実をつけていました。

工事箇所から S-05 へ草本の移植を行いました。

N-11 保全区の工事箇所からプクサ掘り出し。

S-05 林内の草本エリアへ植え付け。

育苗畑１で育てた苗木 S-05 へ運搬。

S-05 の圃場エリアへ植え付け。

林内入り口のフットパス沿いにクナウを植え付け。

S-05 入り口のスポット植物園２にペペロを植え付け。

ウ）S-05 保全区以外の保全区への移植試験

①S-11 保全区（マタギ小屋跡）への移植

S-11 保全区では１．精神文化保全対策に関する調査のチーム合わせてマタギ小屋跡地の整備を行いました。目印にしていたスス（ヤナギ類）が倒れていたので、その周囲に新たに本本の移植を行いました。生活に関わる木本として食用として有用な実のなる樹種を選び植え付けました。モマニ（スモモ）２本、シケレペニ（キハダ）、トゥンニ（カシワ）、ヤムニ（クリ）を各１本ずつ、倒れたススを囲うように移植しました。また、マタギ小屋跡から旧道を挟んだ草地跡地への苗木の移植に向けた整備を行いました。移植する箇所に穴を掘る作業は協力をお願いして重機で掘ってもらいました。30 個ほどの穴を掘り、次年度春に二風谷育苗畑２からアッニ（オヒョウ）、チキサニ（ハルニレ）等を移植する予定になっています。

マタギ小屋跡地の倒れたスス。

倒れたススを囲うように苗木を移植し、獣害対策としてネットを巻き付けました。

移植後監視カメラを設置したところ、周辺を歩き回る多数のユク（鹿）が写っていました。やはり獣害対策は必要な事が確認できました。

S-11 保全区では、チキサキの群落が自生しており、それを活かした樹種としてチキサニ、アッニ、ネシコ（クルミ）、プンカウ（ハシドイ）、チクペニ（イヌエンジュ）等を移植していく予定です。

S-11 保全区移植予定箇所

すずらん線横の草地跡に移植を計画しました。

植え付ける位置に杭を打ち込みました。

重機での穴掘りにむけ、打ち合わせを行いました。

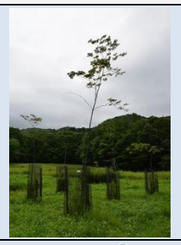
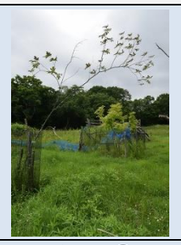
30 か所穴を掘り、次年度春に移植を予定しています。

B. 移植状況検討

ア）モニタリング調査

①各ゾーンに移植した木本のモニタリング

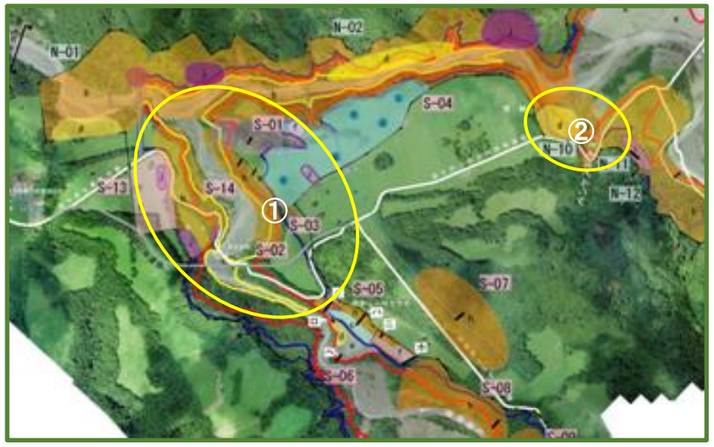
H26 年度までに移植した木本のモニタリングを行いました。表には対象種の写真と樹木名、樹高、前年度との比較を記載しています。前年度のモニタリング調査で枯れたことが確認された物は一覧から除外しています。低くなった要因としては風や積雪、動物の食害等によって枝が折れたものと考えています。今年度秋には S-05 全体を囲う鹿柵の完成後に各木本を保護しているネットはすべて撤去しました。鹿柵設置によって鹿の食害等の被害は軽減されていくのではないかと考えています。

カリンパニ① 470cm→430 cm▲ 3 cm→ 4 cm	カリンパニ② 480cm→480 cm 4. 5 cm→ 6 cm	カリンパニ③ 300cm→450 cm 3. 6 cm→4. 5cm	カリンパニ④ 410 cm→640 cm 4 cm→6. 5cm	カリンパニ⑤ 380 cm→530 cm 5 cm→ 7 cm	カリンパニ⑥ 190 cm→190 cm 1 cm→ 1 cm	カリンパニ⑦ 340 cm→410 cm 3. 8 cm→4. 5 cm	カリンパニ⑧ 330 cm→370 cm 3 cm→4. 5 cm	カリンパニ⑨ 180 cm→190 cm 1 cm→1. 5 cm	カリンパニ⑩ 320 cm→410 cm 2. 6 cm→ 5 cm	カリンパニ⑪ 120 cm→150 cm —
アッニ① 290 cm→410 cm 2. 5 cm 4 cm	アッニ② 230 cm→270 cm 1 cm→ 2 cm	アッニ③ 210 cm→280 cm 0. 5 cm→ 2 cm	アッニ④ 260 cm→140 cm▲ 1 cm→0. 5cm	アッニ⑥ 120 cm→160 cm — →1 cm	アッニ⑦ 160 cm→170 cm — →1. 5 cm	アッニ⑧ 140 cm→170 cm 1 cm→1. 5 cm	アッニ⑩ 220 cm→160 cm▲ 0. 8 cm→0. 5 cm	トペニ 60 cm→120 cm —	カスﾌﾟニ① — →280 cm 2. 5 cm	カスﾌﾟニ② — →210 cm 1 cm
アユシニ① 120 cm→130 cm —	アユシニ② 150 cm→210cm — →1. 5 cm	アユシニ③ 150 cm→280 cm 2 cm→3. 5 cm	ホロカアユシニ 190 cm→250 cm 1 cm→1. 5 cm	アユシニ⑤ 160 cm→180 cm —	オプケニ① 230 cm→260 cm 1. 5 cm→1. 5 cm	オプケニ② 210 cm→ — 2. 5 cm	チクペニ 380 cm→ 4. 5 cm	ウトゥカンニ② 220 cm→300 cm 1. 5 cm	ウトゥカンニ③ 115 cm→115 cm —	H28 年度移植 5 月 11 日 移植元：亜別 ↓
										
イワニ③ 470 cm→360 cm 2 cm	イワニ④ 300 cm→280 cm 2. 0 cm	イワニ⑤ 360 cm→380 cm 2. 5 cm	イワニ⑥ 360 cm→350 cm 2. 0 cm	イワニ⑦ 550 cm→350 cm 2. 5 cm	イワニ⑧ 枯	イワニ⑨ 310 cm→130 cm 0. 5 cm	イワニ⑩ 340 cm→520 cm 3. 5 cm	イワニ⑪ 280 cm→250 cm 1. 0 cm	カンチカマニ① 280 cm 2.5 cm	カンチカマニ② 280 cm 2.5 cm

③H29 年度の作業計画概要

H29 年度の作業計画として、植物保全モデル区域の整備計画案の中から特に集中して調査を行いたい主な保全区域を抜出しました。各保全区域の状況も示し、今後の作業内容についてまとめました。

（a）「眺望・祈りの場」周辺の保全モデル区域



①《S-01・02・03・14 保全区》

各保全区での詳細な草本類の生育域を調査し、オオアワダチソウ等の外来種やフッタブ（ササ類）の草本類群落への浸食を防ぐために草刈り等の対策を検討したいと考えています。また、S-14 保全区の旧道沿いの斜面にはプクサ（ギョウジャニンニク）、プィ（エゾノリュウキンカ）等、多種の草本類が群生しているので移植を含めた保全対策案の検討を進めて行きたいと思います。（草本類は春の適期に詳細な調査を行う必要があります。）

②《N-10 保全区》

林内に自生するプクサキナ（ニリンソウ）やエシケリムリム（カタクリ）等の草本類を保全する。特にプクサキナの群落周辺の下草刈りや択伐等の管理作業による整備を行い、プクサキナ群落の拡充を計る。再度詳細な調査を行い S-04 の「眺望・祈りの場」のフットパスとの連携も含めた整備計画を協議したいと考えています。

「眺望・祈りの場」フットパス
整備案イメージ図

① S-01・02・03・14 保全区の状況

宿主別橋から見た宿主別川。右側の林が S-02・03 保全区。左側の林が S-14 保全区。

上と右の写真は平成 27 年度に行った調査時のものです。数種類の山菜等の草本類が群生していました。

合流点付近にはアッニが自生しているのも確認しています。再度現地調査行い保全対策を協議したいと思います。

S-02･03･N-10
モデルイメージ b･h

S-04 モデルイメージ i

S-01 モデルイメージ j

※詳細は別添資料参照

② N-10 保全区の状況

S-04 保全区の「眺望・祈りの場」フットパスコースに隣接する保全区です。

プクサキナ、エシケリムリム等、多くの草本が自生しています。

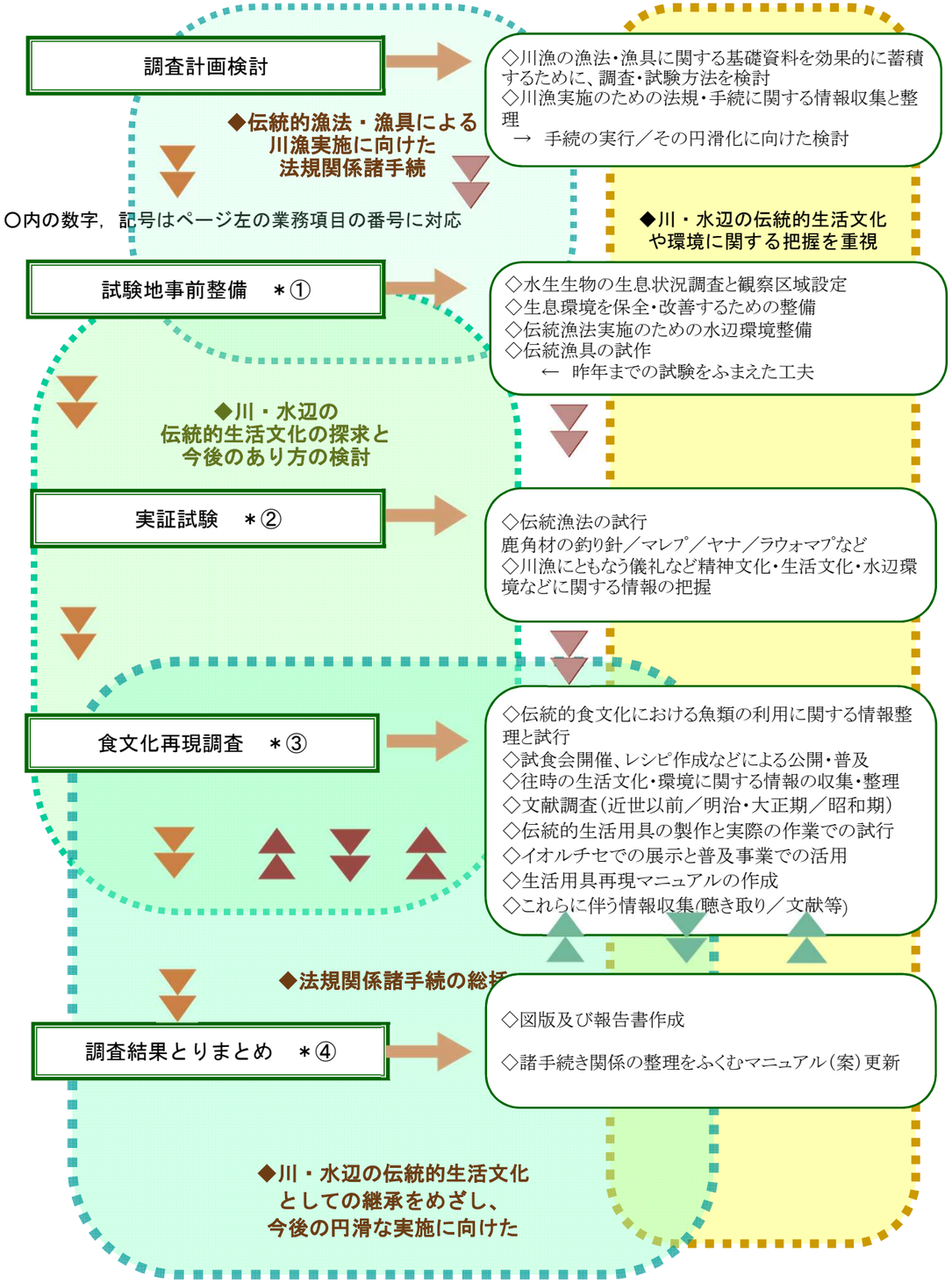
フッタブが繁茂し、プクサキナ群落を浸食してきています。

事業名	2016(平成28)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**2 - 生活文化現地調査** **2魚類の保全対策に関する調査**
目的／課題 ※1 〈注〉※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆伝統的漁法に関するマニュアルに基づき、漁具の製作を行うとともに伝統漁法の再現を行う。尚、再現にあたっては町内に広く参画を求め、採捕した魚類についてはアイヌ文化期の食文化等の再現を行う。自然工法（木流し）により魚類の生息環境を創出し、そのモニタリングを行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【事前準備】 実証試験の場としての適地の選定および周辺整備を実施する。また、伝統的漁法に関するマニュアルに基づき漁具の作成を行う。 ②【実証試験】 町内に広く参画を求め、実証試験を行う。また、自然工法（木流し）により魚類の生息環境を創出しモニタリングを行う。 ③【食文化再現調査】 調査結果を基に、アイヌ文化期の道具・食事についての再現（調理）を行う。 ④【調査結果取りまとめ】 調査結果をとりまとめ、これまでの成果を基に、マニュアル（案）を更新する。
想定する成果 （状況/物品）	＊〇内の数字、記号は上の欄に対応 ①⇒ 試験地絞り込みと周辺環境の整備、諸手続書類と手引き（マニュアル） ②⇒ 漁具作製、その素材・作製技法・使用法・伴う儀礼等の調査 モニタリングによる記録の保存・分析／マニュアル化 「親自然工法」による水生生物生息環境整備の試行を促進、これに伴う調査・情報収集 ③⇒ 食文化の再現（レシピ集の作成と公開／試食会開催／評価） ④⇒ ①・②・③の成果をまとめた報告書：マニュアルの更新を含む マニュアルの構成 A：「伝統的漁法」それ自体に関するもの B：「伝統的漁法」の調査・研究・活用方法に関するもの（親自然環境整備を含む）
年間作業工程 （行程）概要	業務項目 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 ◆調査計画検討 ▼申請手続・調整 ▼ ①【事前整備】 ②【実証試験】 ▼さけ採捕 ▼ 伝統的漁具作製 漁法試行 水生生物調査・情報収集 水生生物生息環境整備（親自然工法）試行／モニタリング ③【食文化再現調査】 ④【調査結果とりまとめ】 検討会などにおける報告 報告書作成 検討会または勉強会 ○ ○ ○ ○ ○
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・〇副担当	◎加藤拓夫 〇黒川賢司 ／ 及川直美 ／ 久保拓史
補佐	◇貝澤耕一 ／ 山本 雄 ［吉原秀喜］
今年度 重点事項	★地域に根ざし育まれてきた生活文化の重要要素である伝統漁法を継承・活用し、自然・社会両面の環境整備も促しつつ、今日的文化として定着する基礎をつくる。

2-2 伝統的漁法についての調査の計画基本フロー

【想定する成果の重点】
★日々の暮らしに根ざして育まれてきた生活文化の重要な要素であった伝統漁法を継承・活用し、自然と社会両面で環境整備も促しつつ、今日的文化として定着する基礎をつくる。

＊〇内の数字，記号はページ左の業務項目の番号に対応



2-2 生物の生存環境現地調査：魚類の保全対策に関する調査 ～この分野の作業概況～

０１◆特別採捕申請打ち合わせ（春）

０２◆宿主別川現況調査（春）

０３◆伝統漁具試行（クトゥ）（夏）

０４◆伝統漁具でとれたモクズガニ（夏）

０５◆石組み設置（夏）

０６◆石組み工法モニタリング（夏）

０７◆サケ特別採捕ふ化場から提供（秋）

０８◆サケ特別採捕（秋）

０９◆ザリガニ生息調査（秋）

１０◆アタッ・開き干し（冬）

１１◆親自然工法モニタリング（冬）

１２◆親自然工法モニタリング（冬）

H28年度
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝今年度重点事項

A◆＝伝統的漁法に関するマニュアルに基づき、漁具の製作を行うとともに伝統漁法の再現を行う。尚、再現にあたっては町内に広く参画を求め、採捕した魚類についてはアイヌ文化期の食文化等の再現を行う。自然工法（木流し）により魚類の生息環境を創出し、そのモニタリングを行う。
B◆＝①【事前準備】 実証試験の場としての適地の選定および周辺整備を実施する。また、伝統的漁法に関するマニュアルに基づき漁具の作成を行う。
②【実証試験】 町内に広く参画を求め、実証試験を行う。また、自然工法（木流し）により魚類の生息環境を創出しモニタリングを行う。
③【食文化再現調査】 調査結果を基に、アイヌ文化期の道具・食事についての再現（調理）を行う。
④【調査結果取りまとめ】 調査結果をとりまとめ、これまでの成果を基に、マニュアル（案）を更新する。
C◆＝★地域に根ざし育まれてきた生活文化の重要要素である伝統漁法を継承・活用し、自然・社会両面の環境整備も促しつつ、今日的文化として定着する基礎をつくる。

２生物の生存環境現地調査

２魚類の保全対策に関する調査

■目次 【ｉ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ii】
◎作業状況―写真による業務説明 【iii】

■調査の成果
Ａ．調査計画の検討 【１】
ア）伝統的漁法に係る作業の流れ 【１】
イ）実証試験の実施概要 【２】
ウ）川漁実施のための手続きに関する情報収集と整理 【４】
①特別採捕申請・許可・実施の流れ 【４】
②第一期（春期～夏期）特別採捕申請手続きの流れ 【５】
③第二期（秋期）特別採捕申請手続きの流れ 【６】
Ｂ．実証試験
ア）水生生物の生息区域観測設定 【７】
イ）水生生物の生息域の確認調査 【８】
①魚類生息調査のまとめ 【９】
②ﾎﾛｶﾚｲｪﾌﾟ（ザリガニ）の生息調査のまとめ 【10】
ウ）第一期（春期）特別採捕試行 【11】
①伝統的漁法試行調査の概要 【11】
②伝統的漁法試行調査 【12】
③漁具（鹿角製釣針） 【13】
④フラルイチェﾌﾟ（キュウリウオ） 【14】
⑤シペ（シロザケ）の特別採捕実施状況概要 【15】
⑥シペ（シロザケ）の自然遡上調査・特別採捕実状況 【16】
⑦二風谷ダムを遡上する魚種データー 【17】
⑧シペ/シロザケ・サキペ/マス類（サクラマス）遡上調査 【18】
⑨聴き取り調査と実証試験調査 【19】
⑩食文化再現調査 【20】
⑪生活文化再現調査 【20】
エ）特別採捕の結果 【21】
①Ｈ28 年度シペ（シロザケ）・サキペ（マス類）の採捕結果と今後の課題・計画 【21】
②Ｈ28 年度シペ（シロザケ）・サキペ（マス類）以外の採捕結果と今後の課題・計画 【22】
オ）イオルー号チセの展示状況 【23】
カ）「親自然（多自然）工法」による水辺環境調査 【25】
①工法試行に向けた現地調査と作業の流れ 【25】
②やな組工法・木流し・石組み工法モニタリング 【26】
Ｃ．平成 28 年度に向けた作業計画 【27】
Ｄ．まとめと今後に向けた課題の整理 【28】

■別添資料：伝統的漁法に関するマニュアル　Ver．2016

■関連資料（電子データー版のみに所収）
〇自然遡上鮭動画 【関連資料-①】

ウ）川漁実施のための手続きに関する情報収集と整理

①特別採捕申請・許可・実施の流れ

※表の中のアルファベットは、次ページ以降にまとめた「特別採捕申請手続きの流れ」に記されている書式例の記号（A・B･･･）に対応しています。

○ダム建設事業所との協議

○管内増殖事業協会へ依頼

○許可事項の現場での掲示

伝統的漁法調査のための特別採捕の取組は７年目となり、北海道開発局室蘭開発建設部沙流川ダム建設事業所の協力で、北海道庁／日高振興局、北海道／日高管内さけ・ます増殖事業協会、ひだか漁協など関係機関・団体との調整、手続きが円滑に行われるようになってきました。法規に則った手続は、前年度から第一期（春期～夏期）「さけ・ます以外」と第二期（秋期）「さけ・ますを含む」の２度に分けて申請する方法をとっています。それにより、年度当初の「さけ・ます以外」の試行作業もほぼ予定どおりに実施できました。今後も、関連機関・団体の連携・協力のもと、手続等がさらに円滑に進む態勢が整えられるように努めます。一方で、伝統的漁法が地域の「新たな生活文化」としてなじむようにするため、手続自体がより簡素になるあり方も引き続き検討していく必要があります。

４月～	日高管内さけ・ます増殖事業協会に同意書を依頼	→	日高管内さけ・ます増殖事業協会	書式例 C-1
４月 18 日	同協会による同意書即日交付	←	日高管内さけ・ます増殖事業協会	書式例 C-2
４月 19 日	「さけ・ます以外」特別採捕許可申請書提出	→	日高振興局 北海道庁	書式例 A
５月 13 日	「さけ・ます以外」特別採捕許可証発行	←	日高振興局 北海道庁	書式例 B
７月 27 日	ひだか漁業協同組合に同意書を依頼	→	ひだか漁業協同組合	書式例 D
７月 27 日	ひだか漁業協同組合より同意書即日交付	←	ひだか漁業協同組合	書式例 省略
７月 27 日	日高管内さけ・ます増殖事業協会に同意書を依頼	→	日高管内さけ・ます増殖事業協会	書式例 E
８月～９月	同協会による同意書即日交付	←	日高管内さけ・ます増殖事業協会	書式例 省略
９月 17 日	北海道さけ・ます増殖事業協会に種卵等の供与要請書を提出	→	北海道さけ・ます増殖事業協会	書式例 F
９月 19 日	北海道さけ・ます増殖事業協会より種卵等供与要請の承諾書交付	←	北海道さけ・ます増殖事業協会	書式例 G

８月～９月	「さけ・ます」を含む特別採捕許可申請書提出	→	日高振興局 北海道庁	書式例 H
９月 25 日	「さけ・ます」を含む特別採捕許可証発行	←	日高振興局 北海道庁	書式例 I
９月～10 月	さけの特別採補実施に向けた準備作業① ※漁具の準備、現地状況の確認、実施日時設定など	→ ←	日高管内さけ・ます増殖事業協会 さけ・ます孵化場	－
９月	河川敷地の一時使用について申請	→	胆振総合振興局室蘭建設管理部	書式例 J
10 月～11 月	さけの特別採補実施に向けた準備作業② ※現地環境整備、	→ ←	警察署 胆振総合振興局室蘭建設管理部（門別出張所）	－
９月上旬	さけの供与・運搬に関する最終調整（さけ特別採捕に向けて）	→	日高管内さけ・ます増殖事業協会／さけ・ます孵化場 運搬・現地設営支援業者	－
10 月４日	さけ特別採捕実施（アベツ川昼）	←		
10 月～11 月	さけ特別採補実施後の保存・活用処理			
12 月～３月	北海道知事に「特別採捕結果報告書」を提出	→	日高振興局 北海道庁	書式例 K-1/2/3
12 月～３月	北海道さけ・ます増殖事業協会に「供与の結果報告」を提出	→	北海道さけ・ます増殖事業協会	書式例 L
12 月～３月	特別採捕をはじめ伝統漁法に関する取組のとりまとめ（報告書作成）採捕結果報告書作成		対策室	

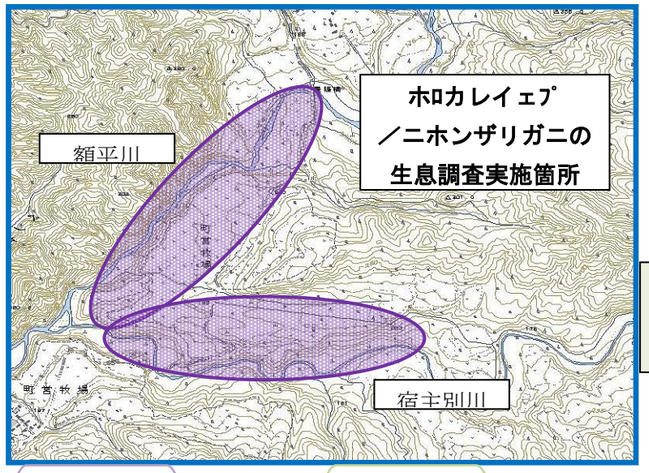
◆28 年度からは特別採捕申請手続き内容が一部変更となりました。ここの４ページ目の表記は 27 年度の手続きの内容になっています。４月 19 日の「さけ・ます以外」特別採捕許可申請書提出。８月～９月の間に「さけ・ますを含む」特別採捕許可申請書提出と毎年二回申請手続きを行っていた部分を今年度からは、４月第一期の申請手続きの段階で「さけ・ます以外」と「さけ・ます含む」手続きを一括に申請することができました。手続きの流れとしてもスムーズになるとともにマス類の魚種調査も可能になり調査業務が進めやすくなってきています。

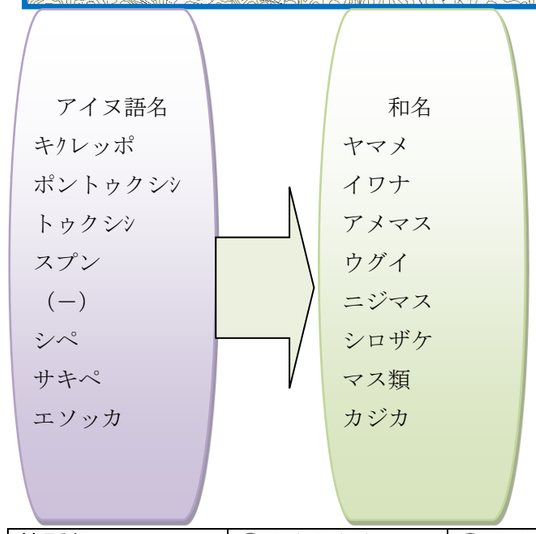
※赤丸で囲った部分が変更になった部分になります。

B．実証試験

ア）水生生物の生息区域観測地設定

水生生物の生息域観測地設定および特別採捕試行箇所位置図　・沙流川本流（紫雲古津地区）





箇所名	①沙流川本流 （紫雲古津地区）	②アベツ川 （沙流川本流左岸）	③看看川 （沙流川本流左岸）	④、⑤沙流川右岸支流 （ニセウ川）	⑥額平川中流 （平取ダム堤体建設予定地周辺）	⑦宿主別川下流	⑧、⑨宿主別川中流	⑩宿主別川上流	⑪額平川上流 （鉱山の沢付近）
確認できた魚種名	・スプン ・エソッカ ・チチラ ・トチェプ ・ウキゴリ	・(-) /ニジマス ・サキペ ・シペ ・スプン	・チチラ ・キクレッポ ・エソッカ ・スプン	・キクレッポ ・ポントゥクシシ ・サキペ ・シペ	・スプン ・チチラ ・ポントゥクシシ ・キクレッポ	・スプン ・(-) /ニジマス ・チチラ ・トゥクシシ ・キクレッポ ・サキペ・シペ	・キクレッポ ・(-) /ニジマス ・スプン	・キクレッポ ・(-) /ニジマス	・ポントゥクシシ
試行漁法名	◎釣り試行調査 ○ペライニ/釣竿	◎サケ特別採捕 ○マレプ/自在もり ○アプ/流し鈎 ○（ー）/ヤス ○ラウォマプ/うけ ○（ー）/たも網	◎釣り試行調査 ◎　（ー）/　はえ縄試行 ◎クトゥ/(ど)試行 ○ペライニ/釣竿 ○はえ縄○クトゥ	◎釣り試行調査 ◎雑魚すくい試行 ◎たも網試行 ○トゥカプ/鹿角針 ○雑魚すくい網 ○たも網	◎釣り試行調査 ◎クトゥ試行 ◎はえ縄試行 ○釣竿 ○クトゥ ○はえ縄	◎釣り試行調査 ◎クトゥ試行 ◎はえ縄試行 ○釣竿 ○クトゥ ○はえ縄	◎釣り試行調査 ◎クトゥ試行 ◎はえ縄試行 ○釣竿 ○クトゥ ○はえ縄	◎釣り試行調査 ○釣竿 ※太字のシロザケは 27 年度確認・28 年度未確認です。	◎釣り試行調査 ○釣竿 ※赤字の魚種名は今年度確認された魚種です。

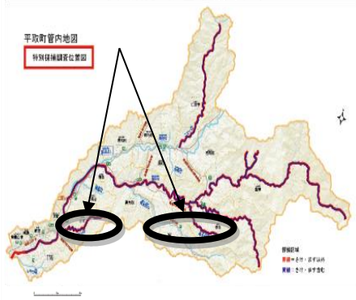
⑥シペ（シロザケ）の自然遡上特別採捕実施状況

今年度はマレプ/自在もり、アプ/流し鈎、(ー)/三本やす、を使用試行を実施しました。三本やす、アプではシペ/シロザケを捕る事ができました。捕れたシペは食文化試行の材料として下準備をしました。

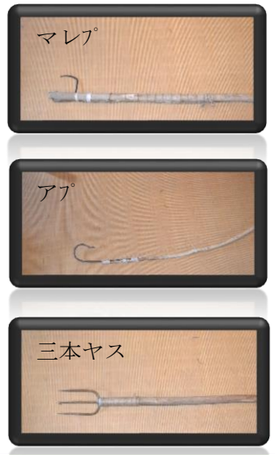
日時　平成２８年９月 30 日　　場所　貫気別堰堤

1　採捕作業の流れ ⇒①看板、漁具準備 ⇒②ビデオ、カメラ、撮影準備	① 	②
●シペの集まっている所確認 ⇒③アプ/流し鈎漁開始 ⇒④アプによって捕ったシペ。	③ 	④
●マレプ/自在もり漁開始 ⇒⑤シペが掘りをほって。 ⇒⑥シペを確認したらマレプで一気に突く。	⑤ 	⑥
●捕れたシペの対処 ⇒⑦サケも頭を狙い三本やすで突く。 ⇒⑧魚たたき棒で叩いた後に砂や血がついてるので川の水でさっと洗います。	⑦ 	⑧
●シペを送る ⇒⑨捕れたシペはイサパキクニ/魚たたき棒で送ります。 ⇒⑩何度もたたかず一発で送ります。	⑨ 	⑩
●自然遡上で捕獲したシペでアイヌの伝統的食文化に利用しました。 ⇒⑪アプでは２匹、三本ヤスでは１匹合計３匹のシペを捕る事が出来ました。 ⇒⑫シペ解体の様子。	⑪ 	⑫
●結果・課題 ⇒⑬アプ試行の様子。 ⇒⑭マレプ試行調査の様子。 ※アプ・マレプどちらも。 成果を得られました。 ※自然遡上数回実施捕れたシペ合計７匹	⑬ 	⑭

採捕実施箇所図



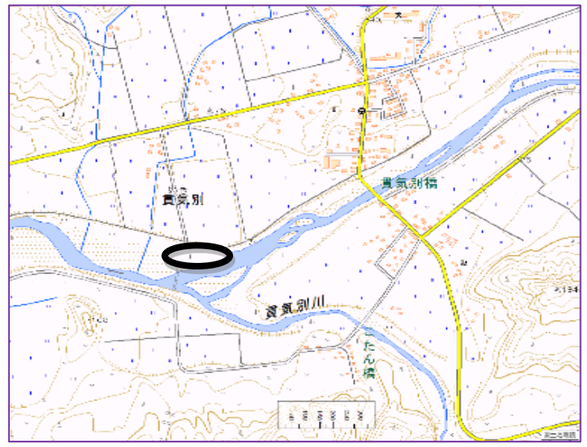
◆試行漁具一覧◆



参考資料

マレク（突き鈎）を使ってのサケ漁
（『アイヌ風俗十二ヶ月屏風』市立函館博物館蔵）

◎鮭自然遡上採捕実施箇所地図



※ の部分が自然遡上調査個所です。

◎自然遡上で捕れたシペ食文化試行の下準備

・タワシで洗う。	・内臓を綺麗に取る。
・血合いを取り除く。	・三枚おろしにする。
・一口サイズに切る。	・血を抜いて保存。

※今年度一度目の特別採捕としまして伝統的漁法、漁具の試行を行い成果を得ることができました。捕れたシロシペは食文化再現調査の材料に使用しました。

⑨聴き取り調査と実証試験調査

今年度の特別採捕の実施にあたり、町内在住の協力者から昔の伝統的漁法などの聴き取りを行なうとともに、漁具制作の指導を頂き、伝統的漁法の試行、漁具作成試行実施しています。

◎聴き取り調査と実証試験

情報センターでの聴き取り調査を実施

● 昔の川漁

・川に行って漁を始める前に、アミタンネ/モクズガニがいたらひもで縛ってヤナギの木にでも縛り付けとくんだわ、
　カニ多少水がないとこでも生きていられるんだわ、でその時に「魚が捕れなかったら川に帰さんからな」、とモクズガニに言ってから漁を始めていた。
・名前、種類わからんが小さめの銀色のギラギラしたやつがいるんだわ、そのいいやつがカムイチェプって言ってな、それ捕れた時は漁をやめて家に持ち帰って感謝の祈りを込めてカムイノミ（神への祈り）をしたもんだ。
　普通の色の変わった鮭が捕れた時はそのまま持ち帰りカムイノミはしなかったな。

●生活用具、漁具を作る時に必ず使う紐の縛り方について　（例：かんじきについて）

・ブドウヅルよりコクワヅルの方が曲りやすいんだわ、八の字形に曲げて固定したらコクワヅルに切れ目を入れて割って乾かすんだ、コクワヅルも太いやつでやるんだわ、そしてかたどって乾かして二等分に割って１足になる、チセの屋根でもなんでもそうだけどアイヌはこの縛り方するんだピンクくくり（巻き結び）してから男結びでやるんだわ、弓作る時でもなんでもアイヌはこうやるんだわ。

●昔の魚の食べ方●昔の魚の保存方法

・さかなはウグイ、イワナもそうだけどドジョウもだな、釣って持ってきては腹取ってから塩で、あの、魚のぬめりを取るようにな、洗ってから、叩いて、チタタプ（ぬた）に近いくらいな、で、汁に入れて塩味で食べたもんだ。おいしかったよ。

≪聴き取り調査の結果を踏まえ、今後の取り組み≫

聴き取り調査で得られた伝統的漁法や魚の食べ方、保存方法などポイントと注意点を基に次年度以降実施していく予定です。

◎聴き取り文献調査の情報を基に試行結果（二風谷ダムより下流の水生生物生息確認調査）

クトゥ/ど

使用漁具写真

※かつてアイヌが川漁を行う時に網などにカニが掛かった時は、カニに対して「サケやマスが捕れたらお前を川に帰してやる」、とカニに言って捕まえて置いて、川漁を始めていたそうです。次年度もエサを変えてみたりと、調査継続していきます。

クトゥ/ど　の試行

・クトゥのエサにスプン／ウグイを使用

・採取したウグイを小さく切り出す

・細かくなったら袋に入れる

・中にウグイと石を入れて川に沈める

試行結果

・１日経ったら川からクトゥを引き上げる

・ホロカテレケペ/ヌマエビ、アミタンネ/モクズガニがクトゥの中に入っていた

・アミタンネ写真

・ホロカテレケペ/ヌマエビ写真

②やな組工法・木流し工法・石組み工法モニタリング

前年度（平成 27 年度）に設置した木流工法についてのモニタリング結果です（４/28、6/28）

石組み工法設置後(ー)/ニジマスを確認し、その後大雨により流され木流しだけが残りました。川の形が大幅に変わってしまい築組み設置後には徐々に溜まりができているので沢山の魚が住むと思われます。

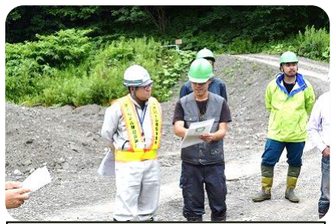
◎モニタリング期間：平成 28 年４月～12 月（８ヶ月）

調　査　日	4/28	5/13	6 /28	8 / 4	10/26	11/28
記 録 写 真	木流し工法の様子	木流し工法の様子	木流し工法の様子	石組み工法の様子	築組み工法の様子	築組み工法の様子
天候／川の水量	晴／普通	晴／少ない	晴／普通	晴／多	晴／普通	曇り／多
川との接し有無	○	○	○	○	○	○
モ イ の 有 無	○	○	○	○	×	○
⇩（渦巻き・淀み）	・川の形が変わり木流しの設置個所に砂利が集まり山になっていた３メートル下流に段差ができて溜まりがあった。スプン/ウグイ、(ー)/ニジマス確認。	・水量は少なく水は綺麗だった。(ー) /ニジマスが流木の下にもぐりこんでいた。	・石組み設置後上流側の木流付近は大きい溜まりが有る。キクレッポ/ヤマメ、ニジマス確認。	・木流工法、築組み工法設置個所より約 20 メートル下流に石組み工法実施しまし台風により大水がでて流された。	・大雨後川の流れが２つに分かれるほど大きく変化した。大水が出たため石組みは全て流されてしまった。	・築組み工法がしっかりと設置されてるため付近に大きな溜まりが有り魚が住みつきやすいと思われる。

木流し工法、築組み工法、石組み工法完成図

●今年度は木流し工法、築組み工法地より約 20m 下流に石組み工法を設置しました。

・事前に打ち合わせて開発事業所の方、工事関係者の方々の協力を得て環境整備の実施ができました。



・組立て方の打ち合わせ。

・工事現場から集めた石。

・重機で石を組んでる様子。

・石組み後の全体写真。

・築組み用杭打ち込み。

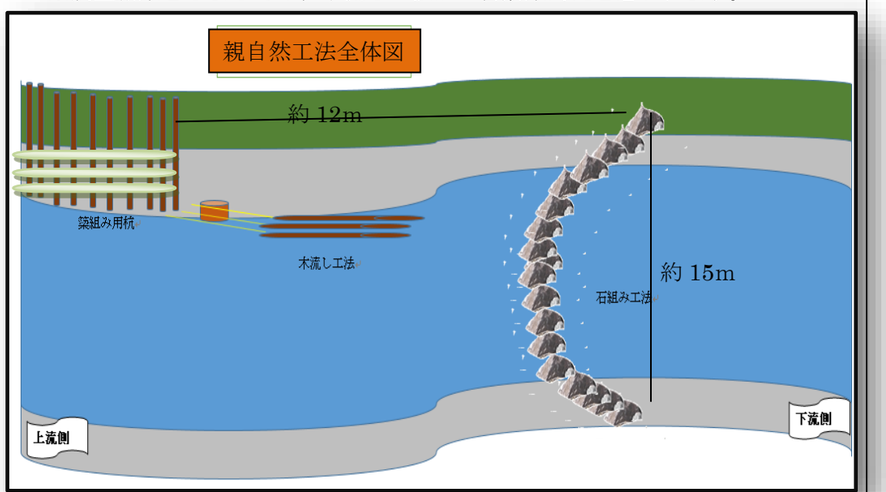
・築組み設置。

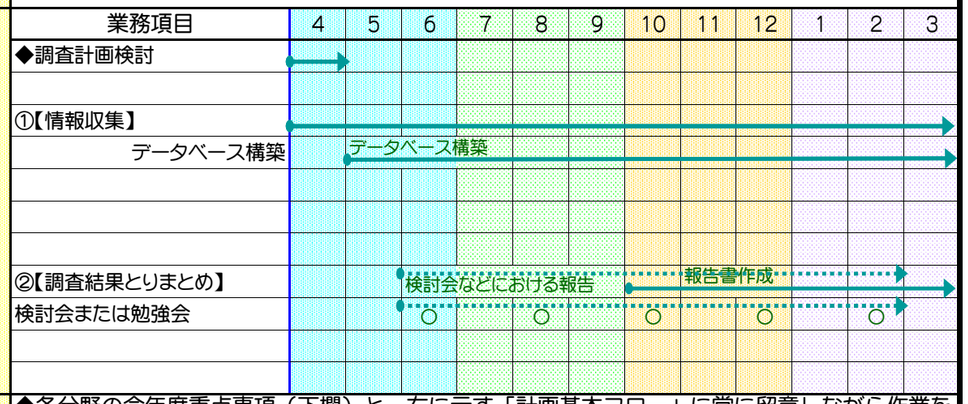
・築組み完成図。

※今年度は築組み工法、木流工法、石組み工法を設置しましたが大雨後の出水のため石組みが流されたので次年度も石組み工法を実施し伝統的漁法、試行調査継続していく。

●８月４日の現況では、築組み、木流し、石組み工法が設置されていたことになります。

※調査結果としましては、木流し工法が一番効果的だと思われます。

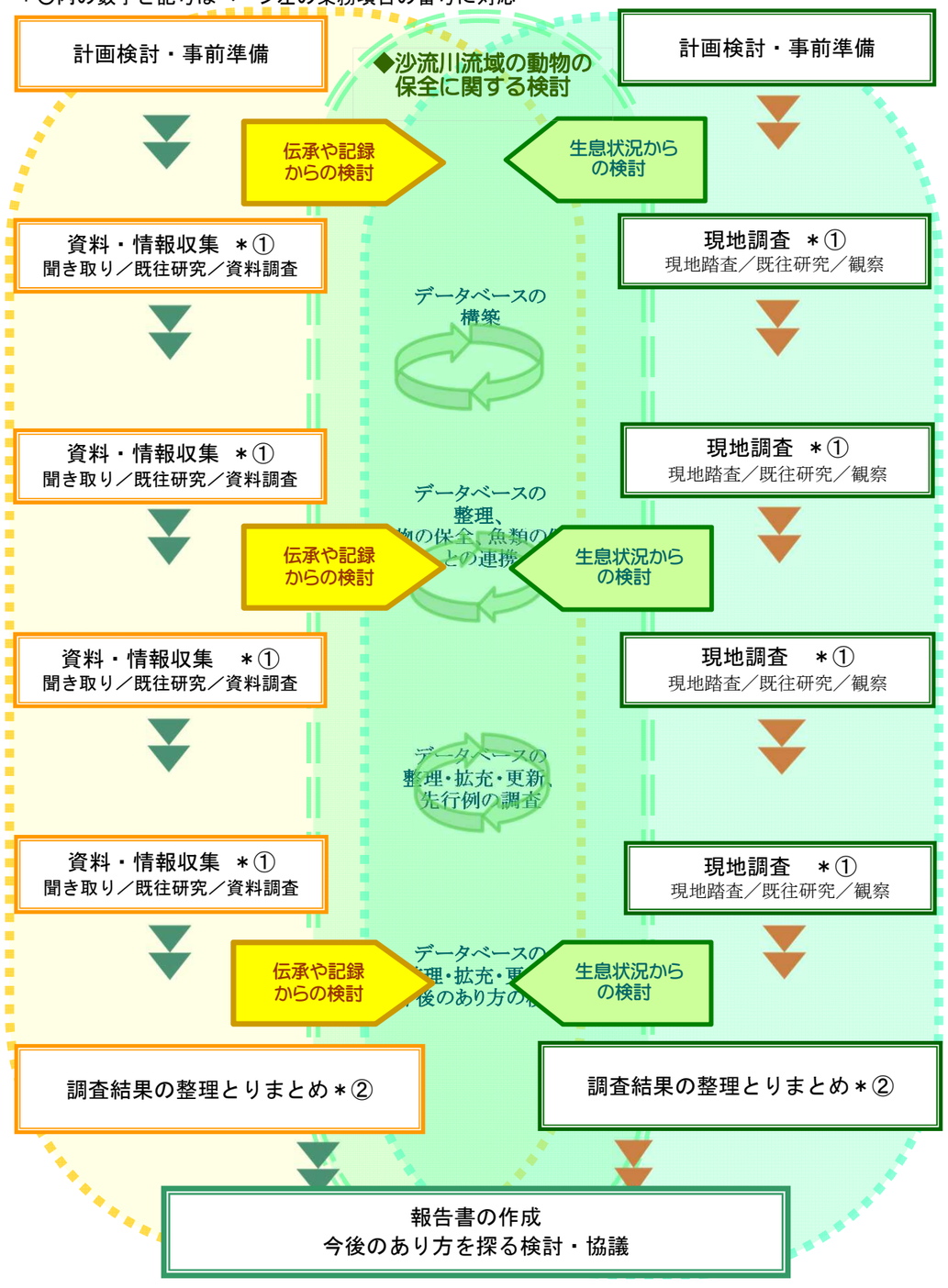


事業名	2016(平成28)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**2 - 生活文化現地調査 3動物の保全対策に関する調査**
目的／課題 ※1 〈注〉※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆沙流川流域で継承されている口承文芸や踊りの中で、動物の保全に係る内容を抽出し取りまとめを行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【内容抽出】 沙流川流域で継承されている口承文芸や踊りの中で、動物の保全に係る内容を抽出する。 ②【調査結果取りまとめ】 調査結果をとりまとめる。
想定する成果 （状況/物品）	＊〇内の数字、記号は上の欄に対応 ①⇒　動物に関する伝承のデータベース ②⇒　成果をまとめた報告書：整備計画の発展的更新を含む
年間作業工程 （行程）概要	
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・〇副担当	◎貝澤朱美　〇川奈野弘美 ／ 藤川涼子
補佐	◇貝澤耕一 ／ 山本　雄　［吉原秀喜］
今年度 重点事項	★アイヌ伝統文化における動物関連情報を集積・整理・分析し、イメージを豊かにしていく。保全対策の先行例などの調査も進め、今後のあり方を探る検討・協議を進める。

■2-3 動物の保全対策に関する調査の計画基本フロー

【想定する成果の重点】
★アイヌ伝統文化における動物関連情報を集積・整理・分析し、イメージを豊かにしていく。保全地策の先行例などの調査も進め、今後のあり方を探る検討・協議を進める。

＊〇内の数字と記号はページ左の業務項目の番号に対応



2-3 生物の生存環境現地調査：動物の保全対策に関する調査 ～この分野の作業概況～

０１◆現地調査の際に記録した動物

０２◆定点カメラ設置

０３◆定点カメラ設置

０４◆定点カメラに写ったﾕｸ

０５◆定点カメラに写ったﾕｸ

０６◆動物に係る口承文芸について文献調査

０７◆定点カメラ画像の整理

０８◆データ整理及び報告書作成

０９◆チーム協議

１０◆現地調査

１１◆冬の動物痕跡の調査

１２◆雪上に残る動物の足跡

H28年度
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝今年度重点事項

A◆＝沙流川流域で継承されている口承文芸や踊りの中で、動物の保全に係る内容を抽出し取りまとめを行う。

B◆＝①【内容抽出】
沙流川流域で継承されている口承文芸や踊りの中で、動物の保全に係る内容を抽出する。
②【調査結果取りまとめ】
調査結果をとりまとめる。

C◆＝★アイヌ伝統文化における動物関連情報を集積・整理・分析し、イメージを豊かにしていく。保全対策の先行例などの調査も進め、今後のあり方を探る検討・協議を進める。

２−生物の生存環境現地調査

３　動物の保全対策に関する調査

■目次　【ｉ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題　【ⅱ】
◎作業状況―写真による業務説明　【ⅲ】

■調査の成果
Ａ．沙流川流域における動物に関する情報収集　【１】
ア）既存報告書からの抽出　【１】
イ）口承文芸等の文献からの抽出　【５】

Ｂ．現地調査　【14】
ア）今年度行った現地調査の際に見かけた動物の記録　【14】
イ）これまでの現地調査の際に見かけた動物の記録と口承文芸、踊りとの関わり　【15】
ウ）定点カメラによる動物の記録　【17】

Ｃ．動物保全に関する調査　【29】
ア）事例、先行例など　【29】
イ）保全対策案　【29】

■関連資料
○平取ダム地域文化保全対策検討会における平成 18～20 年度の保全対策の検討状況とりまとめ資料　３−３動物に係る保全対策の検討　【関連資料−①】

○動物の保全にかかる口承文芸等一覧　【関連資料−②】

A．沙流川流域における動物に関する情報収集

ア）既存報告書からの抽出

これまでに調査報告を行なってきたものから、動物に関わる部分を抽出し、一覧にしてまとめました。

年度	報告書名	対象動物	主な調査形態	概要及び内容一部抜粋
2003-2005	『総括報告書』第５章　第２節　第１項　信仰対象の動物	キムンカムイ/ヒグマ	聴き取り、文献調査	アイヌの人々にとってのヒグマはキムンカムイとよばれ、獣の中で１番強い山の神として崇められてきました。そのため、キムンカムイを獲ると、魂を神の国へ送り返し再訪を願うためのイヨマンテ（クマ送り）を行いました。沙流川筋の各コタンに於いては、パセオンカミ（位の高い神への祈り）の対象となるのは二神であり、一神は必ず“熊の大王神[1)]”であると書かれた文献もあります。 ・食べ物　・額平川流域のキムンカムイ
		シチカプ/クマタカ	聴き取り、文献調査	シケレベのある家系Ｚａ家では“人を襲ったくまをシチカプ（クマタカ）が倒したことから、以来イナウ（木で削った御幣のような物）と神酒を捧げてノミする様になった”そうです 111)。
		コタンコㇿカムイ/シマフクロウ	聴き取り、文献調査	ふくろうが神と崇められるわけは、国を造り終えたコタンカラカムイ（国造りの神）が、フクロウ神に“木や草の種をまくように”言いつけ、ふくろう神は種をまきました。そのおかげでアイヌは食べ物に困らないということが由来となっています 117)。
		チピヤㇰカムイ（シギ神）	文献調査	チピヤㇰカムイ（しぎ神）は耳を治してくださる神とされ 136)、荷負本村の女性Ｚｂさんが語ったカムイユカラ（神謡）にでてくるチピヤㇰはオオジシギであると訳されています 137)。
		ユㇰ/エゾシカ	聴き取り	宿主別で猟をしていた貫気別の女性Ｉさんのおじいさんは、ユㇰを獲った時には、キムンカムイ（ヒグマ）を送るほど盛大なカムイノミ（神への祈り）はしませんでしたが、火の神様に報告をして供える程度のことはしていました 139)。
		ウパシチロンヌプ/白いキツネ	聴き取り	縁起のいいものと信じられていたウパシチロンヌプ（雪のように白いキツネ）は、滅多に目にしたり、手にすることはできないといわれています 141)。
		チロンヌプ/キタキツネ	聴き取り	アイヌの人たちはチロンヌプを飼うこともあり、キツネ送りをして神の国へかえしてやりました 143)。1912（大正元）年にヌキベツコタンで、キツネ送りがあったそうです 144)。
		モユㇰ/エゾタヌキ	聴き取り	1961（昭和 36）年に、貫気別の男性Ｗｃさんが、モユㇰを生きたまま捕り、しばらく養ってから狢(むじな)送りをしました 146)。
		イセポ/エゾユキウサギ	聴き取り	イセポは骨だけにして、美しいイナウ（木を削った御幣のような物）でつつみ、イナウをまるめて目として入れ、舌をつけ、長い耳を立て、生きたイセポのようにしつらえ、しばらくの間、母屋の上座の窓のところへぶら下げておき、のちに外の祭壇にもっていって、神の国へ送り帰しました 148)。
		ホイヌ/エゾクロテン	聴き取り	雨乞いの儀式には、雨乞いの神であるホイヌサパ（テンの頭）を使いました 150)。 昔、ホイヌは毛皮が高く売れたために乱獲されましたが、振内のＱａさんによると現在は増えているそうです 151)。貫気別の男性Ｈａさんは４・５（2000・2001）年前ぐらいからホイヌと思われる小動物の姿を確認しており、ホイヌがいるらしいと他の人からもよく聞くそうです 152)。
		キナスッカムイ（ヘビの神）	聴き取り	二風谷の男性Ｍａさんは 1943（昭和 18）年頃、キナスッカムイに憑かれ、腹痛を起こしました。近所の女性Ｂｄさんに診てもらったところ“蔵を番兵していたキナスッカムイが、自分の蔵が壊され、行くところが無くなり憑いた”らしいことがわかり、近所の女性Ｂｄさんが送ってくれたそうです。二風谷の男性Ｍａさんは“その蛇は、もう神様になって天に上がったと思う”と語っています 154)。
		シペ/シロザケ	聴き取り	二風谷の男性Ｎｂさんは、初漁のさけには丁寧にオンカミ（礼拝）した後、近所のおばあさんたちを起こして、皆で集まって食べたそうです 160)。
		アミタンネ・ペトルンアンパヤヤプ/モクズガニ	聴き取り、文献調査	アミタンネは、直接水の神に話ができる神なので、水の神に直接話さないときには、アミタンネを通して水の神に話していた 161）そうです。
		ホㇿカレイェプ/ニホンザリガニ	聴き取り	ホㇿカレイェプは川原につないで、雨を降らせる呪(まじな)いに使われました 164)。

動物の保全にかかる口承文芸等一覧

アイヌ語名	和名	口承文芸に登場する名称	ローマ字表記／訳語			カムイユカラ（神謡）	ユカラ（英雄叙事詩）	ウウェペケレ（昔話）	ウパシクマ（言い伝え）	踊り	その他	口承文芸の題名	語り手	内容	出典	掲載箇所
サクソモアイェプ	大蛇	大蛇	[sak somo a=ye p]大蛇。 【萱野p.253】	爬虫類/蛇の類/蛇体の神/ (12)sak-somo-aye-p(サクソモアイェプ)[（sak-somo-aye-p(夏・云われ・ぬ・者)]《ホロベツ;サル》 毒蛇は大蛇に羽のはえた姿に考えられ,蛇の習性として暑いときは元気だが,寒さには極度に弱い。それで女にはこの神の噂をしてはいけない。火のそばでその噂をするのは以てのほかだ。反対にこの神は寒さに極端に弱いから竜蛇を退治するには 1.みぞれを呼ぶ《ゆうから90》 2.アメマスやカワウソを使う《ゆうから 90》 3.雷神を退治るにもミゾレを呼ぶ《樺説》 【知里p.228】		●						「ミントゥチカムイ イケスイモトホ（ヘムノエ）」河童が去ったわけ	平賀さだも	萱野：〔中略〕saksomoayep〔大蛇の化け物〕といういわゆるアイヌの考え方でいったら竜というか、大蛇というか、 平賀：いや、大蛇。 萱野：それがおるということ言った。そしたらそこへまだ、それを行って征伐するようにと言うと、その mintuci kamuy〔河童の神〕は、もう喜んで、吹っ飛んで行った。行ってみると、それには少しこう、手ごわいんだけれども、見ると、口のへり、あるいは目のふちに hure saranpe a=ekaye apekor an〔赤い絹を折って縫ったような〕という表現で出ていますが、口のへりや目のふちに赤いきれで、こう折り…… 赤いきれを 【「8-7 カムイユカラ『ミントゥチカムイ イケスイモトホ（ヘムノエ）』解説 」より一部抜粋】	【国立大学千葉大学『アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業 第2年次（北海道沙流郡平取町）調査研究報告書』2015年 p.641】	p.8, ℓ.12 V サクソモアイェプ V saksomoayep 大蛇 p.11, ℓ.5 サクソモアイェプ saksomoayep 大蛇 p.12, ℓ.5 V サクソモアイェプ V saksomoayep 大蛇の
		サクソモアイェプ				●						「シコッ ウン サクソモアイェプ sikot un sak somo a=ye p」支笏湖の大蛇	黒川てしめ	私は支笏湖に住む大蛇。ある日オキクルミとサマユンクルが船でやって来て「昨夜、大蛇に追いかけられる夢を見たのに、忘れてしまった」と言うものだから、私は腹を立ててオキクルミたちを追いかけ回した。しばらくして目を覚ますと、木の枝にぶら下がった私の身体を、オキクルミが切り刻んで辺りにばら撒いているのが見えた。「おまえの臭いがひどいものだから、この辺りに草木も生えず、近づいた者さえ死んでしまう。困ったアイヌたちに頼まれてお前を退治しにきたが、理由もないのに殺すことができないので、わざとおまえを怒らせて殺したのだ。これからもそうしたならば湿地の国に追放して人間の国土に住めないようにしてやるぞ」とオキクルミが言った。それからというもの、支笏湖の周囲には草も木も生えるようになった、という話。 【萱野茂：〔「各話のあらすじ カムイユカラのあらすじ シコッ ウン サクソモアイェプ 支笏湖の大蛇」『萱野茂のアイヌ神話集成』第10巻 資料編+総説+総目次 ビクターエンタテインメント 1998 p.154〕より一部抜粋】	【萱野茂『萱野茂のアイヌ神話集成』第1巻 カムイユカラ編Ⅰ，ビクターエンタテインメント 1998年 p.8】	シコッ ウン サクソモアイェプ sikot un sak somo a=ye p 支笏湖の大蛇 p.22, ℓ.222 ふーん、何よそれは? サクソモアイェプ*2〔sak somo a=ye p〕。サクソモアイェプって言うんだからそれでフラハ ルイ〔huraha ruy〕してだから、これからの意味アエラマン〔a=eraman〕したべ。 *2―サク ソモ アーイェ プ 大蛇。本来の意味は「あからさまに名前を呼んではいけないもの」。
—		ヘビ/大蛇						●				ヘビの血	黒川きよ	大蛇の話はしばしばありますが、めったにアイヌが負けることはないものです。しかし、この話ではアイヌの若者がヘビの女神?に魅入られ、とうとう死んでしまいます。 【萱野茂：〔「ヘビの血 解説」『カムイユカラと昔話』1988 小学館 p.78〕より一部抜粋】	【萱野茂『カムイユカラと昔話』1988年 小学館 p.74】	ヘビの血 p.74 そこには大蛇がいたのです。 p.74 大蛇がこのまま私を見逃すわけはないと思い、さっと走りました。すると、大蛇は木の枝の上から滑るように下りて、
サロルン(チカプ)/サロルンカムイ	鶴	茅原	[sar-or-un(cikap)]ツル〔鳥〕。 【萱野p.258】 [sar-or-un-kamuy]ツル〔鳥〕。 ▷サラ=湿地 オロ=所 ウン=住む カムイ=神 →サロルンカムイ 【萱野p.258】	鳥類/つる科 Gruidae §367.つる(鶴);タンチョオ Grus jaaonicus(D.L.S.MULLER)/ (3)sarorun（サろルン）[sar-or-un-cirの下略]《レブンケ;ピラトリ;オギフシ;シズナイ;クッシャロ》 注.―《和愛辞典》に「オクシネシャロルン」真鶴（まなづる），「ポロシャロルン」雛鶴（ひなづる）。 【知里p.212】	sarorun サロルン 【名】[sar-ir-un 葦原・の所・にある/いる][<sariryb-cikap 葦原の鳥][動物]ツル（タンチョウヅル）。《W》《S》 sarorun kamuy サロルン カムイ ツルの王。《S》 sarorun tono サロルン トノ ツルの王。《S》〔知分類 p.212〕[E: aJapanese crane.] 【田村p.610】	●						「サロルン ニッネプ（サンタイキヤンキリヤン）」茅原の化け物	鍋澤ねぷき	萱野：えーと、私は一羽の鶴でありました。えー、魚を捕って食べておったり、食べたりしておる。そこへ人間が来ると人間をもとって食う。そういう悪さをしておった一羽の鶴でした。ある日のこと、ずっと向こうの方から物音、声がするので見ると、arsarus という、その獰猛な熊がやってきて、この悪い鶴め、お前を叩き殺してやるというわけで襲いかかってきた。そうしたら、あー、鶴である私、一方の足は陸（おか）の方へ一方の足は水へ浸かるぐらいにしてかまえた。向こうから来る、その arsarus という化け熊もそれと同じようなかまえをして、えー、まあ、取っ組みあった。 そうすると、arsarus も普通の心臓の、at というのは心臓の糸、が六本、鉄で出来た心臓の綱が六本というふうに、もうすごく心臓も丈夫。けれども、その鶴もそのように、arsarus もそのような kane えー、sampe an… at〔鉄の心臓の糸〕六本というふうに、鉄で出来た心臓の糸が六本、 普通のが六本というふうに持っているので、双方四つに組んで大格闘をしてどっちも死んだと、一羽の鶴が自分で語りました 【「15-9 カムイユカラ『サロルン ニッネプ（サンタイキヤンキリヤン）』解説」より抜粋】	【国立大学千葉大学『アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業 第2年次（北海道沙流郡平取町）調査研究報告書』2015年 p.1407】	p.2, ℓ.12 V [サロルン ニッネヒ V "sarorun nitnehi 「茅原の化けもの p.6, ℓ.5 サロルン ニッネヒ ハウェアン sarorun nitne hi hawean 茅原の化け物が言った。
シエパシクル	カラス	くそ食いカラス	[si-e-paskur]ハシブトガラス。 【萱野p.260】	鳥類/からす科 Corvidae §298.ハシブトガラス Corvus levaillantii japonensis BONAPARTE/ (1)si-paskur（シパシクル）[糞・がらす]《ホロベツ》ハシブトガラス	sie-paskur シエパシクル 【名】[si-e-paskur 糞・を食べる・カラス][動物](カラスの一種、くちばしが長い。ただカーカと鳴く。）ハシブトガラス(?)〔知分類になし。P.179 si-paskur((ホロベツ))ハシブトガラス〕[E: a type of crow.] 【田村p.623】			●				「カラスと赤ん坊」	鍋沢さだ	ここでの教えは、山へ行って子供をシンタ（揺すり台）へ入れておく場合に、その子供から目を離さないように、ということです。〔中略〕 話の中の子どもを盗んだカラスのことですが、悪役のカラスはアイヌ語でシエパシクル（くそ食いカラス）といって、ハシブトガラスのことです。いい役目で登場するカラスはカララッといい、ハシボソガラスのことで、人間を助けたりします。 それと、子どもを育てたのはよかったが、あまりにも狩りが上手で、毎日シカやクマを捕ってくるので、その皮張りをしなければならない母親（カラス）が思わず愚痴をこぼしたわけです。その愚痴の中で、皮張りばかりを仕事にして、私の指先は針傷だらけといっています。シカの皮などは厚いので、針に糸を通して皮を張る場合、指先で針を押すと、針の尻で指先や手によく傷がつくものです。その描写が現実的で、アイヌが聞くと生々しく聞こえます。 【萱野茂：〔「カラスと赤ん坊 解説」『カムイユカラと昔話』1988 小学館 p.39〕より一部抜粋】	【萱野茂『カムイユカラと昔話』1988 小学館 p.34】	p.35 それも、くちばしの太い、シエパシクル（くそ食いカラス）でした。
シソヤ/シソヤカムイ	スズメバチ	スズメバチ	[si-soya] 赤バチ、スズメバチ。 【萱野p.265】	節足動物,昆虫類,甲虫類/すずめばち科 Vespidae/ §122.スズメバチ/ (2)si-soyakamuy（シーショヤカムイ）〔〕《本別》スズメバチ（井上）7 熊も恐れるというハチで、家の中に入ってくれば幸運の前兆とされる。その他のVespa類もやはり sisoyakamuy である。 【知里p.87】	sisoya シソヤ 【名】[si-soya 大きい・蜂][動物]スズメバチ(?)。「大きな、刺すと痛い蜂（ハチ）。巣は木から軒から等下げる、土中ではない。」《S》☆参考 toysoya トイソヤもスズメバチらしい。これは土の中に巣をつくる。〔知分類p.87 モンスズメバチ、オオスズメバチ〕[E: a large stinging bee.] 【田村p.664】	●						「ミンドチ アコラムコロ mintuci a=koramkor」河童と美女	平賀さたも	「十勝川の河口に住む美しいアイヌの娘を嫁にほしいと思った河童神が、アイヌの村に住み着いているのを心配した神々は、村長に、化け物退治をしてくれたら嫁にやろうと言わせる。大蛇は退治したもののスズメバチを退治できなかったために村を追い出され、どこにも泊めてもらえない河童神は、静内川が二つに分かれる東の川の源に住む化け物の所でやっと泊めてもらう。化け物同士が同情しあって酒を作ったが、その入れ物が引っ繰り返ると国中が大洪水になってしまう。心配した神々は、幌尻の神を行かせ、ゆっくりと酒桶をゆすって酒をこぼしているものだから春から秋までずっと洪水が続いている」。こんな神の話を夢に見た人がいるというので、村中で神に力を付けようとあちらこちらで神を労っている、という話。 【萱野茂：〔「各話のあらすじ カムイユカラのあらすじ ミンドチ アコラムコロ」『萱野茂のアイヌ神話集成』第10巻 資料編+総説+総目次 ビクターエンタテインメント 1998 p.158〕より一部抜粋】	【萱野茂『萱野茂のアイヌ神話集成』第1巻 カムイユカラ編Ⅰ，ビクターエンタテインメント 1998年 p.120】	p.134, ℓ.228 シソヤ ニッネイ sisoya nitne hi スズメバチ p.136, ℓ.259 シソヤ カムイ sisoya kamuy スズメバチたち
シチカプ	鷲	ワシ		鳥類/わしたか科 Accipitridae §340.オジロワシ Haliaeetus albicilla albicilla(LINNE) / (7)si-cikap(シチカプ)[<真・鳥]《テシオ;チカプミ;シズナイ;ホロベツ;ホベツ》 【知里p.200】	sicikap シチカプ 【名】[動物]①ワシ（「ワシ」(鷲) の訳語として出た）。《S》②「…(?)ダカ。名前は分かっているがみたことないからわからない。」〔知分類 p.200 オジロワシ、（ほかに文献の引用で）クマタカ〕[E: ①an eagle. ②a type of hawk (exact name unknown).] 【田村p.623】			●				「ヌサコロカムイ イカオピューキ」祭壇を司る神さまが私を助けた	貝澤とぅるしの	川上の男がこう言うそうです。二人の子供を持っていて、それから「川上の方でタカ神たちが巣を作っているぞ。一羽取って来たやつだけに私の宝物を全部与えるつもりだ。」と言いました。〔中略〕いつも、そこへ人々を誘ったり人を試しているという話を聞いていたのだけれども、ある晩、私は夢を見ました。いかにも神であるらしい者がいて、このように言いました。「そこの立派な若者よ、お主をこそ私は見込んでいるのだ。この私は祭壇を司る神であって、お主に授けものをする。この金の矢を持って、明日お前が例の長者に頼みごとをされるのが見えたのでお主に告げるためにやって来たのだ。この金の矢を持って行って様子を見ろ。お主の後ろから私が見守っているから」という夢を見て、だまって静かに礼拝を繰り返し、しばらくするとそれから、本当に「『ここにいる若者であればこそ、タカの神を獲るだろうよ。そのタカの肉を私は食べたい』と、うちの老爺が言っています」という連絡が来たので、父は怒りの言葉をはいた。「何をそれほどまでに食べたがって、このように言うのだ?タカだって? ワシだって?」と、言いました。そうしたら「ワシだ」という。「大きいワシばかり巣を作って、大勢でいるところからワシを一羽持って来た者に大層な見返りを与えてやる」と、言うのだそうです。 【「6-1 ウエペケレ『ヌサコロカムイ イカオピューキ』祭壇を司る神さまが私を助けた」より一部抜粋】	【国立大学千葉大学『アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業 第2年次（北海道沙流郡平取町）調査研究報告書』2015年 p.434】	p.6, ℓ.3 カパチン ネ ハウェ アン? シチカプ ネ ハウェ アン?」 kapacir_ne hawe an? sicikap ne hawe an?" タカだって?ワシだって?」 p.6, ℓ.5 「シチカプ」 "sicikap" 「ワシだ」 p.6, ℓ.7 「ルプネ シチカプ パテク セッ カラ ワ インネ ワ オカ ウシケヘ ワ "rupne sicikap patek set kar wa inne wa oka uskehe wa 「大きいワシばかり巣を作って、大勢でいるところから p.6, ℓ.8 シチカプ シネプ ウク クル パセ アタイェ アコレ クシネ」 sicikap sinep uk kur pase ataye a=kore kusne" ワシを一羽持って来た者に大層な見返りを与えてやる」

※ここに挙げている表は一部で全データは関連資料-②を参照ください。

【萱野】=萱野茂 『萱野茂のアイヌ語辞典 増補版』 2002年 三省堂
【知里】=知里真志保 『分類アイヌ語辞典 第二巻 動物篇』 1962年 日本常民文化研究所
【田村】=田村すず子 『アイヌ語沙流方言辞典』 1996年 草風館

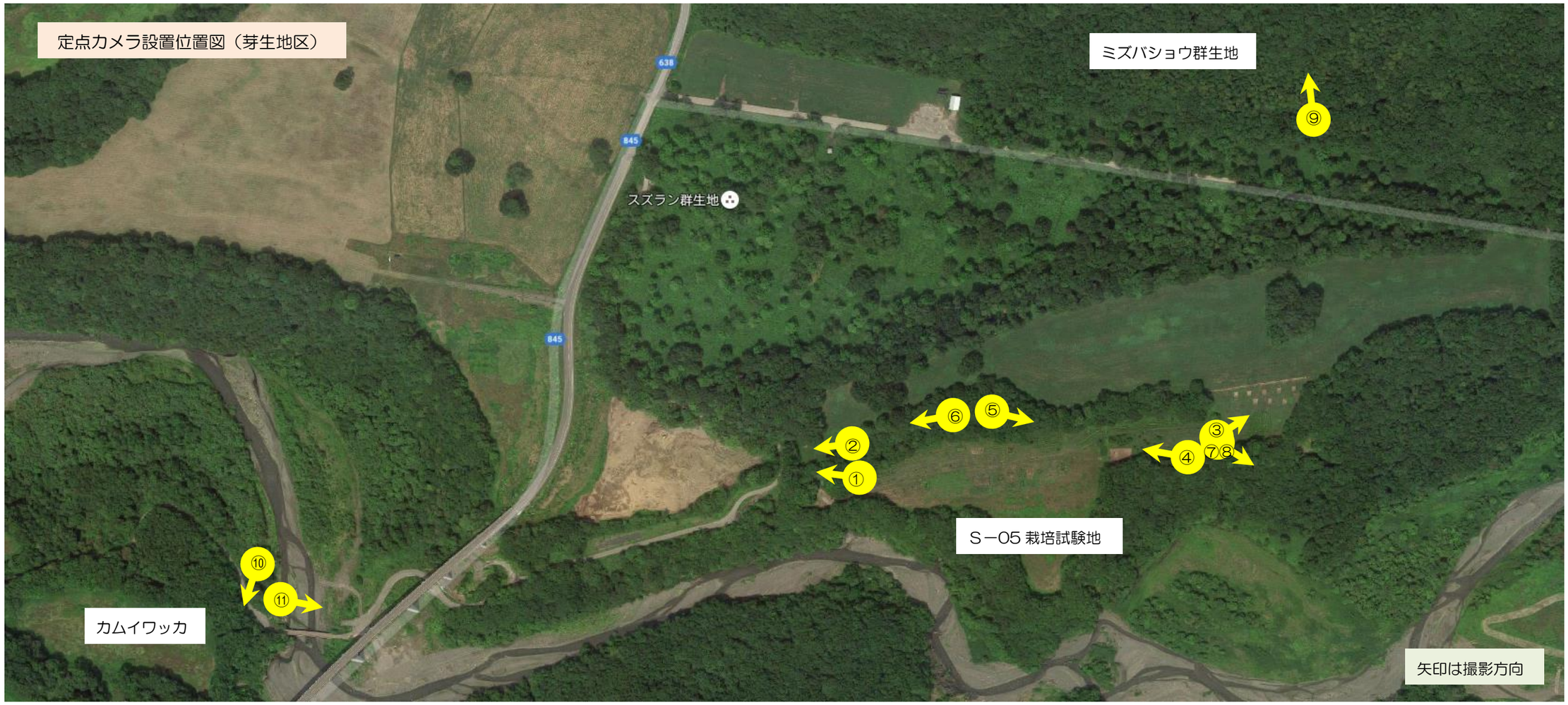
B．現地調査

ア）今年度行った現地調査の際に見かけた動物の記録（定点カメラの記録以外）

日付	場所	種類（アイヌ語名/和名）	記録した動物と痕跡
4月6日	S-05 池	/コガモ	
	S-05 池周辺	チロンヌプ/キタキツネ	
11 日	S-05 池	ー/コガモ	
	二風谷ダム管理棟周辺	ー/ベニマシコ	
18 日	豊糠橋付近	チロンヌプ/キタキツネ	
21 日	かつら峠	ユク/エゾシカ	
5月2日	沙流川河道掘削調査箇所 kp11.6	シチカプ/オジロワシ	
	kp13.2 付近	モユク/タヌキ	
6日	S-05	チロンヌプ/キタキツネ	
		/カナヘビ	
16 日	宿主別川流域	チロンヌプ/キタキツネ	
23 日	二風谷育苗畑１	/カルガモ	
30 日	S-05	鳥の卵	
6月6日	二風谷育苗畑２	ー/カナヘビ	
10 日	宿主別橋	チロンヌプ/キタキツネ	
22 日	二風谷カンカン林道	チピヤク/シギ	
		トッコニ/マムシ	
24 日	育苗畑２	ー/キジ	
		ー/ヒヨドリ	
30 日	鉱山の沢	フマルラプ/エゾサンショウウオ	
7月 13 日	―	ペッチャエワク/アオサギ	
27 日	湧水水量調査箇所（ペロ枯れ木付近）	鳥の卵	
	―	トッコニ/マムシ	
8月 12 日	ヌタップ林道	ー/キジ	
31 日	―	コメチリ/カワアイサ	
10 月 14 日	ヌタップ林道	ルオカムイ/シマヘビ	
12 月 16 日	S-05	ウサギの足跡	
22 日	二風谷ダム下流	シチカプ/オオワシ	
	平取大橋		
1月 20 日	カムイワッカ周辺	足跡（キツネ？）	
25 日		イセポ/ウサギ（足跡）	
26 日		足跡	
	ペロ湧水周辺	イセポ/ウサギ（足跡）	
31 日	カムイワッカ下川原	ユク/シカ（足跡）	

ウ）定点カメラによる動物の記録–

動物の行動や種類、個体数等を把握するために、動物の痕跡がみられる箇所を任意で選び定点設置しました。以下は設置した箇所ごとに確認できた動物をまとめたものです。

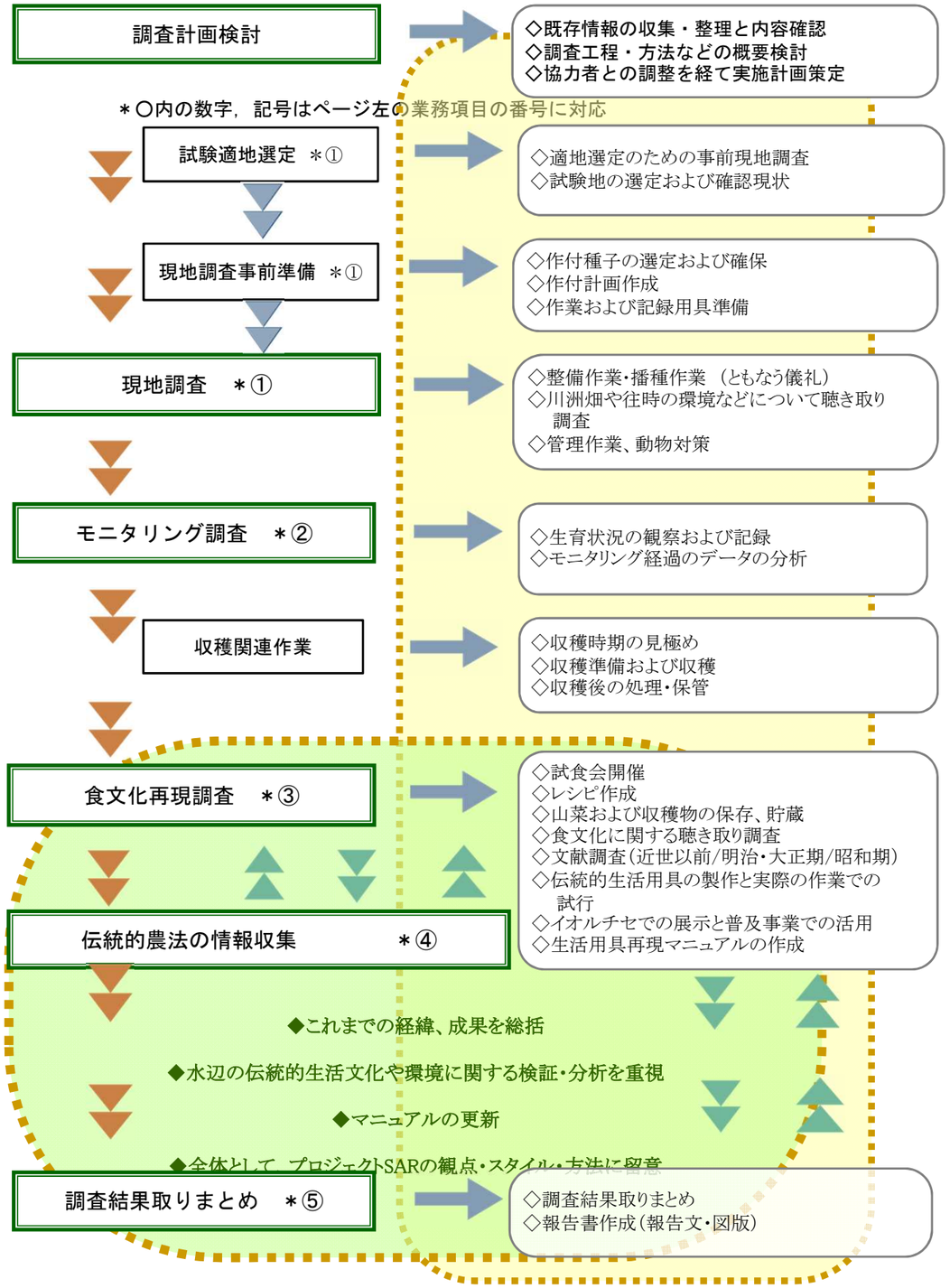


設置箇所・撮影方向	撮影方向写真	日付	動物名（アイヌ語名/和名）	時間	個体数	天候	行動	動画・静止画
①S05 池周辺		8月2日	ユク／エゾシカ	4：01	1		道路を歩いている	動画
				4：03	1		道路を小走りで移動	
				18：36	1		道路を歩いている	
		8月3日		00：06	1		〃	
				3：13	1		〃	
				7：00	1		〃	
		9月16		18：31	4		草を食べながら道路を歩いている	
				22：30	3		草を食べている	
		9月17日		19：37	1		道路を歩いている	
				20：51	2		草を食べながら道路を歩いている	
				22：10	2		親子と思われる。道路を歩いている	
		9月18日		2：06	1		草を食べながら道路を歩いている	
				4：52	1	晴れ	池の横の草地にいる	
				17：37	4		2組の親子が道路を歩いている	
		9月19日		1：08	2		親子と思われる。草を食べながら道路を歩いている	
			？	5：09	2		映像は分かりづらく、一瞬で駆け抜けていった	
			チロンヌプ／キタキツネ	7：02	1		道路を小走りで移動	
				14：06	1		道路で下を向いて何かをしている	
		9月20日	ユク／エゾシカ	5：24	2		親子と思われる。道路を歩いている	
		9月21日		5：03	1		池の方から走って来た	
		9月22日		6：16	5		道路と草本移植箇所を歩いている	
		9月23日		3：28	3		道路を歩いている	
		9月24日		22：39	2		道路の草を食べている	
		9月25日		3：14	2		親子と思われる。道路を歩いている	
		9月26日		5：08	4		草を食べている。離れた場所に雄が1頭いる	
②S05 池周辺 試験地入り口方向		11月10日	ユク／エゾシカ	18：02	1	晴れ	雄。歩いている	
			チロンヌプ／キタキツネ	19：35	1		小走りに走り去る	
				20：14	1		歩いている	
		11月11日	ユク／エゾシカ	4：11	2		歩いている	
			チカプ／ミヤマカケス	11：53	1		枝に止まっている	
		11月12日	ユク／エゾシカ	18：37	1		雄。歩いている	
		11月13日	チロンヌプ／キタキツネ	18：57	1		小走りに走り去る	
			ユク／エゾシカ	21：36	1		道路を歩いている	
		1月20日	チロンヌプ／キタキツネ	15：02	1	晴れ	シカ柵の下を通り抜けていった	
③S05 圃場 斜面方向		7月28日	ユク／エゾシカ	19：32	2	雨	視界が悪く、目の反射で個体数を判断。草を食べている様子	
				19：35			前述の個体が移動して、木の葉っを食べている	
		7月29日		1：55	1		移動している	
			チロンヌプ／キタキツネ	11：17	1	晴れ	小走りで圃場斜面に移動している	
			ユク／エゾシカ	18：54	2	晴れ	草を食べている	
				19：26	1	晴れ	〃	
				19：55	1	靄	〃	

事業名	2016(平成28)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**3 - 生活文化現地調査**
目的／課題 ※1 〈注〉※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆川洲畑栽培マニュアル（案）に基づき、栽培に適した条件整理に向け、川洲畑実証試験を行い、川洲畑を利用した体験学習の実施を行う。また、収穫物を利用したアイヌ文化期の食文化等の再現を行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【現地調査】 川洲畑栽培マニュアル（案）に基づき、栽培条件に適した条件整理に向け、実証試験の適地選定、事前準備及び栽培試験を行う。 ②【モニタリング】 川洲畑現地調査状況把握のためのモニタリングを行う。 ③【食文化再現調査】 調査結果を基に、アイヌ文化期の食事についての再現（調理）を行う。 ④【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめる。これまでの調査結果を基に川洲畑調査マニュアル(案)を更新する。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字、記号は上欄に対応 ①⇒　これまでの調査を踏まえた実施計画／現地作業等とそのプロセスの記録 ②⇒　モニタリング（種別・条件別）のデータと分析 ③⇒　食文化の再現（レシピ集の作成と公開／試食会開催／評価／レシピ集更新） 関連生活用具製作とその活用(製作マニュアルの作成を含む) ④⇒　①・②・③の成果をまとめた報告書 マニュアルの構成　Ａ：「川洲畑」という農法に関するマニュアル Ｂ：「川洲畑」の調査・研究・活用方法に関するマニュアル
年間作業工程 （行程）概要	
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎川奈野弘美　　○及川直美 ／ 藤川涼子 ／ 久保拓史
補佐	◇木村真奈美 ／ 山本　雄　　［吉原秀喜］
今年度 重点事項	★伝統的生活文化とその環境について探求するための民族(民俗)学的実験として主に食物栽培に取り組み、その成果を多角的に検証・分析しつつ、食文化もふくめて今日的な活用を促進する。

■3-生活文化現地調査の計画基本フロー

【想定する成果の重点】
★伝統的生活文化とその環境について探求するための民族(民俗)学的実験として主に植物栽培に取り組み、その成果を多角的に検証・分析しつつ、食文化もふくめて今日的な活用を促進する。



3 -生活文化現地調査　～この分野の作業概況～

０１◆試験地選定の土壌調査

０２◆体験者指導による耕耘作業の様子

０３◆体験者指導による播種体験学習の実施

０４◆豊糠川洲畑整備作業

０５◆山菜の採取作業

０６◆山菜の乾燥作業

０７◆モニタリング調査

０８◆伝統農具での収穫体験学習の実施

０９◆食文化試行（調理作業）

１０◆食文化試行（試食会の実施）

１１◆雑穀畑整備（堆肥混入）

１２◆伝統的生活用具製作

H28年度
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝今年度重点事項

A◆＝川洲畑栽培マニュアル(案)に基づき、栽培に適した条件整理に向け、川洲畑実証試験を行い、川洲畑を利用した体験学習の実施を行う。また、収穫物を利用したアイヌ文化期の食文化等の再現を行う。
B◆＝①【現地調査】 川洲畑栽培マニュアル(案)に基づき、栽培条件に適した条件整理に向け、実証試験の適地選定、事前準備及び栽培試験を行う。
②【モニタリング】 川洲畑現地調査状況把握のためのモニタリングを行う。
③【食文化再現調査】 調査結果を基に、アイヌ文化期の食事についての再現(調理)を行う。
④【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめる。これまでの調査結果を基に川洲畑調査マニュアル(案)を更新する。
C◆＝★伝統的生活文化とその環境について探求するための民族(民俗)学的実験として主に食物栽培に取り組み、その成果を多角的に検証・分析しつつ、食文化もふくめて今日的な活用を促進する。

3

生活文化現地調査

■目次 【ⅰ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ⅱ】
◎作業状況―写真による業務説明 【ⅲ】

■調査の成果
Ａ．基本概念 【１】
ア）川洲畑現地調査における基本となる考え 【１】
イ）川洲畑栽培試験計画基本フロー 【２】
Ｂ．　現地調査 【３】
ア）試験適地選定と事前現地調査 【４】
イ）現地調査事前準備 【７】
①作付種子の選定および確保 【７】
②作付計画の作成 【７】
ウ）整備・播種作業に係る作業工程 【９】
①紫雲古津試験畑での整備作業と播種作業 【９】
②豊糠試験畑での整備作業と播種作業 【10】
③二風谷雑穀畑での整備作業と播種作業 【12】
Ｃ．モニタリング調査 【13】
ア）モニタリングの方法と手順 【13】
イ）モニタリングの作業記録 【14】
ウ）生育状況に係る管理作業の記録 【15】
①紫雲古津試験畑、豊糠試験畑での管理作業のまとめ 【15】
②二風谷雑穀畑での管理作業のまとめ 【16】
エ）収穫準備および収穫作業 【17】
オ）試験結果のまとめと分析 【18】
①紫雲古津試験畑、豊糠試験畑における試験結果のとりまとめ 【18】
②二風谷雑穀畑における試験結果のとりまとめ 【20】
Ｄ．食文化再現調査 【22】
ア）Ｈ27 年度、実施した食文化試行のまとめ 【22】
①食文化再現試行とレシピのまとめ 【23】
イ）山菜および収穫物の保存・貯蔵作業 【25】
①雑穀・穀物等の保存・貯蔵作業の手順のまとめ 【25】
②山菜等の採取と保存・貯蔵作業の手順のまとめ 【26】
Ｅ.生活環境再現調査 【27】
ア）プロジェクト＜ＳＡＲ＞および調査のまとめ 【27】
①紫雲古津左岸での現地調査と結果の分析 【27】
ａ）試験適地選定と事前現地調査 【27】
ｂ）作付け種子の選定と作付図の作成 【27】
ｃ）整備・播種作業に係る作業工程 【28】
ｄ）生育状況に係る管理作業の記録と結果 【28】
ｅ）紫雲古津左岸試験畑での管理作業のまとめ 【28】
ｆ）紫雲古津左岸試験畑での試験結果のとりまとめ 【29】
②プロジェクト＜ＳＡＲ＞の観点から調査・研究と試行を深める取り組み 【30】
③川洲畑栽培試験年度別一覧表 【31】
④データの整理と分析および次年度の課題 【32】
イ）生活用具作成に関するまとめ 【33】
①生活用具作成工程のまとめ 【33】
②作成した生活用具一覧 【34】
③今年度の成果と次年度の課題 【35】
Ｆ．今後の課題 【36】
ア）次年度に向けた川洲畑試験候補地の選定 【36】
イ）各試験畑および二風谷雑穀畑における次年度の課題のまとめ 【36】

■別添資料：川洲畑再現マニュアル Ver．2016

■関連資料（電子データ版のみに所収）
〇紫雲古津試験畑、豊糠試験畑、二風谷雑穀畑の生育状況と管理作業の記録 【関連資料-①】
〇Ｈ28 年度、食文化試行レシピ 【関連資料-②】
〇聞き取り、文献情報年代表 【関連資料-　】
〇プロジェクト＜ＳＡＲ＞課題についての調査 【関連資料-　】
〇Ｈ28 年度山菜の保管・貯蔵の手順 【関連資料-⑤】
〇Ｈ28 年度雑穀、穀物の収穫の手順 【関連資料-⑥】
〇Ｈ28 年度雑穀、穀物の保管・貯蔵の手順 【関連資料-⑦】

ウ）整備・播種作業に係る作業工程

作付計画に基づき、選定した各試験畑において今年度実施した播種作業に伴う一連の作業についてまとめました。

ポイント

体験者と共に行うことにより、的確なアドバイスとその理由を知ることが出来ます。
また、作業を通じて当時の川洲畑の様子や生活文化、周辺の環境など、把握することにも重点をおいています。

①紫雲古津試験畑での整備作業と播種作業

かつて、紫雲古津で行われていた川洲畑の体験者とともに、紫雲古津試験畑において播種作業に伴う儀礼ならびに整地と播種作業の現地指導をしていただき、室蘭開発建設部沙流川ダム建設事業所と苫小牧河川事務所の方々との合同作業を実施しました。
（防鳥ネット張りについては、時間の都合上当日には行えなかったため、後日設置しました。）

試験畑選定

協力者との現地での相談

選定箇所の土壌の調査

選定箇所に杭を打ち込み面積を測定

作付方法の相談

伐木が必要な木の選定

事前整備

畑までの経路の草刈り

樹木の伐採と除去

刈った草や笹等の除去

畑使用範囲のテーラー掛け

整備完了

播種作業に伴う儀礼

事業所へ作業の説明

カムイノミ（神への祈り）準備・アペワリ（火おこし）

協力者との豊作祈願のカムイノミ

チェホロカケプイナウ（逆さ削りの御幣）を川原に立てる

荒起こし、畝切り

事業所職員による荒起こし

川洲畑体験者の指導による畝切り

事業所職員による伝統的な農耕用具での畝切り

畝間を測り畝の先頭に杭を打ち込む

水糸を張った状態

播種・覆土

事業所職員による昔のアイヌの農耕器具での筋付け

付けた筋に均一に播く

播種したところ

種の上に軽く覆土して完成

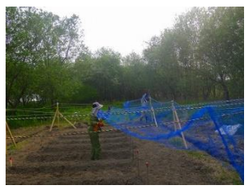
試験畑表示の看板を設置

ネット張り

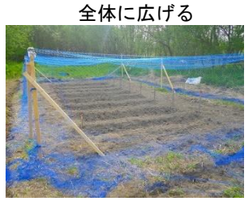
畑の周囲に杭を立て倒伏防止に支えを付ける

作付範囲の１ｍ外側に杭を打つ

杭の間にロープを張る



防鳥ネットをロープに乗せ全体に広げる



完成

※播種作業に伴う儀礼については、１-精神文化保全対策に関する調査を参照してください　＊当日の記録作業〔カメラ：藤川、ビデオ：山本ＩＣ：鍋澤さん〕

イ）モニタリングの作業記録

ここでは、入力後のシートの整理状況を提示します。記録の詳細は、関連資料（電子データ版のみ所収）の各試験畑の生育状況と管理作業記録を参照してください。

モニタリング後や管理作業後に記録を整理したシートです

次年度の作業の目安や参考にもなります

畑の配置図

播種日

播種方法
播種量

種類ごとの
生育状況

管理作業の内容

調査メモ

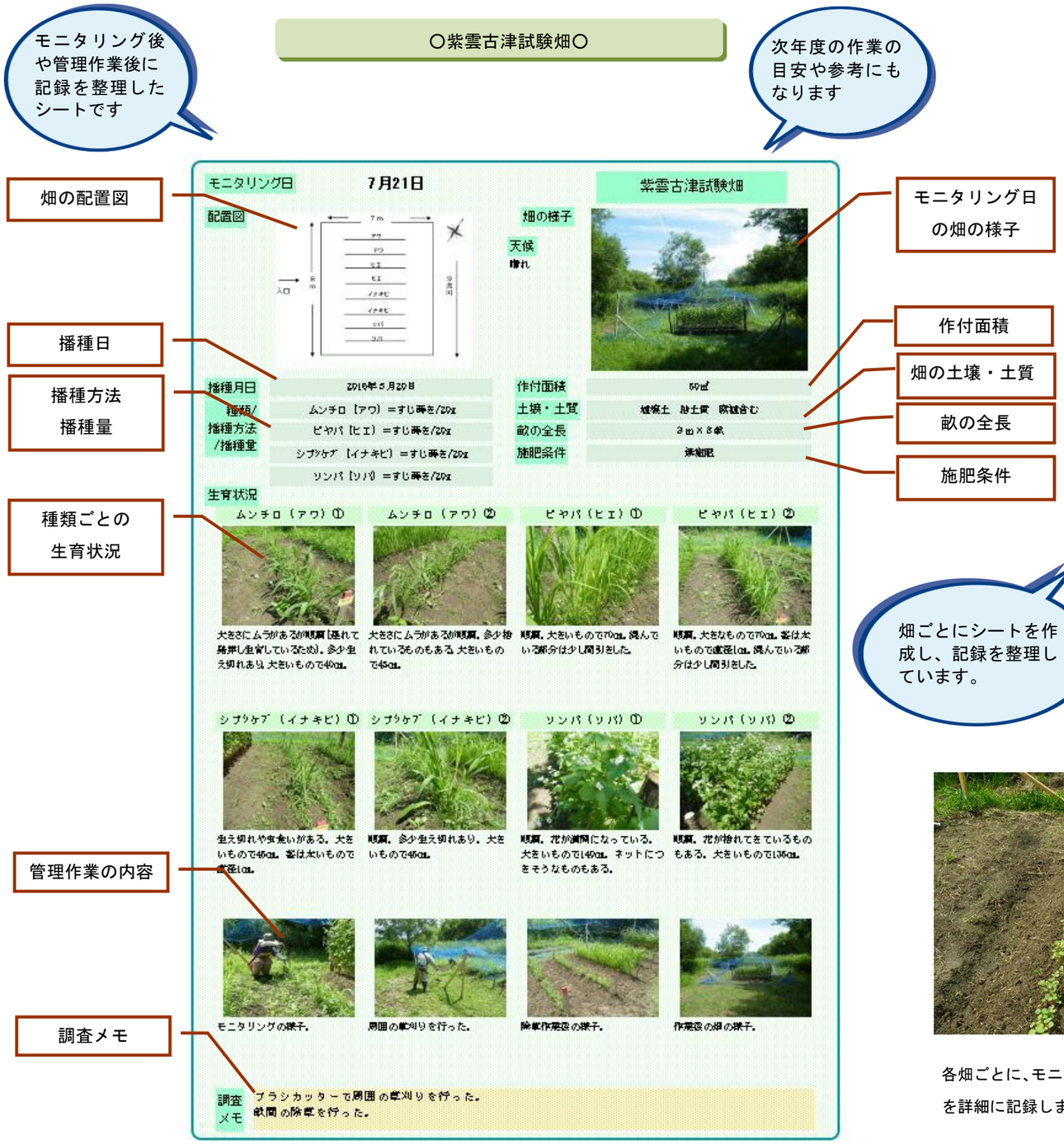
モニタリング日の畑の様子

作付面積

畑の土壌・土質

畝の全長

施肥条件



〇豊糠試験畑〇

ポイント

今年度は左岸側にも試験畑を作成して記録と整理をしました。

〇紫雲古津左岸試験畑〇

畑ごとにシートを作成し、記録を整理しています。

各畑ごとに、モニタリングシートに生育状況などを詳細に記録しました。

オ）試験結果のまとめと分析

①紫雲古津試験畑、豊糠試験畑における試験結果のとりまとめ

紫雲古津試験畑ならびに豊糠試験畑で行った栽培試験の結果を次年度以降の調査に活かせるよう整理しました。今年度（H28 年度）は、紫雲古津・豊糠に両地区に同じ面積を使用し同じ量の種子を播種することにより比較試行を行ないました。

◎紫雲古津試験畑

出水

	5 月 20 日（播種）	5 月 27 日	6 月 21 日	7 月 15 日	8 月 18 日	8 月 24 日	10 月 18 日（収穫）
紫雲古津試験畑							
特記事項	鍋沢さんの指導のもと、播種行った播種作業。	生え切れはあるが全てに発芽を確認。	生え切れがあるがほぼ順調に生育している様子。	品種によって差があるが、順調に生育している様子。	順調に成長し、青い穂がなり始めている様子。	試験畑への入口に水が溜まっていて観察も不可能な状態。	わずかではあるが、実っていた作物を収穫した。

今年度の紫雲古津試験畑は、例年にない降水量の増加に伴う河川の氾濫により、試験畑一面に多くの泥が乗り作物が倒れ伏す状態となりました。成長途中の時期であったため、最終的にわずかに収穫はしましたが、ほぼ実入りの不十分な状態でした。

試験地より上の草地まで水位が上がった跡がわかる。（8 月 24 日）

◎豊糠試験畑

	5 月 20 日（播種）	5 月 27 日	6 月 21 日	7 月 21 日	8 月 15 日	9 月 14 日	10 月 14 日（収穫）
豊糠試験畑							
特記事項	貝澤さんの指導のもと、播種した様子。	生え切れはあるが全てに発芽を確認。紫雲古津より小さい。	順調に生育している様子。	紫雲古津試験畑に比べやや生育が遅いが順調な様子。	台風の予報をうけ、倒伏防止のロープを巡らした状態。	生育は良好。ピヤパ（ヒエ）とシプシケプ（イナキビ）は実り良く、刈り取り時期。	ムンチロ（アワ）は丸々と太り実入りの多い穂の収穫が出来た。

豊糠試験畑にも降水量の増加による影響は現れました。近くの沢水が一面に流れ込み、沢に近い防鳥ネットと杭が畑内部に向かって倒れ込む状態が見られました。沢に近いソンパ（ソバ）一列がネットに押されて斜めになっていましたが、支えを補強し立て直すことで、作物へのダメージはわずかなものとすることができました。

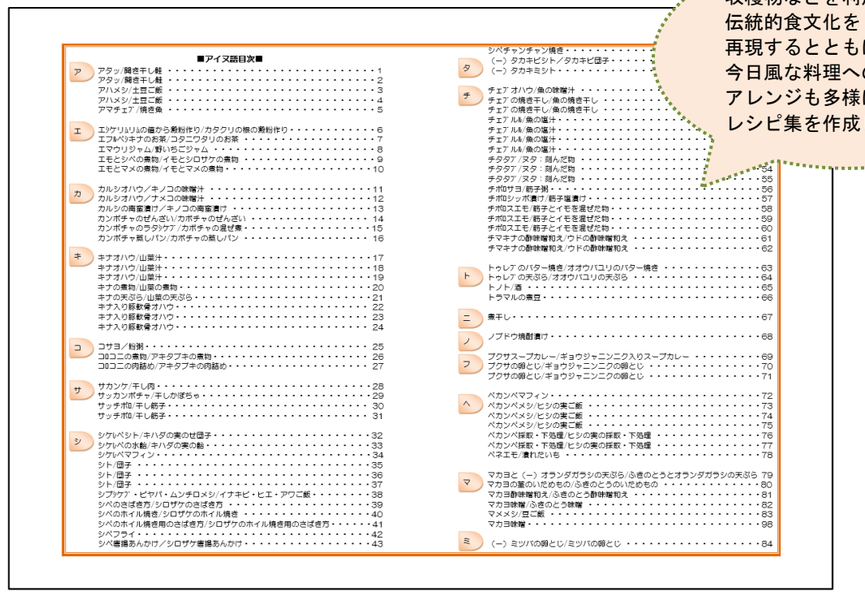
①食文化再現試行とレシピのまとめ

今年度（H28 年度）までに実施した食文化再現調査と試みたメニューについて、レシピ（調理方法）として作成しました。

試行する際は、これまでの聴き取り調査で把握した情報などをもとに、昔の方々の知恵や工夫などを参考に試行しています。今後も地域やたくさんの方々に活用してもらえるよう、表紙や目次を作成し、関連資料「食文化試行レシピ」としてとりまとめました。

記録の詳細は関連資料の「食文化試行レシピ」を参照してください。

◎食文化試行レシピの表紙と目次



収穫物などを利用した
伝統的食文化を
再現するとともに、
今日風な料理への
アレンジも多様に試行し、
レシピ集を作成しました。

◎食文化試行レシピの見方

実際に調理等を行う際に、手元に置きやすいよう半ページのみ印刷し、使用できるように編集しました。

過年度までの情報をそのままに、今年度行った試行を新たに記載し、より見やすいよう整理しました。今年度更新された部分はページ最上部に赤文字で記載しています。

③今年度の成果と次年度の課題

完成した生活用具は、２－（２）魚類の保全対策に関する調査で再現製作した伝統漁具と一緒にイオル１号チセ内に展示し、地域の方々や子供たち、来客・訪問の方々にも公開しています。また、食文化試行では実際に使用したり、体験学習等にも活用しています。

サカエナムテプ（酒粥さまし）

ニマ（刳り鉢）

チェプケリ（鮭皮の靴）

今年度は、課題として挙げられていた、これまで製作した伝統農具の川洲畑・雑穀畑での活用にも積極的に取り組みました。

シッタプ（踏み鋤）での耕耘体験

アレウェマタプリプ（熊手）での地ならし

キラウシッタプ（角鍬）での筋付け

ピパ（穂摘み用貝殻）での収穫体験

ヤラムイ（樹皮の箕）を脱穀時に活用

～製作した伝統生活用具の活用～
夏季に一般開放するイオル１号チセ内やシシリムカ文化祭等に展示公開することで、伝統文化に対する関心を高め、理解を深める普及活動にも繋がることから、今後も継続したい取り組みです。

イオル１号チセ内での展示と解説の様子

シシリムカ文化祭での民具展示の様子

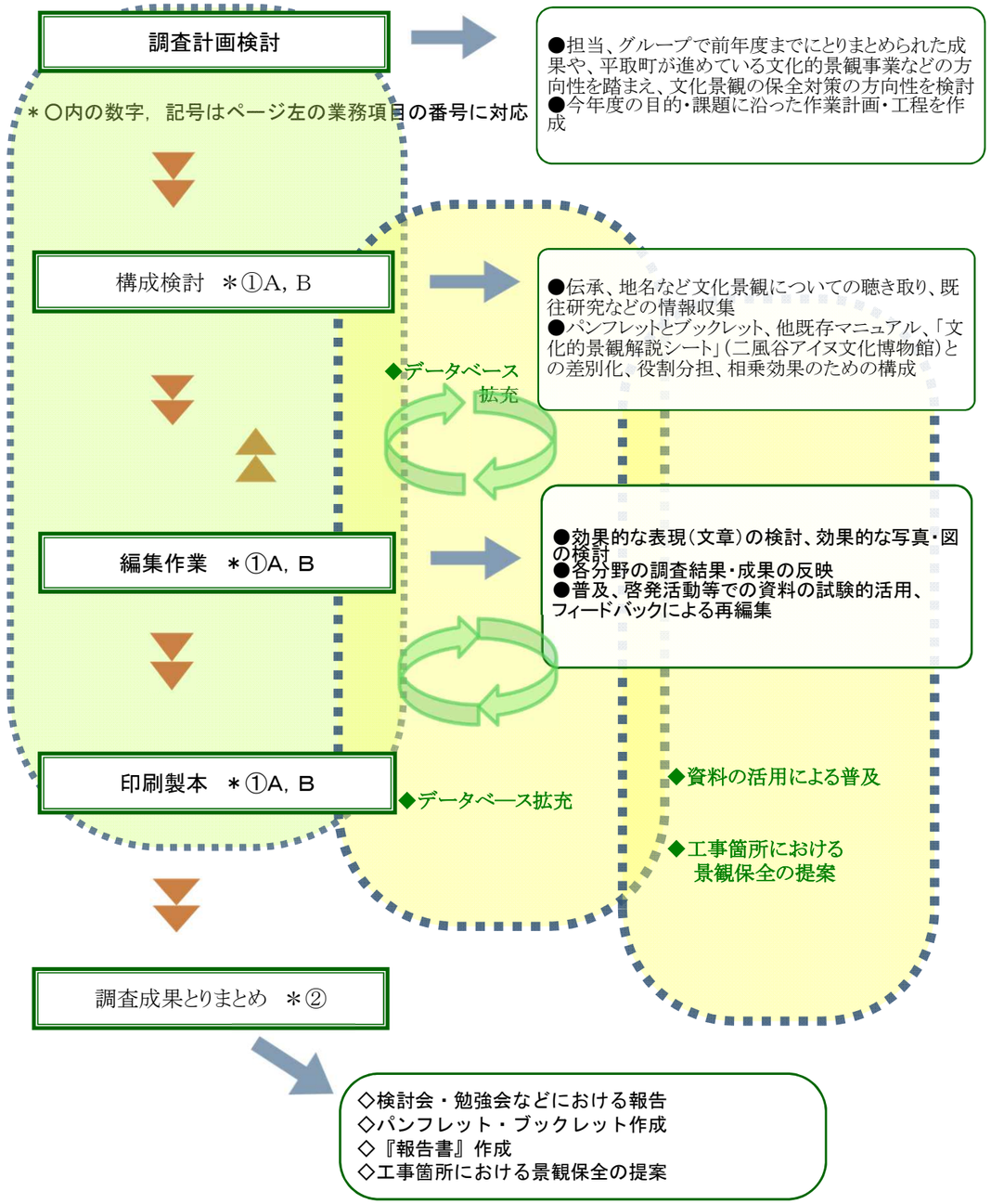
次年度への課題として、引き続き伝統農耕具の製作と川洲畑・雑穀畑でのそれらの実際の活用、またこれまで製作した生活用具についても実際の活用を積極的に図っていく予定です。

また次年度は、これまでの製作での蓄積データをまとめた生活用具製作マニュアルの作成にも取り組んでいく予定です。

事業名	2016(平成28)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**4 - 文化景観の保全対策に関する調査**
目的／課題 ※1 〈注〉※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆既往調査結果に基づき、額平川流域のアイヌ語地名などを紹介するパンフレット及びブックレットを作成する。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【パンフレット・ブックレット作成】 既往調査結果に基づき、額平川流域のアイヌ語地名などを紹介するパンフレット及びブックレットを作成する。 ②【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめる。
想定する成果 (状況/物品)	＊○内の数字、記号は上欄に対応 ①⇒　A：パンフレット 　　B：ブックレット ②⇒　成果をまとめた報告書
年間作業工程 (行程)概要	業務項目 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 ◆調査計画検討 ①【パンフレット・ブックレット作成】 構成検討 編集 印刷製本 データベース拡充 ②【調査結果とりまとめ】 検討会などにおける報告 報告書作成 検討会または勉強会 ○ ○ ○ ○ ○
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎木村真奈美　○及川直美 ／ 藤川涼子
補佐	◇長野　環 ／ 山本　雄　［吉原秀喜］
今年度 重点事項	★アイヌ語地名に関するデータベースを拡充しながら、解説パンフレットなどによる普及を促進する。工事に伴う景観保全を、関連施策・事業と連携しながら推進する。

■4-文化景観の保全対策調査の計画基本フロー

【想定する成果の重点】
★アイヌ語地名に関するデータベースを拡充しながら、解説パンフレットなどによる普及を促進する。工事に伴う景観保全を、関連施策・事業と連携しながら推進する。



4 - 文化景観の保全対策に関する調査　～この分野の作業概況～

０１◆チーム協議

０２◆ブックレット・パンフレット構成の検討

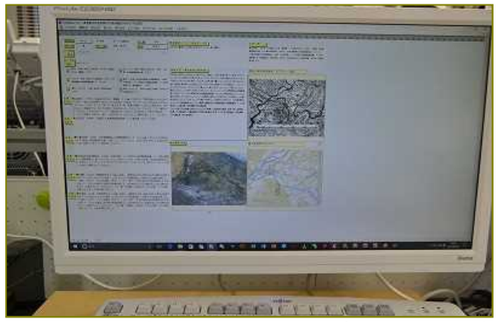
０３◆ブックレット・パンフレットの構成検討

０４◆これまで作成した冊子

０５◆パンフレット（小冊子）作成

０６◆ブックレット・パンフレットの作成状況

０７◆ブックレット（冊子）作成


０８◆額平川流域のアイヌ語地名データベース更新作業

０９◆2016年度版ブックレット（冊子）

１０◆パンフレット（小冊子）の作成

１１◆冬の景観（ムイノカ）

１２◆冬の景観（ポロシリ）

H28年度
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝今年度重点事項

A◆＝既往調査結果に基づき、額平川流域のアイヌ語地名などを紹介するパンフレット及びブックレットを作成する。

B◆＝①【パンフレット・ブックレット作成】
既往調査結果に基づき、額平川流域のアイヌ語地名などを紹介するパンフレット及びブックレットを作成する。
②【調査結果とりまとめ】
調査結果をとりまとめる。

C◆＝★アイヌ語地名に関するデータベースを拡充しながら、解説パンフレットなどによる普及を促進する。工事に伴う景観保全を、関連施策・事業と連携しながら推進する。

4

文化景観の保全対策に関する調査

■目次 【ｉ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ii】
◎作業状況―写真による業務説明 【iii】

■調査の成果 【１】
Ａ．調査計画検討 【１】
ア）文化景観に関する地形・事物・事象に関わる保全対策の検討状況 【１】
イ）パンフレット及びブックレットの構成内容の検討 【２】

Ｂ. パンフレットの構成 【３】

Ｃ. ブックレットの構成 【４】

Ｄ. アイヌ語地名のデータベースの更新 【９】

Ｅ. 今後の課題 【10】

■関連資料（電子データ版のみに所収）
〇アイヌ語地名にふれてみようパンフレット：2016 年度版 【関連資料－①】
〇額平川流域のアイヌ語地名ブックレット：2016 年度版 【関連資料－②】
〇今年度、更新した額平川流域アイヌ語地名データベース 【関連資料－③】
〇アイヌ語地名データベース額平川流域編：2016 年度版 【関連資料－④】

イ）パンフレット及びブックレットの構成内容の検討

今年度（H28 年度）は、額平川流域のアイヌ語地名を紹介するパンフレット及びブックレットを作成するにあたり、それぞれの構成の内容等について、これまでの調査結果を踏まえ、チームで検討作業を行いました。

検討内容	方針	構成の内容や作成時に留意する点
パンフレット（小冊子）	・アイヌ語地名の全般について紹介する。	・Ａ４サイズのワードで作成する。 ・アイヌ語地名に関心をもってもらえるような内容にする。 ・身近な所にアイヌ語地名があることに気付いてもらう。 ・ブックレットに注目してもらえるような内容も記載する。
ブックレット（冊子）	・額平川流域のアイヌ語地名を紹介する。	・2010（H22）年度版の額平川流域のアイヌ語地名の冊子を基本にブックレットとする。 ・内容を充実させ、見やすくする（場所ごとに仕切っている枠に捉われないで関連する情報などを追加する、地図番号の数字を大きくする、データベースの聴き取りや文献の情報も確認する） ・新たな情報の追加等がしやすいように今後の編集作業のことも考えてイラストレーター（グラフック制作ソフト）ではなくワード（文書作成ソフト）で作成する。 ・内容を充実させるためにデータベースの情報も再確認する（聴き取り情報や文献の追加など）

プチシンポ（報告書作成に向けた検討協議）でＡ４版裏表で作成したパンフレットをＡ３の表にし、裏には写真を付けるという案が出され編集作業を行いました

【参考】これまで対策室で作成した額平川流域のアイヌ語地名を紹介する冊子

2008（H20）年度版より一部抜粋

2008 年度版をもとに 2009 年度に改訂
2009 年度版を 2010 年度に一部修正

2010（H22）年度版より一部抜粋

構成
表紙 （白紙） 目次・参考資料 額平川流域図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3 アイヌ語地名　川・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5 アイヌ語地名　山・崖・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7 額平川流域にあるチャシ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9 アイヌ語地名を調べた人たちの紹介・・・・・・・・・・・・・・11 これだけは覚えたいアイヌ語単語・・・・・・・・・・・・・・・13 裏表紙

今年度はこの冊子をもとにブックレットとしてバージョンアップしました

構成
表紙 はじめに、目次、地図情報の見方、主な参考資料・・１ 額平川流域のアイヌ語地名ＭＡＰ・・・・・・・・・・・２ ペッ pet・ナイ nay 川・沢・小沢・・・・・・・・・・・３ ヌプリ nupuri 山／ピラ pira 崖・・・・・・・・・・・５ チャシ casi　柵・囲い・垣根・城・砦・・・・・・・・・７ アイヌ語地名を調査・研究した人たちの紹介・・・・９ アイヌ　イタク　アエラマン　ロー （地名に関するアイヌ語を覚えよう）・・・・・・・・・10 裏表紙

【参考】冊子等を作成する基となるデータベース

額平川流域のアイヌ語地名の情報を集積したデータベースをもとにパンフレット及びブックレットの編集作業を行いました

アイヌ語地名データベース額平川流域編については関連資料を参照して下さい。また、今年度更新したデータベースの関しては、Ｐ９を参照して下さい。

B．パンフレットの構成

今年度（H28 年度）は、チームでの協議等を踏まえ、アイヌ語地名について興味や関心をもってもらうとともにブックレットの活用を意識したパンフレットを作成しました。作成したパンフレットは次年度以降、活用できるよう関連資料に所収しています。ここでは、作成したパンフレットの内容と見方について解説します。

タイトルのアイヌ語については、平取町教育員会平取町立アイヌ文化博物館勤務の関根さんにアドバイスをいただきました

パンフレットのタイトル

A3サイズ表面（点線で山折りしてA4サイズで使用）左側：表、右側：裏になります

■額平川流域のアイヌ語地名について
ここでは、額平川流域にはアイヌ語が由来となっている地名が 200 か所以上あるということを紹介し、ブックレットに注目してもらえるように内容を記載しました。

◇アイヌ語地名に関する関連情報◇
ここでは、アイヌ語地名に興味や関心をもってもらえるよう「北海道遺産」や「名勝：ピリカノカ（美しい・形）」にアイヌ語地名やその場所が選定されていることを紹介しています。

A3サイズ裏面（山折りした中面）

■アイヌ語地名とはここでは既存の文献を参考にアイヌ語地名について、地図を引用しながら分かりやすく紹介しています。

【参考文献】
パンフレットを作る際に参考にした文献を記載しています。

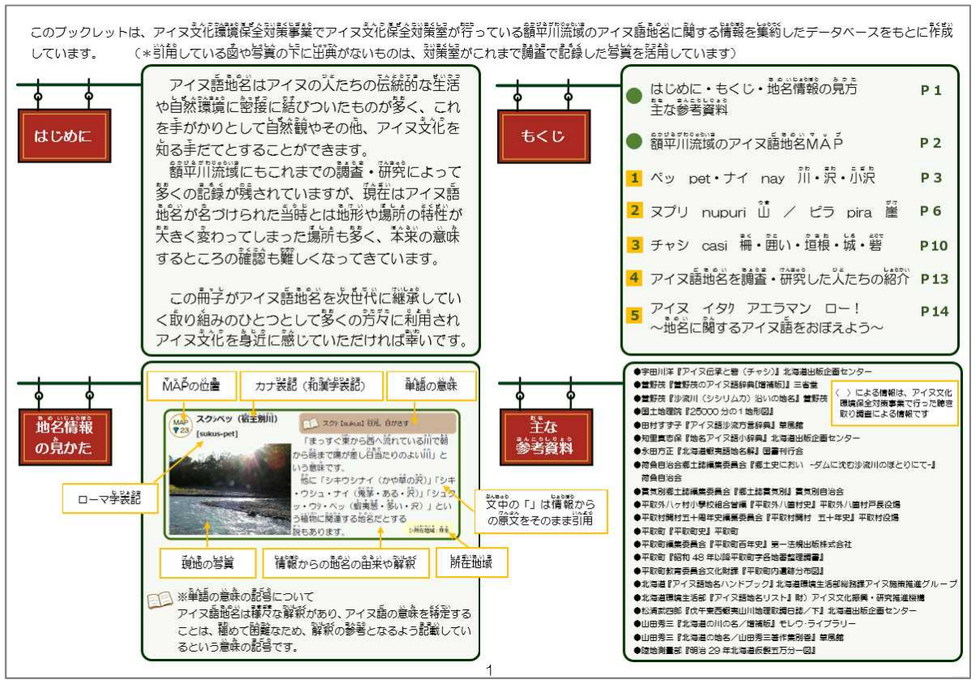
■身近にあるアイヌ語地名
ここでは、アイヌ語地名が由来となっている地名が身近にあることを知ってもらうために「別」「内」「平」を例に地名の紹介しています。

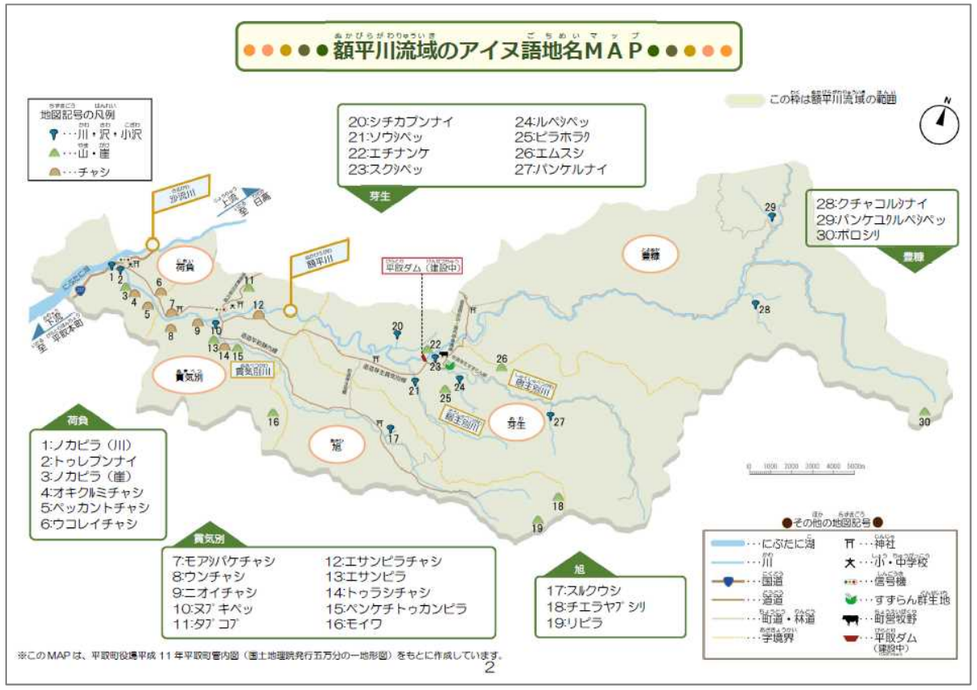
■額平川流域のアイヌ語地名にふれてみよう
ここでは、額平川流域のアイヌ語地名に興味や関心をもってもらえるよう、またブックレットに注目してもらうことを意識して、これまでの調査で記録した写真を活用して、現地に行ってみたくなるような写真を記載しました。

C．ブックレットの構成

今年度（H28 年度）は、チームでの協議等を踏まえ、2010（H22）年度版の額平川流域アイヌ語地名の冊子をもとに構成は、そのままで内容の充実を意識して編集作業を行いました。編集作業については、対策室内で回覧後、修正作業を繰り返し行い、2016（H28）年度版のブックレットとしました。作成したブックレットは、次年度以降、活用できるよう関連資料に所収しています。

ここでは主に今年度行った修正箇所や追加した内容について整理しました。





●表紙（左上）

・アイヌ語のタイトルを一部変更し、アイヌ語の読み方を追加しました。
（NOKA-PIRA RU-ORKE AYNU ITAK SIR-RA→Nokapira nay ruorke ta oka aynu sirre）
（アイヌ語については、平取町教育委員会二風谷アイヌ文化博物館勤務の関根さんにアドバイスをいただきました）

・写真を一部入れ替えと変更しました。写真の下に地名を追加しました。
（ポロシリの位置とニオイチャシをペンケチトゥカンピラに変更）

●Ｐ１（右上）

・ブックレットの説明文を追加しました。
（このブックレットは、アイヌ文化環境保全対策事業でアイヌ文化保全対策室が行っている額平川流域のアイヌ語地名に関する情報を集約したデータベースをもとに作成しています。（＊引用している図や写真の下に出典がないものは、対策室がこれまで調査で記録した写真を活用しています））

・地図情報の見かたに凡例を追加しました。（文中の「」は情報からの原文をそのまま引用）

・主な参考文献に聴き取りの情報の凡例を追加しました。（〈〉による情報はアイヌ文化環境保全対策事業で行った聴き取り調査による情報です）　参考文献を五十音順に修正しました。

●Ｐ２（左下）

・地図番号のフォントサイズを大きくし、平取ダムの位置が分かりやすいように修正しました。

・アイヌ語地名を正しく修正しました。

・一部文字を修正・追加しました。（平取ダム（建設予定→建設中に修正）、至平取本町・至日高を追加）

D. アイヌ語地名のデータベースの更新

今年度（H28 年度）は、ブックレット作成の際、内容を充実させるために主にブックレットに記載のアイヌ語地名について、既存の聴き取りや文献等から情報を収集し、データベースの更新を行いました。

今年度、更新の際に参考にした文献や聴き取り情報の一覧		
【沙流川歴史館 2011 年『2011 沙流川歴史館特別展沙流川流域のチャシ跡』（株）総北海】	〈黒川セツさん CT20030610-001、CT20030707-001、CT20030708-001、CT20031006-001、CT20041020-001、CT20041027-001〉	
【宇田川洋 1981 年『アイヌ伝承とチャシ』北海道企画出版センター】		
【更科源蔵 1971 年『アイヌ伝説集』「道南☆日高地方」北書房】	〈貝澤鉄雄さん CT20040209-004、CT20041221-001、CT20041227-001、CT20050624-001、CT20050721-001〉	
【北海道教育庁生涯学習部文化課 1997 年『平成８年度アイヌ民俗文化財調査報告書アイヌ民族調査 XVI（補足資料３）』北海道教育委員会】	〈木村サエ子さん CT20040715-001〉	〈木幡サチ子さん CT20050618-001〉
	〈Ｃａさん CT20050607-001〉	〈日川常吉さん CT20050818-001、CT20060123-001〉
【吉田巌 1983 年＜第二期＞アイヌ史資料集第二巻　吉田巌著作編（二）吉田巌著『人類学雑誌』篇（下）北海道出版企画センター】	〈川奈野福一さん CT20050819-001〉	〈石谷清さん CT20050607-002〉
【山本融定 1998 年『コタンを訪ねて』～沙流川・様似川・鵡川・元浦河流域の人々～】	〈村田新三さん CT20050908-001〉	〈西島達夫さん CT20040205-005〉
【貫気別郷土誌編集委員会 2007 年『郷土誌貫気別』貫気別自治会】	〈貝沢鉄雄さん CT20060123-001〉	〈Ｄさん CT20040510-001〉
【荷負自治会 1988 年『郷土誌におい』-ダムに沈む沙流川のほとりにて-北海道出版企画センター】	〈村田新三さん CT20050908-001〉	〈萱野茂さん CT20040203-002、CT20060123-001〉
【社団法人北海道ウタリ協会平取支部 1999 年『平取支部 50 年の歩み』平取支部設立 50 周年記念誌編集委員会（株）青羚社】	〈木村よしゑさん CT20040614-001〉	〈貝澤留治さん・木村繁美さん・貝澤猛さん CT20050617-001〉
【沙流川流域史調査団 1961 年『北海道沙流川流域史調査概報（第一次）』】	〈木村あいこさん CT20040709-001〉	〈Ｐａさん・Ｑａさん・Ｒａさん CT20050819-002〉

E. 今後の課題

今年度（H28 年度）作成したパンフレットやブックレットの次年度（H29 年度）以降の活用方法をイメージ写真とともに（案）として整理しました。

◎パンフレット、ブックレットの活用法

パンフレット（小冊子）	ブックレット（冊子）
今後の活用法や課題など	
・関連施設（アイヌ文化情報センター、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、イオル１号チセ等）や公共機関（ふれあいセンター）等に設置（配布用）や展示（ラミネート版を貼る）する。 ・アイヌ文化の普及方策に関する調査で活用しながら配布する。 ・関連行事（シシリムカ文化祭等）や関連事業での展示や設置、配布をする。 ・地域の人たちに活用してもらい、アイヌ文化の普及に繋げてもらう（平取町のツアー等での活用）。 ・パンフレットの英語版の検討。	・関連施設（アイヌ文化情報センター、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、イオル１号チセ等）や公共機関（ふれあいセンター）等に設置する（ページ数が多いので閲覧用として）。 ・アイヌ文化の普及方策に関する調査で活用しながら配布する。 ・関連事業や行事等（シシリムカ文化祭等）での展示を検討する（ページ数が多いので閲覧用として）。 ・地域の人たちに活用してもらい、アイヌ文化の普及に繋げてもらう（平取町のツアー等での活用）。 ・ブックレットの英語版の検討。

活用法や取り組みイメージ

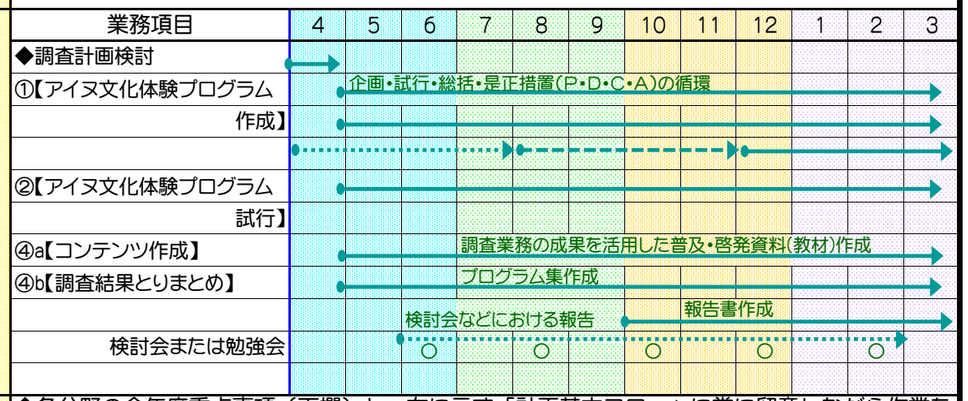
関連施設や公共施設での設置イメージ

アイヌ文化の普及方策に関する調査での活用イメージ

平取町のツアーでの活用イメージ

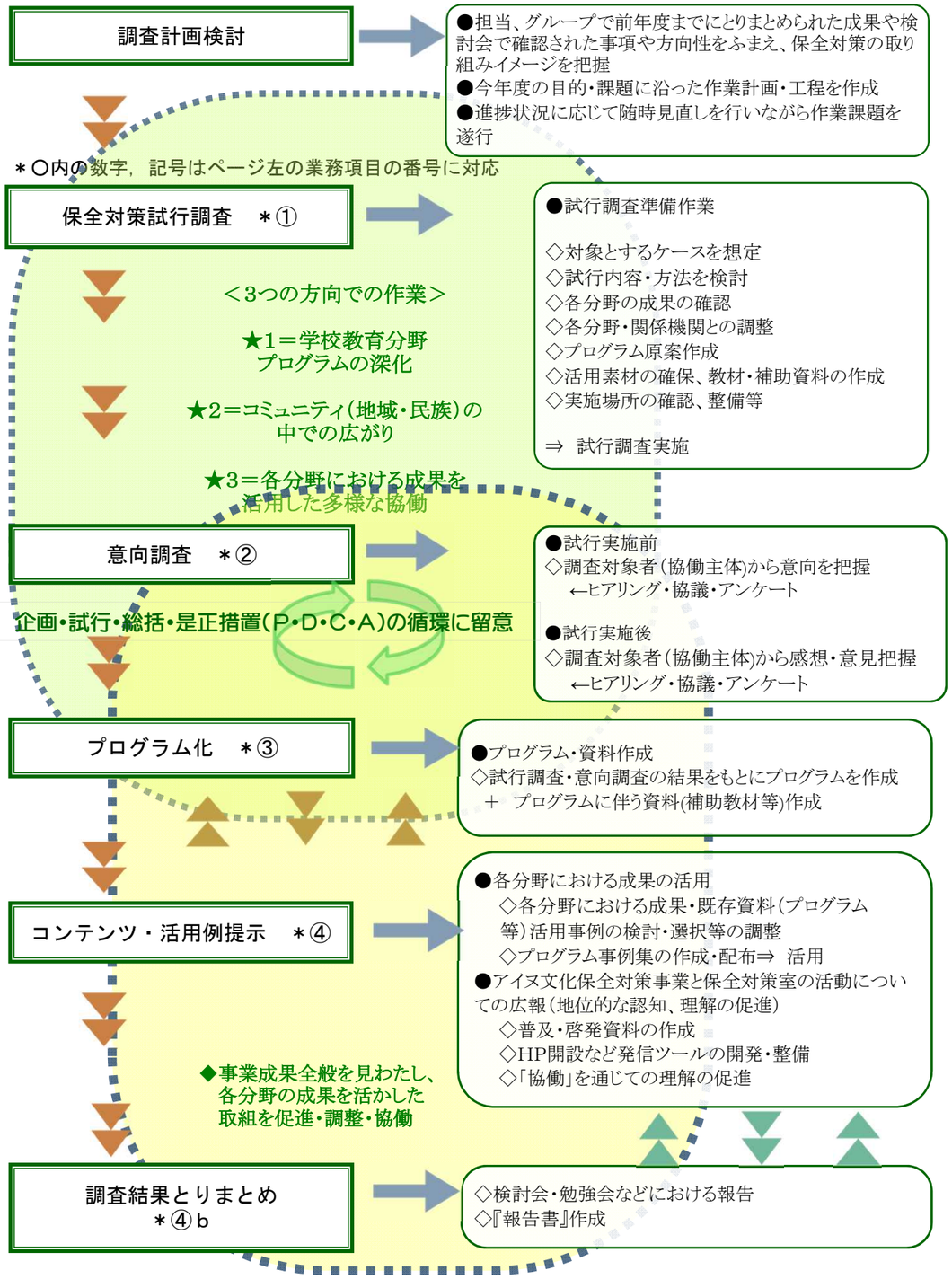
関連行事や関連事業での展示・設置・配布イメージ

リーフレット英語版

事業名	2015(平成27)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**5 - アイヌ文化の普及方策に関する調査**
目的／課題 ※1 〈注〉※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆アイヌ文化体験プログラム（案）を作成し、町内小中学校等を対象に体験学習等を実施する。**
	①【アイヌ文化体験プログラム作成】 体験学習を実施するために、関係機関から意見・感想等を収集し試行プログラムの作成を行う。 ②【アイヌ文化体験プログラム試行】 伝統的漁法や川洲畑再現調査と連携し体験学習の実施や町内小中学校を対象としたプログラムを実施する。 ③【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめ、アイヌ文化の普及方策のための基礎資料を整理する。
想定する成果 （状況/物品）	＊〇内の数字、記号は上の欄に対応 ①⇒　各分野既往調査の成果を活かした試行プログラム集 ②⇒　各分野既往調査の成果を活かしたアイヌ文化体験プログラムの試行 重点＝学校教育分野：貫気別小学校／社会教育分野：アイヌ協会青年部、イオルチセ ③ａ⇒　コンテンツ等作成と活用例提示 ｂ⇒　①・②の成果をまとめた報告書：プログラム集（事例集）・資料集を含む ｃ⇒　用具類のイオルチセにおける展示・貸出
年間作業工程 （行程）概要	
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・〇副担当	◎山本　雄　／　〇菊地みづき＊２／加藤拓夫＊２／川奈野弘美／藤川涼子
補佐	◇長野　環　／　木村真奈美　　［吉原秀喜］＊２は産休・育休に伴う担当代理
今年度 重点事項	★事業各分野における既往の成果を文化資源として活用する方策を学・社両分野で検討、プログラム化・コンテンツ化を図り、試行・具現・普及を促進し、深化させる。

■５-地域文化保全対策調査の計画基本フロー

【想定する成果の重点】
★事業各分野における既往の成果を文化資源として活用する方策を学・社両分野で検討、プログラム化・コンテンツ化を図り、その試行・具現・普及を促進し、深化させる。



5 - アイヌ文化の普及方策に関する調査　～この分野の作業概況～

０１◆チーム協議

０２◆調査業務紹介リーフレットの設置と配布

０３◆貴気別小学校での試行に向けた意向調査

０４◆貴気別小学校での試行（カリプペカプ体験）

０５◆貴気別小学校での試行（シト作り）

０６◆貴気別小学校での試行（アイヌ語かるた遊び）

０７◆地元の工芸家の協力による試行（アイヌ文様）

０８◆貴気別小での試行に向けた担任の先生と打合せ

０９◆ＮＨＫ文化センターのツアーの受け入れ

１０◆平取アイヌ協会青年部との協働（ウレㇰレク）

１１◆チセでの試行（アイヌの子供の遊び体験）

１２◆シシリムカアイヌ文化祭での展示

H28年度
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝今年度重点事項

A◆＝アイヌ文化体験プログラム(案)を作成し、町内小中学校等を対象に体験学習等を実施する。
B◆＝①【アイヌ文化体験プログラム作成】
体験学習を実施するために、関係機関から意見・感想等を収集し試行プログラムの作成を行う。
②【アイヌ文化体験プログラム試行】
伝統的漁法や川洲畑再現調査と連携し体験学習の実施や町内小中学校を対象としたプログラムを実施する。
③【調査結果とりまとめ】
調査結果をとりまとめ、アイヌ文化の普及方策のための基礎資料を整理する。
C◆＝★事業各分野における既往の成果を文化資源として活用する方策を学・社両分野で検討、プログラム化・コンテンツ化を図り、試行・具現・普及を促進し、深化させる。

5

アイヌ文化の普及方策に関する調査

■目次 【ⅰ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ⅱ】
◎作業状況―写真による業務説明 【ⅲ】

■調査の成果
Ａ．試行調査 【１】
ア）貴気別小学校での試行 【１】
①今年度の試行に関する経緯のまとめ 【１】
②３・４年生で試行したプログラムの概要 【２】
③３・４年生で試行したプログラムの実施状況 【２】
④今年度の振り返りと来年度の試行について 【13】
⑤生徒からの意見・感想の収集と今後の課題 【13】
イ）平取アイヌ協会青年部主催の活動での試行 【19】
ウ）一般の方々を対象としたチセ（家）での試行 【20】
エ）NHK 文化センター新さっぽろ教室主催のツアーでの試行 【21】
オ）シシリムカアイヌ文化祭での試行 【22】
カ）調査成果を活用したその他の試行 【24】
キ）アイヌ文化環境保全対策事業についての広報・普及の試行 【24】

Ｂ．意向調査 【24】
ア）平取アイヌ協会青年部長への意向調査 【24】

Ｃ．事例調査 【25】
ア）地域で行われたアイヌ文化関連の講座についての事例調査 【25】

Ｄ．今後の試行に向けた事前準備 【27】
ア）アイヌ文化環境保全対策事業の紹介リーフレットの更新 【27】
イ）対策室にある展示物の一覧 【28】

Ｅ．今後に向けた課題 【29】
ア）平取町の学校教育分野での取り組みにおける課題 【29】
①貴気別小学校での５年間を通じて取り組んだ試行のまとめ 【29】
②町内の小中学校での取り組みにおける課題 【31】
イ）調査成果を活用した取り組みでの課題 【31】
ウ）次年度以降に向けた調査業務の広報やアイヌ文化の普及の方策 【34】

■関連資料（電子データ版のみに所収）
〇貴気別小学校での試行において使用した資料 【関連資料-①】
〇調査業務の紹介リーフレット（日本語版・英語版） 【関連資料-②】
〇アイヌ文化体験プログラム（案）2015 年度版 【関連資料-③】
〇アイヌの昔の子どもの遊びの遊び方と利用植物 【関連資料-④】
〇阿寒アイヌフードシンポジウムで使用した発表スライド資料 【関連資料-⑤】

②３・４年生で試行したプログラムの概要

今年度（H28 年度）作成した年間計画（案）をもとに学校と調整し、計画・内容を見直しながら実施しました。年間を通じて実施した３・４年生のプログラムの概要を提示します。

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月		３月
打合せ日	13 日	６日	17 日	11 日	22 日	13 日	25 日	18 日	15 日	20 日	13 日	—	７日
実施（授業）日	—	13 日（金）	24 日（金）	15 日（金）	26 日（金）	21 日（木）	28 日（金）	25 日（金）	16 日（金）	24 日（火）	17 日（金）	24 日（金）	—
内容	担任の先生との打合せ（意向調査）	ガイダンスと カリプペ カプ（輪差し）体験	イコクッタラ（オオイタドリ）の笛遊び、 ウトゥカンニ（ミズキ）のくさり遊び、 コロコニ（アキタブキ）のひしゃく作り	伝統料理体験、 イユタ（搗き物）体験 （アドバイザー制度利用）	的作りと シノッポンク（遊びの小弓）遊び	セイピラッカ（貝下駄）作りと遊び①	セイピラッカ（貝下駄）作りと遊び②、 ウコ・カリ・カチュ（ケン玉遊び） 作りと遊び	アイヌ語、アイヌ語地名、アイヌのお話	アイヌ語カード作りとかるた遊び	アイヌ文様	冬の遊び体験	アイヌ文化学習発表会	今年度の学習についての意向調査
時間	—	２時間	２時間	２時間	２時間	２時間	２時間	２時間	２時間	２時間	２時間	１時間	—
実施場所	アイヌ文化情報センター	貫気別小（音楽室）	貫気別神社（境内）	貫気別小（調理室）	貫気別小（体育館）	貫気別小（図書館、玄関前）	貫気別小（玄関前、校庭）	貫気別小（図書館）	貫気別小（音楽室）	博物館 北の工芸つとむ	貫気別小（校庭）	貫気別小（音楽室）	貫気別小
移動手段	—	—	徒歩	—	—	—	—	—	—	バス	—		—
小学校でのまとめ作業	まとめ作業（約 10 時間）												

③３・４年生で試行したプログラムの実施状況

今年度（H28 年度）試行した、アイヌ文化学習の状況を提示します。次ページから、１回の試行を１ページにまとめています。

試行（授業）までの主な準備作業

試行（授業）のために準備した物品
（上段：対策室が準備）
（下段：小学校が準備）

当日の試行（授業）の内容と時間配分

当日の試行（授業）の様子

◇ 第１回試行　５月 13 日（金）　５・６時間目（13:30～15:05）　　実施場所：音楽室、校庭

○主な準備作業

・第１回試行の内容検討（４月 19 日～）
・担任の先生との事前打合せ（５月６日）
・チーム協議（５月９日）
・遊び材料の確認、カリプ（つる輪）の補修
（５月 10 日）
・視聴予定のＤＶＤの確認
（５月 12 日）

カリプの補修

○当日準備したもの

◇対策室　（記録含め、７名で対応）

ノート PC	１台
プロジェクター	１台
スライド資料データ	（PC 内）
イランカラプテシール（生徒へ配布用）	７枚
スピーカー	１セット
『ヘカッタㇻ　シノッ【子どもたちの遊び】』	１冊
カリプ（つる輪）	２０個
カリプペカプ（輪差し）	4 個
ブドウヅルの枝	１つ
感想シート（配布資料）	7 枚

◇小学校

移動式スクリーン	１つ
延長コード	１巻

時間	内容：ガイダンスとカリプペカプ体験		備考
５時間目 13：30～	（音楽室集合） ●ガイダンス ・あいさつ ・アイヌ文化保全対策室の紹介	【約 20 分】	準備したスライド（パワーポイント）を使用
13：45～	●DVD 観賞 ・『ヘカッタㇻ シノッ【子どもたちの遊び】』	【約 25 分】	DVD は 25 分間で見れるところまで視聴
14:15～	＜休憩＞　（音楽室→玄関前に集合）	（５分）	
６時間目 14：20～	●カリプペカプを使った遊び体験　【約 30 分】 ・素材・作り方の紹介 ・遊びの実演 ・遊び体験 ・遊びに使った用具の片づけ	【約 30 分】	カリプ、カリプペカプ、ブドウヅルを準備 校庭に散らばって遊びの体験 対策室スタッフもそれぞれグループにつくような形で補助
	（校庭→音楽室に移動）		
14：55～	●感想シート記入	【約 10 分】	
15：05	●授業終了		

実施状況

今年度の授業の紹介

カリプとカリプペカプの解説

校庭での遊びの体験

イ）平取アイヌ協会青年部主催の活動での試行

平取アイヌ協会青年部（以下、青年部）が主催したウレㇰレク～風の谷の響～という活動において、昨年度（H27 年度）に引き続き、今年度（H28 年度）も青年部より「アイヌのこどもの遊び体験」と当日の記録作業の依頼を受け、補佐として参加しました。この青年部の活動は、地域の方々や一般の方々を対象にアイヌ文化の普及として行われているもので、今年度で６年目となります。

青年部から提示された当日の動き・各担当者・タイムテーブル

平成 28 年度　第６回　ウレㇰレク　当日の動きについて（対策室用）

・ 日時：平成 28 年６月 25 日（土）10：00 ～ 16：00
・ 場所：二風谷生活館
・ 対策室出勤時間：

・ 各担当者

平取協会青年部担当者氏名		対策室担当氏名	
遊び責任者（全般）	加藤 拓夫	吉原 秀喜・山本 雄（ビデオ・カメラ１）	
シノッポンク（遊びの弓矢）	萱野 公裕（青年部として参加）	吉原 秀喜	川奈野 弘美（カメラ２、全体的に記録）
イコクッタラ（オオイタドリの笛）	川奈野 利也	山本 雄	
カリプ ペカプ（輪差し）ウコ・カリ・チュ（けん玉）	加藤 拓夫（青年部として参加）	木村 真奈美	
切り絵	長野 いくみ	長野 環	長野 環（カメラ３）

記録用機材・・ビデオ（三脚・延長コード）
カメラ３台（１．旧ニコン　２．新ニコン　３．マクロ）

備考１・・・・対策室としては、主に５チームが各アイヌの遊び体験に張り付き、各担当青年部の補佐的な形をとる。
備考２・・・・子供の様子を見て流動的に対応する。記録は互いに協力しながら行う。

・ 当日全体的なタイムテーブル

時間	動き	記録
9：50	部員集合	
	会場準備・	
	遊び体験等準備開始・イタドリ採取・看板設置	
13：00～	サニケリハーサル（外招へい者は公園開始まで到着次第順次）	
14：00～	アイヌの遊び体験開始（15：50～後片付け）	
15：00～	出店の準備～販売開始	
16：00～	こどもの部（おおたか静流コラボ）平取保存会（16：50）まで	
17：00～	カピゥ&アパッポＬＩＶＥ（17：25）	
17：30～	アイヌサニケ古式舞踊（17：55）	
18：00～	アイヌアートプロジェクトＬＩＶＥ	
18：30～		
19：10～	交流会及び後片付け準備	
20：00～	意見交換（二風谷生活館）	
21：00	全行程終了	

・サニケ：33 名　　カピウ&アパッポ８名　　アイヌアートプロジェクト：25 名

アイヌのこどもの遊び体験：会場の様子

青年部が作成した広報用ポスター

◎当日の会場の配置図◎

◆対策室スタッフは、主に遊び方や作り方を実演しながら指導を行い、参加者に体験してもらいました。

【切り絵体験の様子】

【シノッポンク（遊びの小弓）体験の様子】

当日は天候が安定していなかったため、シノッポンク、カリプ ペカプ・カリプの体験は、雨の様子を見ながら行いました。

【ウコ・カリ・カチュ（ケン玉遊び）体験の様子】

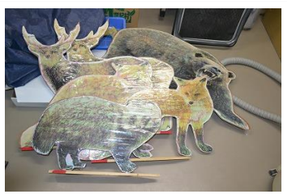
【カリプ ペカプ（輪差し）・カリプ（つる輪）の体験の様子】

【イコクッタラ（オオイタドリ）の笛体験の様子】

アイヌのこどもの遊びに使用した用具一覧

用具名		数量	用具の所在場所	配置人数 遊び指導	配置人数 記録	
シノッポンク（遊びの小弓）	ク（弓）	５本	アイヌ文化保全対策室	青年部：１名／対策室：１名	カメラ１名	カメラ１名
	アイ（矢）	30 本	アイヌ文化保全対策室			
	ヤリカヨプ（矢筒）	１個	アイヌ文化保全対策室			
カリプ ペカプ（輪差し）	カリプ（つる輪）	15 本	アイヌ文化保全対策室	青年部：１名／対策室：１名		
	カリプ ペカプ（輪差し）	３本	アイヌ文化保全対策室			
ウコ・カリ・カチュ（ケン玉遊び）	ウコ・カリ・カチュ	10 本	アイヌ文化保全対策室			
イコクッタラ（オオイタドリ）の笛	イコクッタラの茎	10 本	現地採取（青年部採取）	青年部：１名／対策室：１名		
切り絵	下絵した色付コピー用紙	５種：各 100 枚	平取アイヌ協会青年部	青年部：１名／対策室：１名	カメラ１名	
	はさみ	10 個				
	クリアファイル	100 枚				

当日までの主な準備作業



（当日の準備作業）

ウ）一般の方々を対象としたチセ（家）での試行

昨年度（H27 年度）に引き続き、今年度（H28 年度）も各分野で制作した生活用具や採取した素材等を展示している平取地域イオル再生事業１号チセ（家）を開放して、一般の方々を対象に試行調査を行いました。試行の際には、アイヌの昔の子どもの遊びの体験やチセ内の展示物を見学してもらい、来訪者へ対応しました。

◆主に遊び方や作り方の指導を実践し、体験してもらいながら素材（植物）などを、学んでもらいました。

アイヌの昔の子どもの遊び体験の様子

イコクッタラ（オオイタドリ）の笛

シノッポンク（遊びの小弓）

カリプ（つる輪）・カリプペカプ（輪差し）

ウコ・カリ・カチュ（ケン玉遊び）

◆主に展示物の利用法や使用法を説明しながら素材（植物）などを、学んでもらいました。

展示物の見学の様子

調査員による展示物の解説

チセ内の展示物・配置については、P. 28 をご覧ください。一覧としてまとめています

チセ開放日	来場者数（人）				
	午前		午後		合計
	大人	子供	大人	子供	
８/10（水）	1	0	4	2	7
８/12（月）	30	17	22	11	80
８/13（土）	15	22	23	15	65
８/14（日）	33	3	31	10	81
８/15（月）	15	7	17	4	39
計　５日間	95	49	97	42	272

チセの開放時間
- ８月 10 日/12 日/15 日は、10 時～15 時
- ８月 13 日/14 日は、９時 30 分～16 時 30 分

試行の際に展示した調査員の私物、配布資料
トンコリ（弦楽器の一種）１　（調査員の私物）
エムシ（刀）１　（調査員の私物）
アイヌ文化環境保全対策事業紹介パンフレット（日本語版、英語版）
Ａ４プリント　アイヌ語に触れてみよう Ａ４プリント　名刺・動詞 二風谷アイヌ文化博物館提供　（配布用）
『アイヌ民族：歴史と現在　－未来を共に生きるために－〈改訂版〉 小学生用/中学生用』 公益財団法人アイヌ文化振興推進機構提供　（配布用）

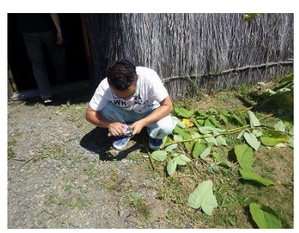
●試行を行う際の事前準備

チセ内の掃除

情報センター内の看板に、チセを開放している旨を掲示しました。

「アイヌの子どもの遊びを体験できます」と表示した看板を設置しました。

遊び用具の修理・作成



エ）NHK 文化センター新さっぽろ教室主催のツアーでの試行

今年度（H28 年度）は、６月に NHK 文化センター新さっぽろ教室が主催する「植物探訪　野の花と樹木めぐり」ツアーの中で試行を行いました。４回ある講座のうち、３回目で平取・ニセウ周辺を探訪されました。講師は、三木昇氏（北ノ森自然伝習所主宰）です。三木氏には、７分野でもこの事業に携わっていただいています。ツアーの中では、芽生のフットパス予定ルート、植物保全区Ｓ－０５を見てもらいました。見学の際には、今までに作成したパンフレットやマニュアル等を活用し、対策室スタッフも解説や対応を行いました。

プログラム

６月８日　植物探訪「野の花と樹木めぐり」　講師：三木昇　参加者：27 名

時間	内容・見学場所	備考・活用資料
（8:00→）9:10	（札幌→）情報センター到着	
	（バス移動）	
9:35～10:10	二風谷ダム管理棟	対岸の景観を見学 「アイヌ民族・文化とクマ」
	（バス移動）	
10:25～10:45	オキクルミのチャシ見学	平取町文化的景観解説シート （No.8,44,55,58,59,60,61）
	（バス移動）	「対策室パンフレット」
11:00～11:15	幌毛志・舟のへさき見学	
	（バス移動）	
11:30～12:30	仁世宇園（昼食）	
	（バス移動）	
13:25～14:10	フットパス予定ルート散策	チノミシリ１見学 主にＴ５メンバーが対応 「芽生地区のマップ」
	（バス移動）	
14:12～14:25	すずらん群生地	
	（徒歩移動）	
14:45～15:25	Ｓ－０５見学	主にＴ２メンバーが対応 「植物園のネットワークをめざした取り組み」
（→17:45）	（バス移動→札幌）	「アンケート用紙」

実施状況

◆　二風谷ダム管理所での対岸の見学の様子　◆

◆　オキクルミのチャシの見学の様子　◆

◆　幌毛志・舟のへさき（ロクンテウエトゥ）の見学の様子　◆

◆移動の車中では、アイヌ文化環境保全対策事業のことや、沙流川流域のアイヌ語地名・伝承のことなど解説し、参加者に学んでもらいました。

◆　芽生・フットパス予定ルートの見学の様子　◆

◆ルート上、また林内で、チノミシリの解説をしました。
帰り道には、牧野の景観について解説をしました。

◆　植物保全区Ｓ-05：アイヌ民族植物園（仮称）見学の様子　◆

◆「植物園」のネットワークをめざした取り組みのパンフレットを活用しな、現在取り組んでいる栽培試験の状況、ゾーン設定のテーマ、植物利用法等を説明し、参加者に学んでもらいました。

当日、配布して活用した資料等

「アイヌ民族・文化とクマ」
（雑誌モーリーNo.28 より）

調査業務の紹介リーフレット

芽生地区のマップ

「植物園」のネットワークをめざした取り組み パンフレット

アンケート用紙

平取町文化的景観解説シート
（No. 8, 44, 55, 58, 59, 60, 61）

講師の三木氏より、参加者へ配布。景観や伝承などの解説時に活用しました。

事業名	2016(平成28)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**6-栽培実験の継続に関する調査**
目的／課題 ※1 <注>※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆植物栽培マニュアル（案）に基づき、二風谷地区で実施中の育苗について育成管理を行う。 また、適宜植物保全モデル地区への移植を行い、モニタリングを行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【移植試験事前準備】 有用植物移植試験実施に必要となる事前準備（現地確認）を実施する。 ②【移植試験地整備作業】 移植試験の活着率を上げるため、移植箇所付近の除草、食害防止を実施する。 ③④【有用植物移植試験（木本③／草本④）】 有用植物（木本／草本）を対象として、植物保全モデル地区へ移植試験を行う。 ⑤【播種栽培試験事前準備】 播種栽培試験に必要な事前準備を行う。 ⑥【播種栽培試験】 有用植物についての播種栽培試験を行う。 ⑦【播種栽培マニュアル（案）の更新】 播種栽培試験を実施した植物について、植物栽培マニュアル（案）の更新を行う。 ⑧【調査結果取りまとめ】 各種毎に、現地での活着状況の確認や除草、食害対策等モニタリングを実施するとともにモニタリング項目や頻度等を示したモニタリング計画(案)をとりまとめる。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字、記号は上の欄に対応 ①⇒　移植試験地絞り込み周辺環境の点検・整備 ②⇒　移植試験地の点検・整備 ③④⇒　移植試験（未実施種中心）過程記録 ⑤⇒　播種試験地絞り込み周辺環境の点検・整備 ⑥⇒　播種試験（未実施種中心）過程記録 ⑦⇒　播種試験結果分析、マニュアルの更新(version up／2016年版) ⑧⇒　①～⑦の成果をまとめた報告書：マニュアル最新版(食害対策を含む)

年間作業工程（行程）概要

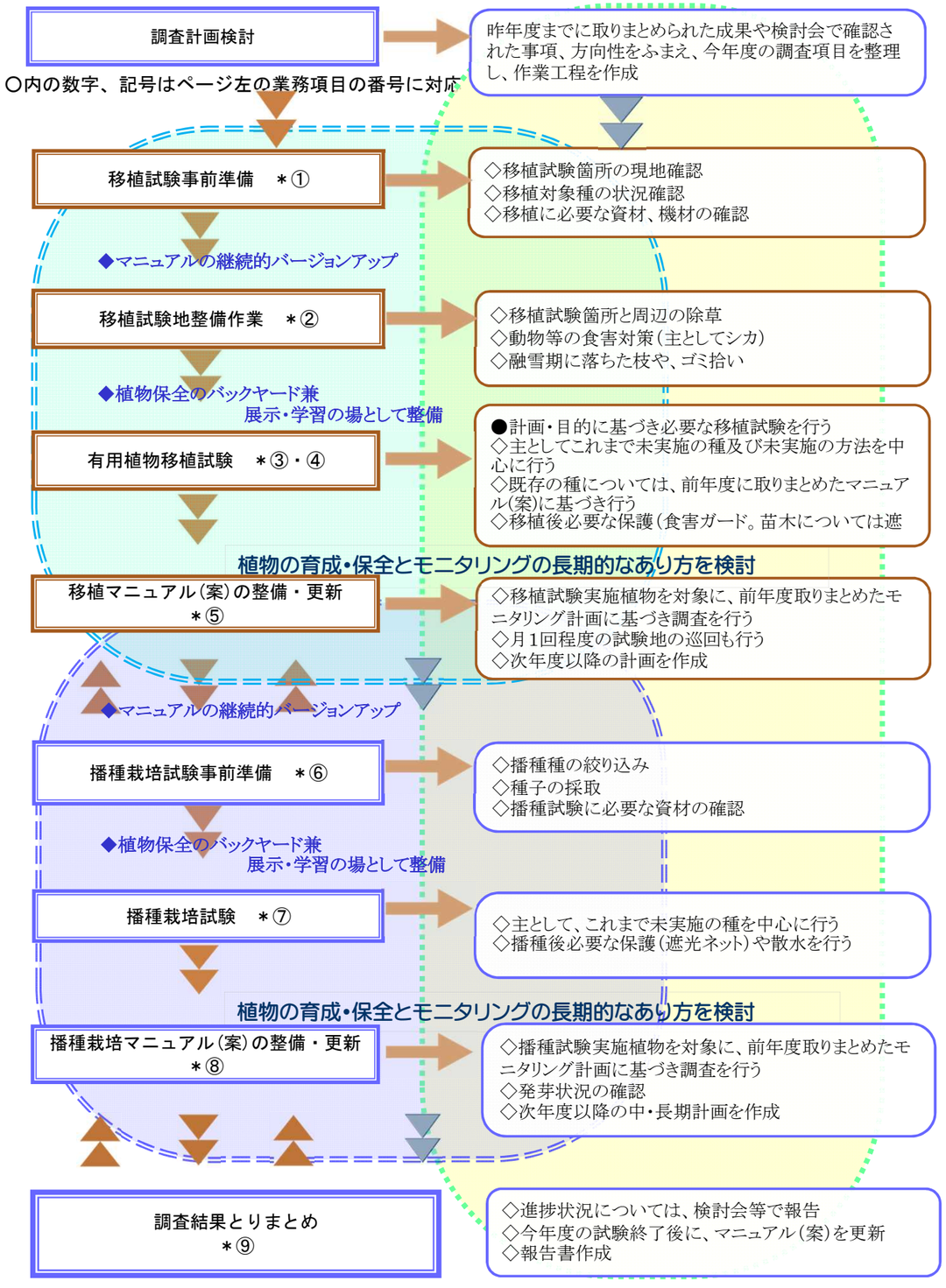
業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
◆調査計画検討												
①【移植試験事前準備】		育苗畑整備／施肥／草刈りなど										
②【移植試験地整備作業】												
③④【移植試験(木本／草本)】												
⑤【播種試験事前準備】		育苗畑整備／施肥／草刈りなど										
⑥【播種試験(木本／草本)】												
⑦【播種試験モニタリング】							播種栽培マニュアル(案)の更新					
⑧【調査結果とりまとめ】								報告書作成				
検討会または勉強会			○		○		○		○		○	

検討会などにおける報告

作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎及川直美　　○黒川賢司 ／ 川奈野弘美 ／ 久保拓史
補佐	◇貝澤耕一 ／ 山本　雄　　［吉原秀喜］
今年度 重点事項	★植物の育成・保全に関するノウハウやスキルの集積・研鑽に努め、当事業発展の基盤拡充を図りつつ、関連諸事業と技術協力や連携を進め、地域・文化の振興に寄与する。

■6-有用植物移植試験及びモニタリング調査の計画基本フロー

【想定する成果の重点】
★植物の育成・保全に関するノウハウやスキルの集積・研鑽に努め、当事業発展の基盤拡充を図りつつ、関連諸事業と技術協力や連携を進め、地域・文化の振興に寄与する。



6 - 栽培実験の継続に関する調査　～この分野の作業概況～

０１◆S-05圃場作業

０２◆育苗畑２整備作業

０３◆育苗畑２防草シート貼り作業

０４◆育苗畑２枝払い

０５◆育苗畑２草刈り作業

０６◆S-05圃場モニタリング作業

０７◆平取大橋下茅試験畑モニタリング作業

０８◆S-05鹿柵設置予定箇所の打合せ

０９◆育苗畑１整備作業

１０◆種子採取作業

１１◆混播・混植法に向けた準備作業

１２◆事業所と育苗畑２の苗木確認作業

H28年度
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と目的・内容
C◆＝今年度重点事項

A◆＝植物栽培マニュアル(案)に基づき、二風谷地区で実施中の育苗について育成管理を行う。また、適宜植物保全モデル地区への移植を行い、モニタリングを行う。

B◆＝①【移植試験事前準備】有用植物移植試験実施に必要となる事前準備(現地確認)を実施する。
②【移植試験地整備作業】移植試験の活着率を上げるため、移植箇所付近の除草、食害防止を実施する。
③④【有用植物移植試験(木本③／草本④)】有用植物(木本／草本)を対象として、植物保全モデル地区へ移植試験を行う。
⑤【播種栽培試験事前準備】播種栽培試験に必要な事前準備を行う。
⑥【播種栽培試験】有用植物についての播種栽培試験を行う。
⑦【播種栽培マニュアル(案)の更新】播種栽培試験を実施した植物について、植物栽培マニュアル(案)の更新を行う。
⑧【調査結果取りまとめ】各種毎に、現地での活着状況の確認や除草、食害対策等モニタリングを実施するとともにモニタリング項目や頻度等を示したモニタリング計画(案)をとりまとめる。

C◆＝★植物の育成・保全に関するノウハウやスキルの集積・研鑽に努め、当事業発展の基盤拡充を図りつつ、関連諸事業と技術協力や連携を進め、地域・文化の振興に寄与する。

6

栽培実験の継続に関する調査

■目次 【ⅰ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ⅱ】
◎作業状況―写真による業務説明 【ⅲ】

■調査の成果
Ａ．Ｈ28 年度調査計画検討 【１】
ア）Ｈ28 年度調査計画の検討 【１】
イ）栽培試験の育成概念 【３】
ウ）栽培試験地と周辺環境の点検・整備 【４】

Ｂ．移植試験事前準備 【５】
ア）Ｈ28 年度栽培試験状況 【５】
Ｃ．栽培試験地整備作業 【６】
ア）育成を促進させるために行った作業 【６】
イ）各栽培試験地で行った整備作業 【６】
①育苗畑１で行った整備 【６】
②育苗畑２で行った整備 【６】
③Ｓ-05 で行った整備 【７】

Ｄ．有用植物移植試験 【７】
ア）Ｈ28 年度に行った移植栽培試験概要 【７】
①各栽培試験地で行っている試験種 【７】
イ）各栽培試験地における栽培試験 【９】
①育苗畑１での草本移植栽培試験とモニタリング調査 【９】
②Ｓ-05 での移植栽培試験 【10】
③その他の試験地での栽培試験 【12】
ａ〉沙流川流域での有用植物保全に関する栽培試験に関して 【12】
ｂ〉有用植物保全に関する栽培試験地Ⅱでの各試験栽培に関して 【13】
ｃ〉有用植物保全に関する栽培試験地Ⅱでの苗木移植に関して 【14】
ｄ〉精神文化に関わる保全対象地■10 カムイノミ箇所への苗木移植に関して 【17】

Ｅ．木本・草本播種栽培試験 【18】
ア）Ｈ28 年度に行った播種栽培試験概要 【18】
イ）種子の事前確認、採種 【18】
ウ）播種栽培試験 【19】

Ｆ．植物栽培マニュアル（案） 【19】
ア）植物栽培マニュアル（案）の更新 【19】

Ｇ．モニタリング調査 【20】
ア）モニタリング調査概要 【20】
イ）モニタリング調査 【21】
①苗木・稚樹の成長記録 【21】
②調査結果のまとめ 【23】

Ｈ．Ｈ29 年度以降の課題 【24】

■別添資料：植物栽培マニュアル Ver.2016（試作版）

■関連資料
○Ｓ-05 モニタリング調査 【関連資料-①】
○Ｓ-05 伐株モニタリング調査 【関連資料-②】
○「植物園」のネットッワークを目指した取り組み 【関連資料-③】
○「有用植物」資源量の把握と保全計画策定に向けた作業の考え方と
植物資源量の必要算出に関する考え方 【関連資料-④】

C．栽培試験地整備作業

ア）生育を促進させるために行った作業

今年度は主に育苗畑２の整備に重点を置き育成管理に伴う整備を行いました。また、育苗畑１では、稚樹への散水や雑草取りなどの生育を促進するための作業を行いました。

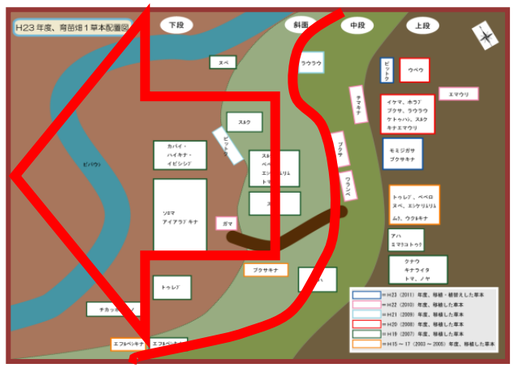
獣害対策の為の防獣ネットの補強を行いました。	育苗畑２全体に堆肥を散布してロータリーでかき混ぜました。	害虫駆除の為の薬を散布しました。	手で丁寧に草取り作業を行いました。	雑草対策のために、防草シートを張りました。	獣害防止の為、育苗畑２の周辺全てが囲えるようにネットを張りました。

イ）各栽培試験地で行った整備作業

①育苗畑１で行った整備

ここでは、草本の展示を目的とした整備を行っています。展示箇所の草刈りを始め、ゾーンごとに区切っていた草本の中でも枯れてしまった物を保全対象地より採取して、移植しました。今後は、育苗畑の土壌整備等を行って、アイヌ文化に必要な有用植物の展示を行っていきたいと思います。

：赤線から左方向の整備については、下段に降りる階段が朽ちて危険な為行えませんでした。



展示ゾーン周辺の枯れ木やゴミの片づけ	草刈作業	雑草対策のための防草シートはり

現状の様子

法面がずり落ちてきている様子。

台風の影響で大水が出て、流木が溜まっている様子。

②育苗畑２で行った整備

成長して株間が詰まって生育に支障をきたす状況の苗木を掘り起こし、根切りを行いながら別の場所に十分な株間を取りながら移植しました。	冬の間落葉した葉を集めて、発酵させ堆肥として再利用する為の作業を行いました。	防草シートを敷く前に、苗木の畝間を機械でかき混ぜ、根切りと生育促進を図った作業を行いました。	雑草対策の為に、畝間に防草シートを敷きました。
仮埋けした苗木に散水して根が乾かないような対策を行いました。	雑草を刈り払い機で除草する作業を行いました。	劣化した看板を取り換えました。	

９月 20 日
沙流川ダム建設事業所と合同で育苗畑２の木本確認と今後の整備について現地協議を行いました。その結果、右図の計画案が今後の課題として出されました。

側溝を拡げ、ガマの生息域を確保する。

今後の整備計画案

育苗畑２配置図

側溝の入口部分を拡げ、溜め池を作りガマの生息域を確保する。

イ）各栽培試験地における栽培試験

①育苗畑１での木本移植試験栽培とモニタリング調査

今年度は、上段に野外展示している草本の生育が、年々悪くなってきているように見えるので（個体や株が小さくなってきている等）、次年度以降は土壌改良も視野にいれ、整備を行っていきたいと考えています。この整備については、現在平取町まちづくり課が主体となり進められている「二風谷地区再整備基本計画」に基づき、関連する機関と協働で行っていきたいと考えています。以下は、播種後、発芽した苗木の移植作業と管理を行いました。

育苗畑１の様子

◎苗木ポット移植作業工程

トレーにポットを並べる

ポット一杯に土を入れる

根を差し込む様に植える

移植完了

散水

遮光ネット取り付け

10 月５日（水）に行われた「第３回シシリムカ文化大学講座」では、岡村俊邦先生を講師に招き、「豊かな森づくりを共に楽しく～新しい提案が実証された 40 年～」と題した講演をして頂きました。この講演の中で「生態学的混播・混植法－裸地の混交林化－」を提唱されており、この方法を次年度以降で実際に調査に活かす為の作業を行いました。下記の作業①②を参照してください。

岡村俊邦 先生

北海道科学大学空間創造学部教授/環境再生医/NPO 法人自然森づくり協会理事長

★岡村先生は緑化工学、自然再生、砂防学がご専門です。緑化については、生態学的混播・混植法（こんぱ・こんしょくほう）という効果的な方法を提唱し実践してこられました。

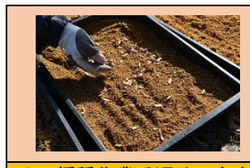
生態学混播・混植法とは

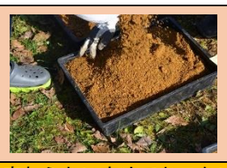
風倒による根返り跡地では、裸地に散布された多種のタネがほぼ同時に発芽・発育し、遷移を経て次第に元の樹林に再生してゆく。この過程を参考とした自然に近い樹林の再生法が生態学的混播・混植法である。

中西出版株式会社　発行 2015 年　著者 吉井厚志　岡村俊邦

作業①

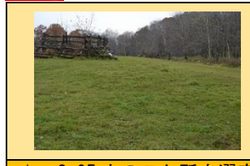
★　今回の播種方法は、右の資料１に基づいて、岡村先生が提唱されている軽石土体の用土（火山灰）を利用する播種方法を試みてみました。



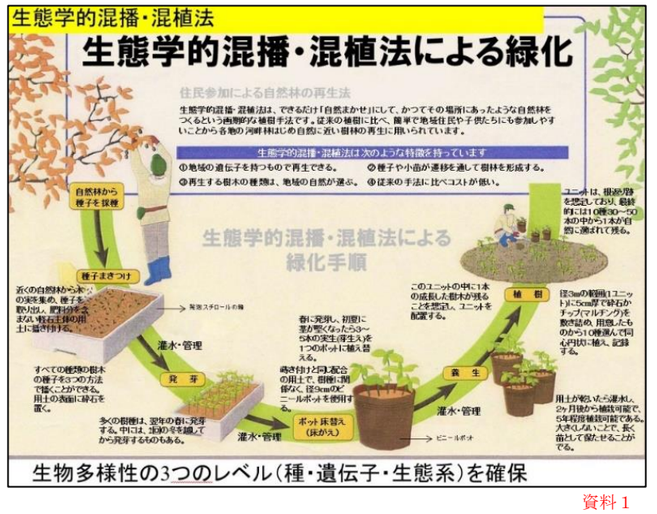


★　播種作業手順は、今までと変わらない方法でおこないました。また、次年度以降の芽吹き方を記録し、土を変えるなど異なる試行も随時行っていきたいと思います。

作業②



★　S-05 内の５か所を選定して、防草シートを約３ｍ四方の範囲で敷きました。次年度は、経過観察と、移植準備作業を行います。



資料１

●年間を通しての圃場内作業の流れ

下図は、年間の作業の流れを図に表したものになります。

４月		５月		６月		８月		
圃場内の確認調査	目的の苗木以外の木を除伐する	苗木育苗畑の除草	育苗畑１からの苗木移植	圃場内の除草（平取町高齢者事業団へ依頼）	モニタリング調査	圃場内の除草（平取町高齢者事業団へ依頼）		

今年度は、以前からの課題として提起されていた鹿柵を S-05 周辺に設置することができました。鹿柵の設置に伴い、次年度以降は、獣害予防ネットを外す作業と、二風谷育苗畑２からの苗木移植を進めていきたいと思います。

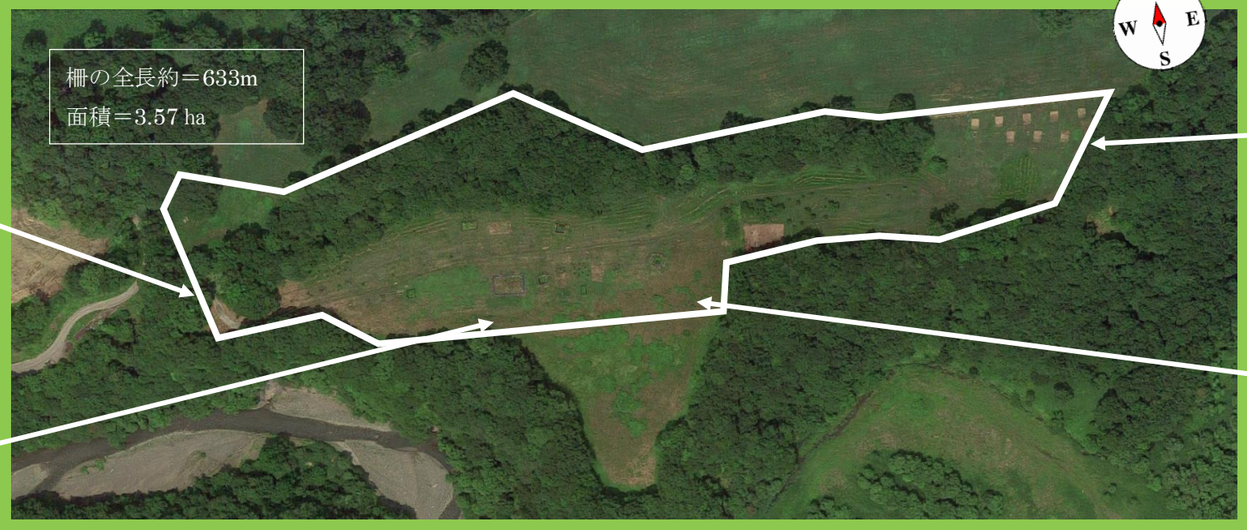
鹿 柵 設 置 の 流 れ

４月 22 日
鹿柵設置に伴う範囲等の現地打ち合わせを行いました。

８月 18 日
鹿柵設置業者を含めた範囲決め杭打ちを行いました。

11 月 17 日
鹿柵設置完了確認しました。

設置後
小動物の足跡は確認されましたが、鹿の進入の痕跡は確認されていません。



鹿 柵 設 置 範 囲

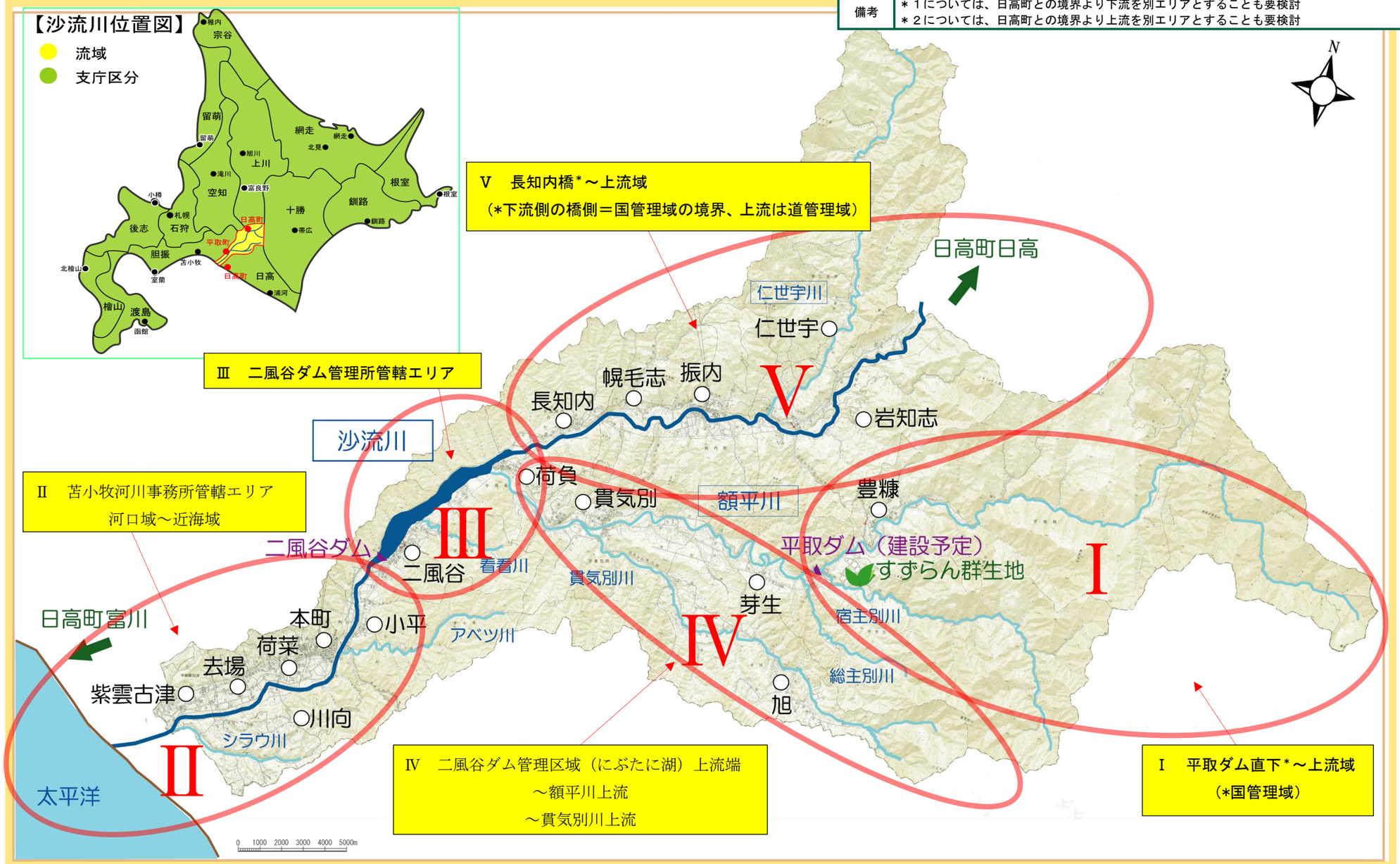
③その他の試験地での栽培試験

③－ａ〉沙流川流域での有用植物保全に関する栽培試験地の区域をⅠ～Ⅴに設定しました。

沙流側流域における生物（主に植物）生存環境保全区域の設定の考え方

区域名	区域設定の考え方（名称）	境界　①下流側　②上流側	伝統的コタンやイオルとの 対応 ＊主に泉靖一1951より
Ⅰ	平取ダム上流エリア	①平取ダム堤体 ②額平川本流の源流域	NUPKIPET/NIOI
Ⅱ	沙流川(二風谷ダム)下流エリア ＊１	①富川の河口・沿岸部 ②二風谷ダム管理域の境(下流側)	PITARPA/PIRAKA/SHUM-KOT/ SARPA/NINA/PIRAUTUR
Ⅲ	にぶたに湖エリア	①二風谷ダム堤体 ②二風谷ダム管理域の境(上流側)	NIPUTANI/PIPAUSHI/KANKAN/PENAKORI
Ⅳ	額平川流域エリア	①二風谷ダム管理域の境 ②平取ダム堤体／貫気別川水系の源流域	SHIKEREPE/NIOI/ NUPKI-PET
Ⅴ	沙流川中流・上流エリア　＊２	①二風谷ダム管理域の境(上流側) ②沙流川水系の源流域	POROSAR/OSAT-NAI/ OUKOT-NAI
備考	＊１については、日高町との境界より下流を別エリアとすることも要検討 ＊２については、日高町との境界より上流を別エリアとすることも要検討		

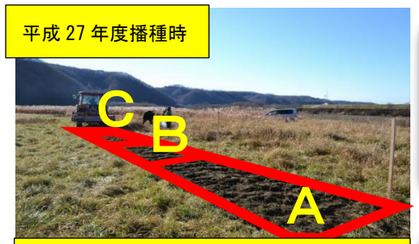
植物保全区域分け地図



③-ｂ〉有用植物保全に関する栽培試験地の区域Ⅱでのｽﾌﾟｷ（オニガヤ）シキナ・（ガマ）栽培試験に関して

ｽﾌﾟｷの移植後経過観察調査と、新に範囲を決めて肥料を散布した箇所と散布しない箇所の成長を比較する調査を行いました。

試験地１・・・平取大橋下の沙流川右岸（黄色い線で囲ってある場所）試験地２・・・平取大橋下の沙流川右岸（赤色の線で囲ってある場所）



Ａ・・・開墾した後播種を行い、機械で土にすき込んだ範囲。
Ｂ・・・開墾した後播種を行い、機械で圧力をかけた範囲。
Ｃ・・・開墾後、種をばら蒔きした範囲。

４月 26 日
ｽﾌﾟｷの生育状況が、設定された箇所では確認できませんでした。

７月８日
周辺の手付かずのｽﾌﾟｷに比べても、播種を行った場所には、ｽﾌﾟｷの成長が確認できませんでした。

今後の整備について

大雨等の影響で萱場までの通路が崩れてしまい、一時的に調査作業が出来なくなりました。次年度からの整備課題として、各現地作業道整備を取り入れたいと思います。

4月

5月

ｽﾌﾟｷ栽培試験地の全体を一度刈り、栽培試験畑Ａ、Ｂを設定し、範囲は共に縦幅 20m横幅 10mに決めました。Ｂ畑には、鶏糞肥料を 140 kg散布し、経過観察を行いました。

● 経過観察概要

鶏糞散布２ヵ月後の７月モニタリング調査		鶏糞散布５か月後 10 月モニタリング調査		
鶏糞散布無し	鶏糞散布有り	山側の沢の様子	台風後のｽﾌﾟｷの様子	平取大橋から見た萱場の様子
平均 100 ㎝程に成長している。	平均 160 ㎝程に成長しており、鶏糞の効果が出ていると思われる。	今年度は、台風の影響でｽﾌﾟｷの試験栽培をしている箇所に水と土砂が乗り、その後の度重なる雨による沢の崩壊に伴い、大水で試験地がほぼ壊滅状態になりました。ですが、貝澤相談役による次年度への影響は無いとの判断を参考に、今年度は現状のまま地面が固まるのを待ち、次年度の春先に行う刈取作業の準備を行いました。		

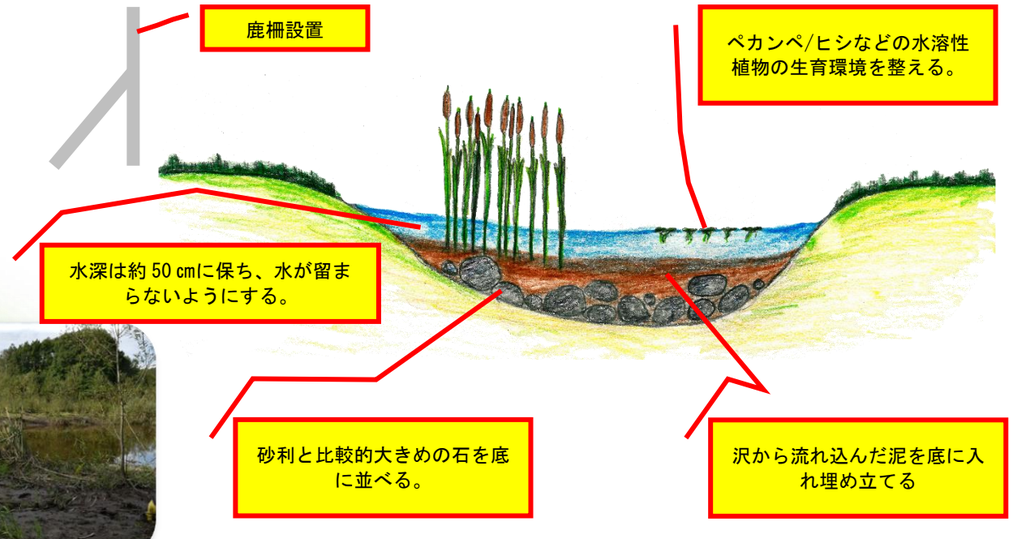
ガマの移植後経過観察調査を行いましたが、水害の為に生息域が崩壊してしまったので、次年度以降の対策案を検討していきたいと思います。

試験地・・・カンカン川ガマ栽培試験地

貝澤耕一指導員の見解
ガマの生育は、水深 80 ㎝以上だと困難で、深すぎると、根が浮いて定着できなくなる。水深 50 ㎝くらいで、日当たりの良い、肥沃な場所と、新芽の食害を防ぐために鹿柵を設置してほしい。

９月 20 日　現地の状況

移植後のガマ生育調査では、移植されたガマの順調な生育がほぼ確認できない状態の為今後の整備計画として、下記の整備計画案をあげます。

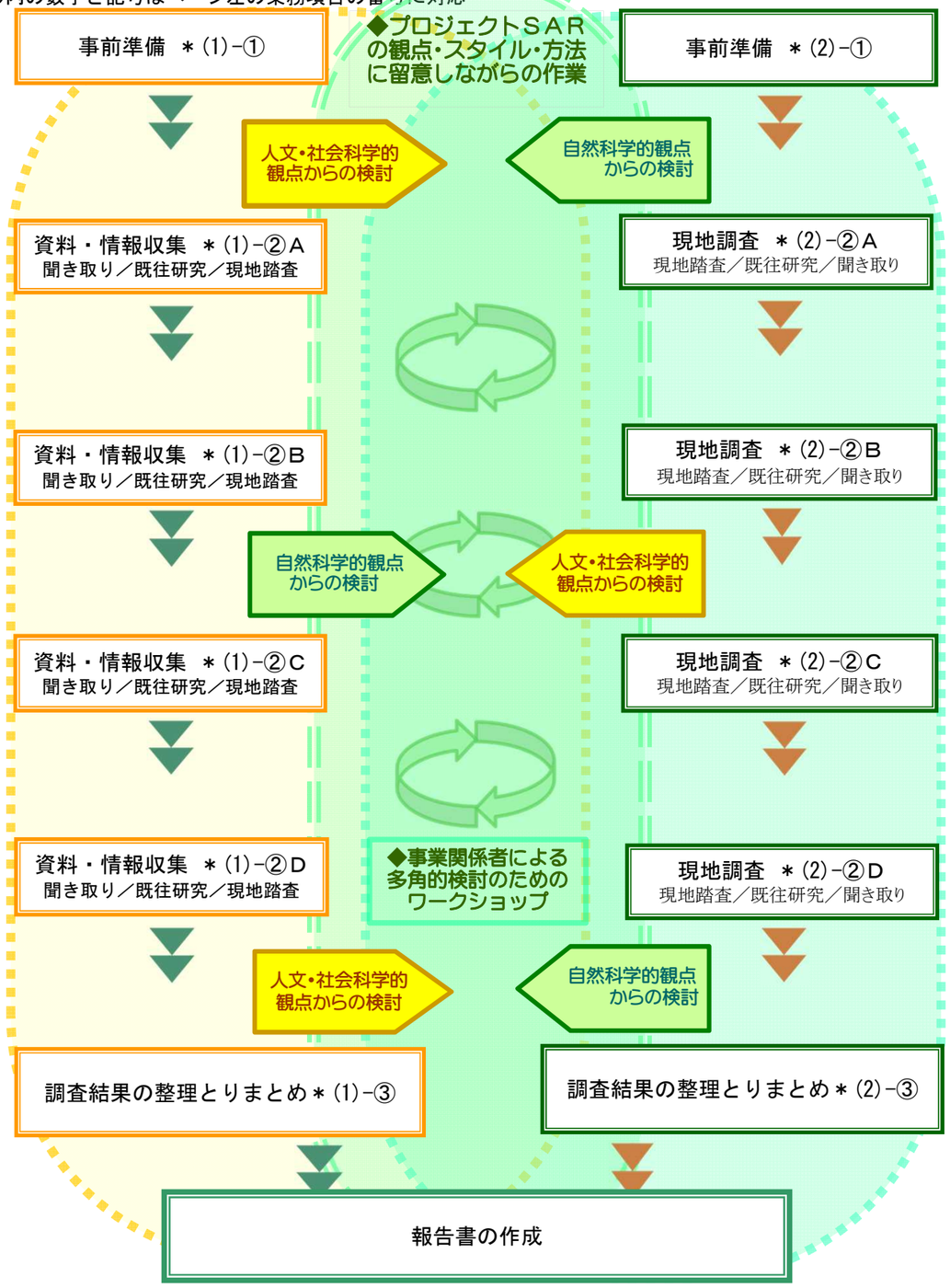


事業名	2016(平成28)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**7 - 沙流川河道掘削における事前調査**
目的／課題 ※1 <注>※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆(1)地域文化保全に関する調査** **地域文化の保全対策に必要な現地調査として、沙流川右岸kp12.8～13.6、kp14.4～15.2区間及び左岸kp11.8～12.2区間に予定している河道掘削箇所周辺における川や沢などのアイヌ語地名及びチノミシリ等の聞き取り調査を実施し、調査結果について整理とりまとめを行う。** **◆(2)河道掘削予定箇所現地調査** **沙流川右岸kp12.8～13.6、kp14.4～15.2区間及び左岸11.8～12.2区間に予定している河道掘削箇所周辺について、既存資料に基づく植生状況の現地確認を行い、アイヌ文化の伝承、振興に欠かせない素材や資源(ガマ、ヨシ等)を供給する上で必要な河川環境の有無の確認を実施し、調査結果について整理とりまとめを行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	(1)地域文化保全に関する調査 -①事前準備＝河道掘削箇所周辺における地域文化保全対策に関する調査の事前準備 -②対象区域聞き取り調査＝地域文化保全対策に関する聞き取り調査 -③調査結果とりまとめ＝調査結果をとりまとめ地域文化保全対策のための基礎資料を整理 (2)河道掘削予定箇所現地調査 -①事前準備＝河道掘削箇所周辺の既存資料に基づく植生状況についての事前準備 -②現地調査＝河道掘削箇所周辺の既存資料に基づく植生状況についての現地調査 -③調査結果とりまとめ＝工事実施に向けた植生調査結果をとりまとめ整理
想定する成果 (状況/物品)	＊○内の数字、記号は上の欄に対応 (1)-①事前準備＝協力者のリストアップと調整／マニュアル再検討(私権に対するポリシー等) -②対象区域聞き取り調査等の資料・情報収集＝のべ10人程度ほか -③調査結果とりまとめ＝アイヌ語地名とチノミシリ、伝説・伝承地、遺跡等の一覧とデータベース、文化環境概念図 (2)-①事前準備＝調査手法・項目の検討／作業手順の確認 -②現地調査＝春／夏／秋／冬の各期にのべ10回程度 ＋ 定点での観測(写真撮影)等 -③調査結果とりまとめ＝植物リスト・分布図、生物相(鳥類等を含む)・生態系の概念図
年間作業工程 (行程)概要	
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎長野　環　／　○貝澤朱美　黒川賢司　／　川奈野弘美　／　久保拓史　[貝澤耕一]
補佐	◇木村真奈美　／　山本　雄　[吉原秀喜]
今年度 重点事項	★(1)聴き取りなどによる新規・独自資料と、既存資料との統合等により、多面的な把握に努める。(2)文化保全と河川環境のあり方について検討するための基礎資料を集積し、活かす。調査の成果をふまえ「かわまちづくり」等の関連事業と連携して保全対策を提案し、推進する。

■7 -沙流川河道掘削における事前調査の計画基本フロー

【想定する成果の重点】
★(1)聴き取りなどによる新規・独自資料と、既存資料との照合・統合等により、多面的な把握に努める。
(2)文化保全と河川環境のあり方について検討するための基礎資料を集積し、活かす。調査の成果をふまえ「かわまちづくり」等の関連事業と連携して保全対策を提案し、推進する。

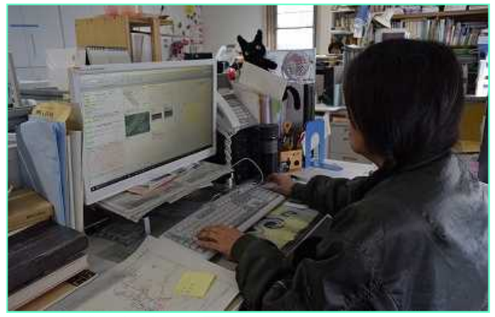
＊○内の数字と記号はページ左の業務項目の番号に対応



7 - 沙流川河道掘削における事前調査　～この分野の作業概況～

０１◆聴き取り調査

０２◆アイヌ語地名踏査


０３◆データベース更新

０４◆河道掘削箇所現地確認調査

０５◆調査ポイントの杭打ち・プレート付

０６◆春期植生調査

０７◆断面調査事前準備

０８◆調査の前打ち合わせ

０９◆植生断面調査

１０◆調査後の振り返り

１１◆秋期直性調査

１２◆冬期植生調査

H28年度
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝今年度

A◆＝(1)地域文化保全に関する調査
　地域文化の保全対策に必要な現地調査として、沙流川右岸kp12.8～13.6、kp14.4～15.2区間及び左岸kp11.8～12.2区間に予定している河道掘削箇所周辺における川や沢などのアイヌ語地名及びチノミシリ等の聞き取り調査を実施し、調査結果について整理とりまとめを行う。
(2)河道掘削予定箇所現地調査
　沙流川右岸kp12.8～13.6、kp14.4～15.2区間及び左岸11.8～12.2区間に予定している河道掘削箇所周辺について、既存資料に基づく植生状況の現地確認を行い、アイヌ文化の伝承、振興に欠かせない素材や資源(ガマ、ヨシ等)を供給する上で必要な河川環境の有無の確認を実施し、調査結果について整理とりまとめを行う。
B◆＝省略
C◆＝★(1)聴き取りなどによる新規・独自資料と、既存資料との統合等により、多面的な把握に努める。(2)文化保全と河川環境のあり方について検討するための基礎資料を集積し、活かす。調査の成果をふまえ「かわまちづくり」等の関連事業と連携して保全対策を提案し、推進する。

7

沙流川河道掘削における事前調査

■目次 【ⅰ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ⅱ】
◎作業状況―写真による業務説明 【ⅲ】

■調査の成果
Ａ．沙流川河道掘削における事前調査について 【】
ア）３年目の事前調査に至る経緯と作業経過 【】
イ）調査の範囲・対象・方法 【】
①地域文化保全に関する調査に関して 【】
②河道掘削箇所現地調査に関して 【】
ウ）調査成果の概要・所見／特徴／意義・課題 【】

Ｂ.地域文化保全に関する調査 【８】
ア）調査による基本データ 【８】
イ）聴き取り調査の成果 【10】

Ｃ.沙流川河道掘削予定箇所現地調査 【11】
ア）調査事前検討 【11】
イ）現地状況の概要 【12】
ウ）沙流川右岸 kp12.8～13.6、kp14.4～15.2、左岸 kp11.8～12.2 区間の現地状況の概要 【15】
エ）河道掘削予定箇所における春期調査 【17】
①植生調査 【17】
②沙流川右岸 kp p12.8～13.6、kp14.4～15.2、左岸 kp11.8～12.2 区間の植生分布状況 【21】
オ）河道掘削予定箇所における夏期調査 【22】
①植生断面調査事前準備 【22】
カ）植生断面調査 【23】
①左岸 kp12.0 の植生断面調査状況 【23】
②左岸 kp12.0 植生断面図 【25】
③右岸 kp13.2 の植生断面調査状況 【26】
④右岸 kp13.2 の植生断面図 【28】
⑤右岸 kp14.6 の植生断面調査状況 【29】
⑥右岸 kp14.6 の植生断面図 【31】
キ）台風９号、10 号の記録 【32】
ク）秋期調査 【33】
①左岸 kp12.0 周辺の様子 【33】
②右岸 kp13.2 周辺の様子 【34】
③右岸 kp14.6 周辺の様子 【35】
④各断面調査箇所の確認と台風による土砂堆積の範囲確認 【36】
ケ）冬期調査 【39】
コ）川とアイヌ文化の関わり 【42】
サ）調査のまとめ 【43】
シ）生物名（植物・動物）の表記 【44】

■別添資料：沙流川流域アイヌ語地名データベース Ver.2016

◎H28 年度更新分

番号	003	28年度		岸・源	左岸
地形分類	川	地域･川筋	沙流川支流	漢字	亜別川

アイヌ語地名　アペ川

ローマ字表記　a pet／at pet

調査室調ペアイヌ語表記

【a】=座る【萱野】
【pet】=川【萱野】
【at】=オヒョウの皮【萱野】
【pet】=川【萱野】
【a-pet】=座どころ＜（何かが）座る・川＞【北海道環境生活部】

出典・由来①　【明治29年陸地測量部・五万分の一地図】

出典・由来②　【国土地理院25000分の1】

出典・由来③　【2003年発行「平取町百年史」P56　平取町】
幸平地区と亜別地区の合併による。
平取市街の対岸の川名。

出典・由来④　【山田秀三　1984年発行「北海道の地名」P362　北海道新聞社】
平取市街の対岸で沙流川に注ぐ川名。この形の名は解しにくい。永田地名解は「ア」を「座る」と訳した。松浦氏左留日誌は「アアベツ。其名義は

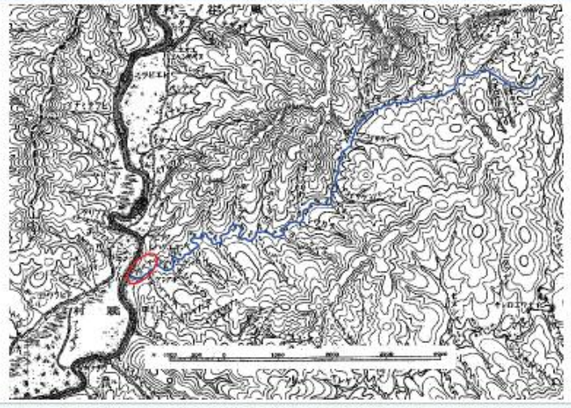
出典・由来⑤　【永田方正　1984年発行「北海道蝦夷語地名解」P257　株式会社草風社」
ア　ペ

出典・由来⑥　【北海道環境生活部　平成13年発行「アイヌ語地名リスト」P8増刷　財団法人アイヌ文化振興・推進機構】at-petの解釈及び由来（昔オヒョウニレが多かった）。

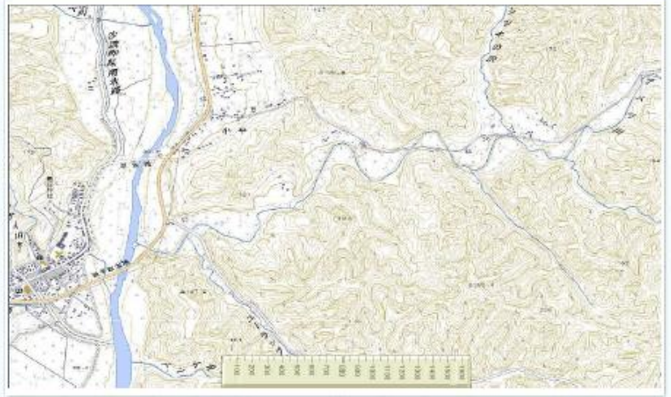
関連情報　●ウウェペケレ　■ウパシクマ　◆カムイユカラ　▲聞き取り情報（文献も含む）

▲アベツ川の出口は至る所沼だらけ。ガマは石狩まで行かなくても採れた時代だ。
〈IC20150323-6-001：鍋澤保さん聴き取り〉

明治29年陸地測量部・五万分の一地図



国土地理院25000分の1



現地の状況

現地撮影写真１

現地撮影写真２

現地撮影写真３

現地撮影写真４

文化的所産

小平～亜別川流域
カエデ、サワシバ、ノリウツギ（サビタ）、クワ、ヤナギ、ニセアカシアなどの樹木が生えている。ツル植物としてはマタタビが絡んでいる。南向き斜面の林床には、早春にはスミレが満開となる。シロツメクサ、オオバコ、オオアワダチソウ、エゾイラクサ、トクサ、オオウバユリ、アカツメクサ、ヒメジョオン、オオアワガエリ、フキ、ヨモギ、オオイタドリ、スギナ、ハエドクソウ、オカトラノオが生えている。ネバリノギクが多く、ユウゼンギクも路傍に生育している。セイタカアワダチソウ、ヨモギも生えている。亜別川河畔のあぜ道にはナギナタコウジュ、ヨシ、ヨモギ、ミヤコザサ、カモガヤが多く生えている。樹木ではモミジ、ベニイタヤが目だっている。春から初夏にかけて、毎年ミヤコザサが枯れ、そして、新しいササが伸びてくる。初夏にはニセアカシアの甘い香りを放ちながら白い花を咲かせ、カンボクも白い花を咲かせる。路上傍は目立たないがカモガヤが咲いている。このころはカモガヤの花粉によってアレルギーを起こし、花粉症で悩む人も多い。【2003年発行「平取町百年史」P56　平取町】

現地状況・見解

現地状況・見解
この沢の上流300m付近では、３-（２）伝統的漁法に関する調査で、シペ（シロザケ）の特別採捕を毎年実施している。
この川は、シペの産卵場所が確認されています。
現地撮影写真３は、新平取大橋の袂の敷地（沙流川左岸kp15.6～16.0の区間）の沿った河川管理地内に、約2haのｽﾌﾟｷ育成試験地をもうけ、栽培試験を行っている様子です（平成26年5月選定）＊詳しくは、６-栽培実験の継続に関する調査の報告を参照ください。
28年度も、目視及び写真撮影による記録を実施。
現地撮影写真４はシペ（シロザケ）の遡上している状況です（2016年10月19日撮影）＊詳しくは、２-（２）生活文化現地調査伝統的漁法についての調査の報告を参照ください。

C．沙流川河道掘削予定箇所現地調査

ア）調査事前検討

この調査において基本となる調査手順、方法等を図示しました。

現地踏査

苫小牧河川事務所の方々と今年度行う調査箇所を現地で確認（４月中旬）

①調査箇所確認

調査箇所地図準備

苫小牧河川事務所から提供された地図データを基に、今年度の調査箇所に必要な部分を抜き出し、現地調査や報告書作成時に利用する。

杭打ち作業

調査範囲内のキロポスト表示毎に測点杭を打つ。表示プレートを付け、見通しが悪い場合は、目印用のテープを杭や付近の木の枝等に長めに付ける。（４月中旬～下旬）

②調査箇所杭打ち、目印付け

杭打ち事前準備

調査ポイントの目印となるキロポスト表示に準じ、その表示のプレートを作成する。その際に夏期、冬期に目立つ色にする。目印として、杭等に付けるテープの在庫を確認、購入等の準備をする。

春期現地踏査

苫小牧河川事務所から提供された「河川環境情報図」を基に、調査範囲内の植生調査を行う。「河川環境情報図」と現状の比較を記録する。下草等の植生状況を把握、記録する。（５月上～中旬）

③現地踏査

＊聴き取り・地名踏査含む。

現地踏査事前準備・現地踏査とりまとめ

河川環境情報図を基に、植生の変化について調査を行う。

図面に記録、カメラで記録する人に分け、記録に漏れがないように留意する。図面に記録する人は、植生や地形をスケッチし、メモなどで記録する。カメラで記録する人は、特徴的な部分、データ整理時に参考となるような部分、作業状況などを記

夏期現地踏査

調査範囲内からアイヌ文化にとって有用性のある特徴的な部分の断面図作成のための調査を行う。（７月）

④現地踏査

現地踏査事前準備・現地踏査とりまとめ

断面図作成ポイントの計測を行い、専門家を交えた植生調査を実施する。

秋期現地踏査

主に、断面図の作成ポイント箇所の植生の変化や、周辺の記録をとる。（10 月）

⑤現地踏査

現地踏査事前準備・現地踏査とりまとめ

主に植生断面調査箇所を行なった箇所の、秋の周辺様子や植生の調査を行う。

四季の様子を意識した記録撮影を行う。

冬期現地踏査

主に、断面図の作成ポイント箇所の冬の様子の記録をとる。（２月）

⑥現地踏査

現地踏査事前準備・現地踏査とりまとめ

主に植生断面調査箇所を行なった箇所の、冬の周辺様子や植生の調査を行う。

調査の振り返りとして、記録したものを基にチーム、専門家を交え協議をする。その後、一覧表にポイント毎の植生や現地状況写真を整理し、まとめる。その表を基に断面図を作成する。

⑦報告書作成

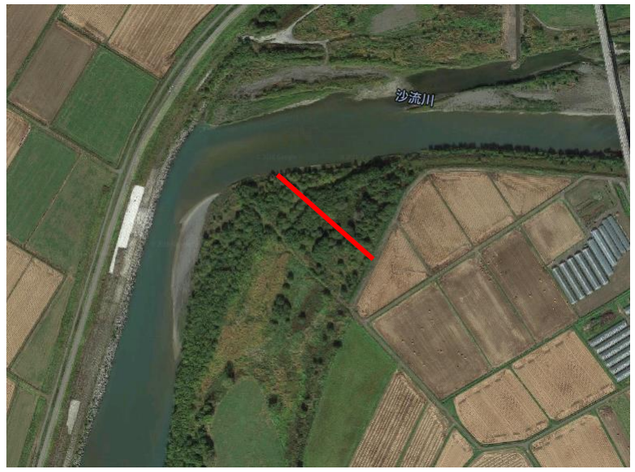
調査とりまとめ

報告書の作成時には、記録したものを基にチーム、専門家を交え協議をする。

注-1）赤枠で囲んだ部分はチームでの作業
注-2）橙色部分については専門家を交えての作業

②左岸 kp12.0 の植生断面図

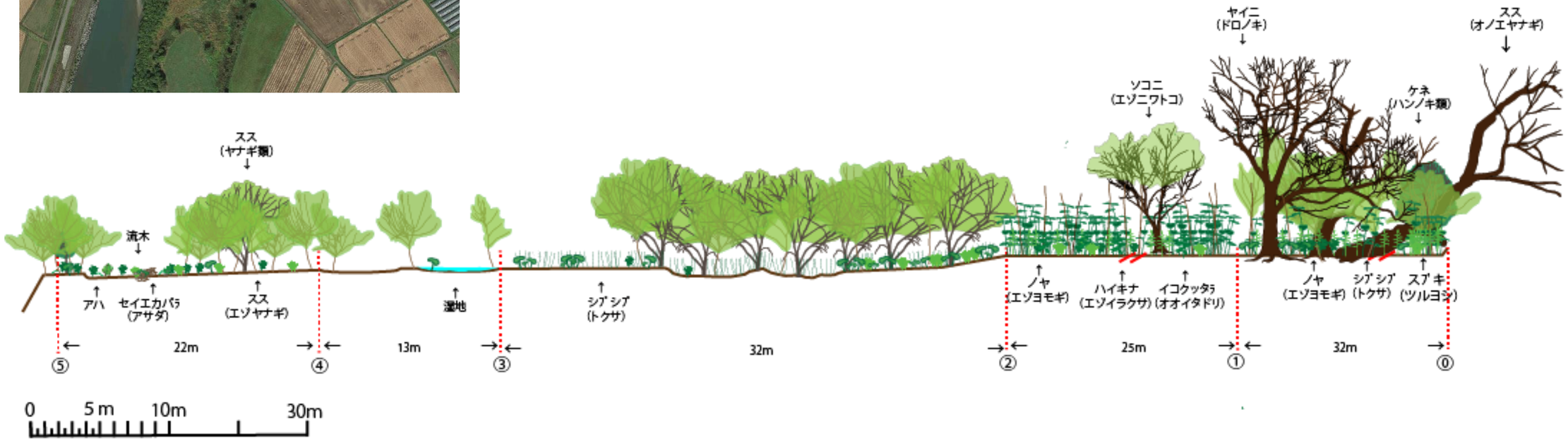
夏期調査として、沙流川左岸 kp12.0 において植生断面図を作成するための調査を実施しました。築堤から、川原までの距離は 124mにおよびました。調査の詳細につきましては、①左岸 kp12.0 の植生断面調査状況を参照してください。また、アイヌ文化に関わる有用性については下段の表を参照して下さい。



オジロワシ確認
6月3日

2016年7月11日撮影
オジロワシのつがい

2017年3月1日撮影
ドロノキに止まる
オオワシとオジロワシ



川原	④-⑤		
ススキ/オオバヤナギ→種子が裂開、綿毛が付いているものもあった。 アハ/ツチマメ、ノヤ/オオヨモギ 【帰化植物】ムシトリナデシコ、コゴメハギ、ヒメムカシヨモギ、コオゾリナ、ツルマメ、ナガバギシギシ、オオアワダチソウ	【帰化植物】セイヨウノコギリソウ、オオアワダチソウ、湿生植物（セリ・ビロードスゲ）、クサヨシ、ヌマイチゴツナギ、ミント		
コチドリ（S）、カワラバッタ、アライグマ（足跡） モユク/タヌキ（足跡）、ユク/エゾシカ（足跡）	シチカプ/オジロワシ（つがい）		
・オオバヤナギは石っころの所に生える。 ・泥が溜まる所にはナガバヤナギ、エゾノキヌヤナギ ・イナウネニに利用できそうなススがある	・オオアワダチソウは腰高 ・全体的にエゾヤナギ		

キ）秋期調査

①左岸 kp12.0 周辺の様子

10 月 25、26 日、専門家の方と合同調査を行ないました。主には断面調査を行なったポイント周辺の状況確認を行ないましたが、台風の被害を受け、夏までに確認した草本類のほとんどが確認できませんでした。

◎左岸 kp12.0 付近のまとめ

<table>
<tr><th colspan="4">断面ポイント⓪～　までの様子</th></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>本流の流入により、なぎ倒されたシキ。</td><td>下流方向に倒されたシキとシチカﾟの止まるヤイニ(中央)。</td><td colspan="2">土砂が堆積し、砂州は大きく広がり、川岸から林までは緩やかな陸になっていた。</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>対岸から見た様子。台風前よりも砂州が大きく張り出している。</td><td>川岸が削られ、崖状になっていた。</td><td>林床の植物は泥に埋まり、細かい流木等が立ち木に絡まっている。</td><td>土砂が堆積した林床からはｺﾛｺﾛニ、ｿﾛﾏ、ｼﾌﾟｼﾌﾟが再生していた。</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">ｿﾛﾏの葉と胞子葉(真ん中)。葉は枯れ、胞子葉だけが残るのが通常のようだが、今年はこのような現象が各調査箇所でも見られた。</td><td></td></tr>
</table>

◎確認した動物や痕跡

／オオサギ	ウリリ・フリリ／ウミウ	カピウ／オオセグロカモメ	モユｸ／タヌキ（足跡）	ワトッタカムイ／トビ
―／アラグマ（足跡）	チロンヌﾌﾟ／キツネ（糞）	オチューチリ（オチウチリ）／ハクセキレイ	―／ホオジロ	ユｸ／エゾシカ（足跡）

ク）冬期調査

2017 年２月 28 日、３月１日、専門家の方と合同調査を行ないました。主には断面調査を行なったポイント周辺の冬の現地状況を確認しました。

◎各ポイント調査のまとめ

<table>
<tr><th colspan="5">右岸 KP12.0 付近</th></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>川原の様子。</td><td>川側の断面調査箇所の様子。</td><td>ｿﾛﾏの様子。</td><td>折れた枝から再生した新たな枝は、節が少なくイナウネニに適している。</td><td>下段一番左の写真を林内から見た様子。</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>山側から川方向を見た断面調査箇所の様子。</td><td>ススキ（オオバヤナギ）</td><td>ススキ（キヌヤナギ）
枝先にはネコヤナギが付いている。</td><td>ススキ（エゾヤナギ）
枝先にはネコヤナギが付いている。</td><td>ケネ（ハンノキ）の雄花、果実の様子。</td></tr>
</table>

◎確認した動物の一覧　　FL＝飛翔　Ｖ＝視認　Ｓ＝さえずり　Ａ＝アダルト（成鳥）　Ｊ＝ジュニア（幼鳥）

ｼﾁｶﾌﾟ/オジロワシ<FL>　Ａ２羽　Ｊ１羽	ｶﾊﾟｯﾁﾘ/ハイタカ<FL>　※未同定	ｵﾁｳﾁﾘ/ハクセキレイ<FL>	ﾕｸ/エゾシカ（足跡）
ﾁﾛﾝﾇﾌﾟ/キツネ（足跡）	ﾁﾛﾝﾇﾌﾟ/キツネ<Ｖ>	ﾚﾀｯﾁﾘ/オオハクチョウ<Ｖ>	ﾁｶﾌﾟ/ツグミ<FL>
ｺﾒﾁﾘ/カワアイサ<FL>	ﾁｶﾌﾟ/コゲラ<Ｓ>	ｶﾗﾗｸ・ｶﾗﾗｸﾄﾉ/ハシボソガラス<FL>	ﾁｶﾌﾟ/ベニヒワ<FL>
ﾁｶﾌﾟ/ホオジロガモ<FL>	ﾓﾕｸ/タヌキ（足跡）	ｷｷﾘ/セッケイカワゲラ	

ドロノキに止まるシチカﾌﾟ、カパッチﾘ

凍った川面を渡るチロンヌﾌﾟ

レタッチﾘ

モユｸかアライグマの足跡

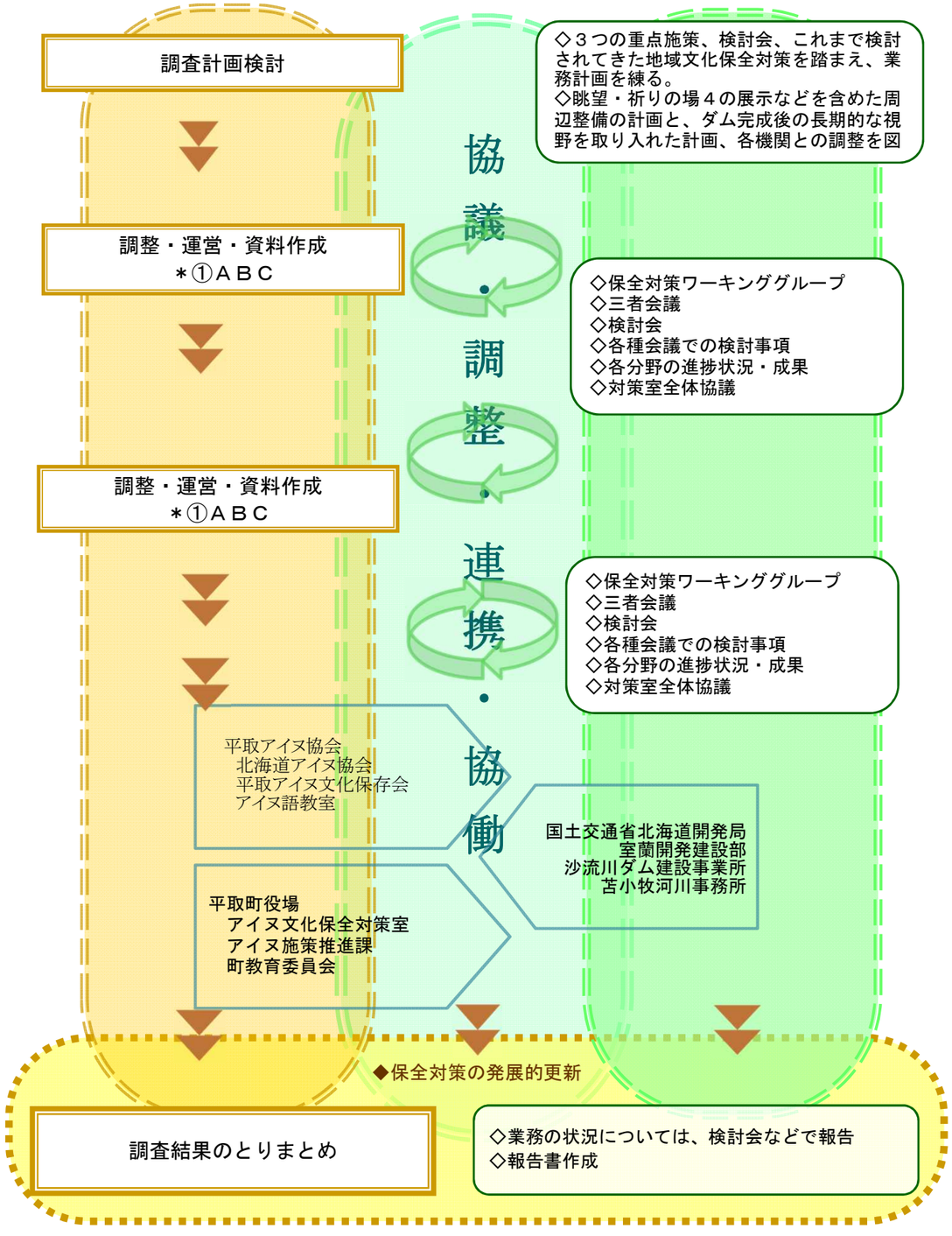
キキﾘ（セッケイカワゲラ）

事業名	2016(平成28)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**8 - アイヌ文化保全対策の実施に向けた調整・整理**
目的／課題 ※1 〈注〉※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆地域文化保全対策検討会で示された保全対策の実施にあたり、関係機関との協議に向けた必要な調整を行うとともに、１～７の項目に係る展示等に向けて必要な資料作成を行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	①　地域文化保全対策検討会で示された保全対策の実施にあたり、関係機関との協議に向けた必要な調整を行うとともに、１～７の項目に係る展示等に向けて必要な資料作成を行う。
想定する成果 （状況/物品）	＊〇内の数字、記号は上の欄に対応 ①⇒　A:ワーキンググループの運営と資料作成 B:展示についての資料作成 C:A／Bの作業その他、保全対策の具現化のための調整・整理作業
年間作業工程 （行程）概要	業務項目 / 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 ◆調査計画検討 ① A:WG関係 B:展示関係 C:調整・整理 ◆【調査結果とりまとめ】　検討会などにおける報告　報告書作成 ワーキング／検討会／勉強会　〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・〇副担当	◎吉原秀喜　〇長野　環　　山本　雄 ／ 木村真奈美／久保拓史／萱野公裕
補佐	◇佐藤和三 ／ 貝澤耕一
今年度 重点事項	★3つの重点施策をはじめ、これまで検討されてきた地域文化保全対策の具現化を推進する。アイヌ協会をはじめとする関係者の協働を深めながらカタチにしていく。

■8-アイヌ文化保全対策の実施に向けた計画基本フロー

＊〇内の数字，記号はページ左の業務項目の番号に対応

【想定する成果の重点】
★3つの重点施策をはじめ、これまで検討されてきた地域文化保全対策の具現化を推進する。アイヌ協会をはじめとする関係者の協働を深めながらカタチにしていく。



8 - アイヌ文化保全対策の実施に向けた整理・調整　～この分野の作業概況～

０１◆保全対策ワーキンググループの会議

０２◆保全対策ＷＧ展示設計の検討作業

０３◆展示施設の参考事例視察（道東10施設・北斗遺跡）

０４◆展示施設の参考事例視察（つべつ木材工芸館）

０５◆21世紀アイヌ文化伝承の森事業協力（苗木提供）

０６◆対策室全体協議（ほぼ毎週の定例）

０７◆眺望祈りの場４の設計に向けたチセの見学

０８◆現地ＷＧ（建設現場の状況確認）

０９◆保全対策ＷＧに向けた展示についての打ち合わせ

１０◆重要文化的景観追加選定に向けた調査への協力

１１◆植物保全３５区域の整備方針を検討・協議

１２◆どさんこ馬を使ったトレイル（旅路）開発試行

H28年度
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝今年度重点課題

A◆＝地域文化保全対策検討会で示された保全対策の実施にあたり、関係機関との協議に向けた必要な調整を行うとともに、１～7の項目に係る展示等に向けて必要な資料作成を行う。

B◆＝①地域文化保全対策検討会で示された保全対策の実施にあたり、関係機関との協議に向けた必要な調整を行うとともに、１～7の項目に係る展示等に向けて必要な資料作成を行う。

C◆＝★3つの重点施策をはじめ、これまで検討されてきた地域文化保全対策の具現化を推進する。アイヌ協会をはじめとする関係者の協働を深めながらカタチにしていく。